

秋田厚生医療センター一年報

Annual Report of Akita Kousei Medical Center

No. 25



第25号・1-12

秋 厚 医 七 年 報

Akita Kousei Medical Hosp.

目

次

巻頭言 院長 遠藤和彦…………… 1

各科紹介

循環器内科……………	3
消化器内科……………	4
腎臓内科……………	7
糖尿病・代謝内科……………	9
血液内科……………	10
小児科……………	13
小児外科……………	15
外科……………	17
整形外科……………	21
脳神経外科……………	25
産婦人科……………	26
泌尿器科……………	27
眼科……………	29
麻酔科……………	31
呼吸器内科……………	32
耳鼻咽喉科……………	35
病理診断科……………	37
救急総合診療部……………	38
放射線科・放射線治療科……………	40
薬剤科……………	47
臨床検査科……………	53
リハビリテーション科……………	59
栄養科……………	63
臨床工学科……………	66
保健福祉活動室……………	70
医療安全対策室……………	75
感染管理室……………	77
医事課……………	81
診療記録管理室……………	82
訪問看護ステーション……………	89
秋田県厚生連あきた指定居宅介護 支援事業所……………	90
臨床研修管理委員会……………	91

総合診療・ 家庭医研修センター……………	96
内科専門研修プログラム……………	99

地域連携センター

地域医療連携室……………	101
医療福祉相談室……………	104
入退院支援（入院支援）……………	109
入退院支援（退院支援）……………	110

看護部門

看護部……………	113
認定看護師	
〈感染管理〉……………	122
〈緩和ケア〉……………	125
〈がん化学療法看護〉……………	127
〈皮膚・排泄ケア〉……………	130
〈慢性呼吸器疾患看護〉……………	131
〈慢性心不全看護〉……………	132

病院の概況…………… 135

2021年 年間の歩み…………… 137

病院統計…………… 139

編集後記…………… 141

巻 頭 言

院 長 遠 藤 和 彦



2019年から始まった新型コロナウイルス感染症（COVID-19）も2年半が経過し、この原稿を書いている現在は第7波の真ただ中で、もはや新型とは言えない時期になってきました。感染者も全国で連日20万人を超える日が続く中、With コロナが叫ばれ、人々の行動制限が解かれ、経済活動が再開されました。今年春の大型連休や夏休み、お盆はどこもかしこも人出でにぎわいました。3年ぶりに秋田の竿灯まつりをはじめとした地元の土崎港まつりも開催され、県外に出ていた人たちが久しぶりの里帰りや身内や友人との再会を楽しみました。9月に入り学校の新学期が始まりました。このような悦ばしい状況の中で医療現場は大変なことになっています。コロナ担当のスタッフは多忙を極め、精神的なストレスはもはや限界に至っています。家族内感染による感染や濃厚接触者に該当するための隔離で病院の職員が次々と欠けて、病院が機能不全に陥っています。また秋田市内の複数の病院にクラスターが発生し、診療制限がかかり、通常診療にも多大な影響が出ています。政府は第7波が収まったら感染症の2類から5類への見直しを検討すると言っています。現行の医療保険制度のまま5類に下げれば、高額な検査費用や治療費は3割の自己負担になり、人によっては症状があっても受診を控えることになり、益々感染は拡大する恐れがあります。

コロナの全数把握も見直し、定点把握に切り替えると言っています。これは行政や医療者のHAR-SYSへの負担を軽くするためとのことです。感染の拡大を抑え、患者さんを減らすことで医療者の負担を減らすことが、本当の意味での負担を軽減することではないでしょうか？今の政府がすることは、どこか方向性が違うというか迷走しているように思えてなりません。今年の冬はインフルエンザが3年ぶりに大流行するともいわれています。オミクロン株BA5の後にはケンタウロス（BA2.75）もサル痘も控えています。今後も引き続き感染症に関しては決して油断ができない状況にあることは間違いありません。この数年、暗い『巻頭言』が続いていますが、それとは別にこの病院年報は1年間、病院の職員が汗をかきながら育んできた貴重な業績の記録であります。

今回多忙な日常業務の中にありながら、寄稿して下さった職員をはじめ、編集にご尽力をいただいた年報・広報委員会の皆様に深甚なる敬意と謝意を表し『巻頭言』とさせていただきます。

各 科 紹 介

循環器内科

【スタッフ】

田村 芳一 (副院長)

1981年 北海道大学卒 医学博士
日本内科学会認定内科医・指導医
日本循環器学会認定専門医・指導医

松岡 悟 (診療部長)

1986年 秋田大学卒 医学博士
日本内科学会認定内科専門医・指導医
日本循環器学会認定専門医・指導医
日本心臓リハビリテーション学会認定医

阿部 元 (診療部長)

1993年 秋田大学卒 医学博士
日本内科学会認定内科医・指導医
日本循環器学会認定専門医
日本心血管インターベンション治療学会認定専門医・指導医

庄司 亮 (診療部長)

1997年 秋田大学卒 医学博士
日本内科学会認定専門医・指導医
日本循環器学会認定専門医
日本心血管インターベンション治療学会認定医
日本心臓リハビリテーション学会認定指導士

鈴木 暢容 (医員)

2019年 秋田大学卒
在籍期間：2021年4月～2021年9月

若林 飛友 (医員)

2016年 秋田大学卒
在籍期間：2021年10月～2022年3月

齊藤 崇 (非常勤嘱託)

1979年 秋田大学卒 医学博士
日本内科学会認定内科医・指導医
日本循環器学会認定専門医・指導医
日本臨床薬理学会認定専門医・指導医

【診療実績】

心カテ (診断のみ)	144件
経皮的冠動脈形成術	76件
経皮的血管形成術	5件
ペースメーカー移植術	70件
カテーテルアブレーション	38件
心臓リハビリテーション	221名

【学会発表】

急性冠症候群回復期リハビリにおける禁煙の運動耐容能に及ぼす効果 ○松岡 悟 1、庄司 亮 1、阿部 元 1、田村 芳一 1、齊藤 崇 1、高橋 藍 2、阿部 隼平 2、渡邊 瑞穂 2、佐藤 奈菜子 2、大高 みゆき 3、佐藤 学 3、熊谷 洋子 3、柳澤 宗 4、渡邊 博之 5

1 秋田厚生医療センター循環器内科、2 秋田厚生医療センターリハビリテーション科、3 秋田厚生医療センター看護部、4 アーク循環器クリニック、5 秋田大学循環器内科学

第27回日本心臓リハビリテーション学会学術集会 (2021年6月)

【論文投稿】

急性冠症候群回復期リハビリテーションにおける脂質プロファイルと運動耐容能との関係
松岡悟*, 庄司亮*, 阿部元*, 田村芳一*, 齊藤崇*
* 秋田厚生医療センター循環器内科
日本農村医学会雑誌 70(5): 437-447, 2022.1

消化器内科

2021 年実績

【スタッフ】(2021 年 4 月現在)

渡部 博之 (診療部長)
星野 孝男 (診療部長)
藤井 公生 (科長)
津田 栄彦 (科長)
高木 康彦 (科長)
小林 芳生 (科長)
田村 知大 (科長)
渋谷 健吾 (科長)
横山 悠 (医員)
小板橋祐也 (医員)
沢口 碩基 (医員)
小林 直大 (後期研修医)
榊 耕太郎 (後期研修医)

日本消化器病学会 認定指導施設
日本消化器内視鏡学会 認定指導施設
日本消化管学会 胃腸科指導施設
日本肝臓学会 教育関連施設

2021 年 4 月から、横山悠先生が着任された。榊耕太郎先生が、初期研修医から内科専門医研修後期研修として消化器内科に所属し 13 名体制での診療となった。2021 年 8 月田村知大先生が、開業のため退職された。2022 年 3 月高木康彦先生が、開業のため退職された。

他の厚生連病院（雄勝中央病院、由利組合総合病院、湖東厚生病院）への診療応援は継続して行っている。学会活動は、新型コロナウイルス感染症の対策を講じつつ、Web などを利用して少しずつ再開している。

〈発表、座長など〉

2021/2/6 第 210 回日本消化器病学会東北支部例会

「隣疾患が関連したと思われた胃蜂窩織炎の 2 例」

秋田厚生医療センター 消化器内科 伊藤知輝、星野孝男、小板橋祐也、藤井公生、津田栄彦、小林芳生、高木康彦、田村知大、渋谷健吾、小林直大、渡部博之

2021/3/9 AKITA Digestive Disease web Seminar

「当科における硬化性胆管炎診療の現状」

秋田厚生医療センター 消化器内科 津田 栄彦

2021/5 日本超音波医学会第 94 回学術集会（神戸）

「門脈ガスを認めた急性胆管炎の 1 例」

大山 葉子 (秋田厚生医療センター 臨床検査科), 石田 秀明, 長沼 裕子, 星野 孝男, 田村 知大, 渡部 博之, 佐藤 佳澄, 作佐部 大, 三浦 百子, 紺野 純子

- 2021/7/2 中外 HCC WEB セミナー
「新時代を迎えた肝細胞癌薬物治療」
演者：秋田厚生医療センター 消化器内科 星野孝男
- 2021/7/3 第 166 回日本消化器内視鏡学会東北支部例会
「抗凝固薬の内服開始を契機に出血を来した小腸多発血管腫の一例」
秋田厚生医療センター 消化器内科 小林 直大, 沢口 碩基, 榊 耕太郎, 小坂橋 祐也, 横山 悠, 渋谷 健吾, 田村 知大, 高木 康彦, 小林 芳生, 津田 栄彦, 藤井 公生, 星野 孝男, 渡部 博之
- 2021/7/3 第 166 回日本消化器内視鏡学会東北支部例会
「内視鏡的止血困難な出血性胃潰瘍に対し IVR 移行のタイミングを考えさせられた一例」
秋田厚生医療センター 消化器内科 榊 耕太郎, 渡部 博之, 星野 孝男, 藤井 公生, 田村 知大
- 2021/8/26 KOWA Web Conference 今見直される中性脂肪マネジメント
座長：秋田厚生医療センター 消化器内科 星野孝男
「脂質代謝・糖代謝と NASH/NAFLD」
演者：くらみつ内科クリニック院長 倉光智之先生
- 2021/9/10 第 7 回秋田県胆膵内視鏡懇話会
「プレカットについて」
秋田厚生医療センター 消化器内科 津田 栄彦
- 2021/9/19 日本超音波医学会第 62 回東北地方会学術集会
「門脈浸潤を伴った膵悪性神経内分泌腫瘍 (NEC) の二例」
大山葉子、石田秀明、長沼裕子、星野孝男、津田栄彦、三浦百子、紺野純子、草皆千春、高橋律子、泉田麻愛
- 2021/9/19 日本超音波医学会第 62 回東北地方会学術集会
「胆嚢結腸瘻の一例」
三浦優衣、石田秀明、長沼裕子、星野孝男、小林直大、渡部博之、長岐雄志、齊藤礼次郎、大山葉子、三浦百子
- 2021/9/26 第 16 回秋田県透析セミナー (秋田赤十字病院多目的ホール、Web 併設)
特別講演 1 最新の C 型肝炎治療～血液透析患者に対する対応を含めて～
座長：秋田県立循環器・脳脊髄センター 臨床工学部技師長 佐藤 賢行 先生
演者：秋田厚生医療センター消化器内科 星野 孝男
- 2021/10/2 AKITA ELIMINATION LEADERS CONFERENCE (秋田市にぎわい交流館 AU、Web 併設)
院内連携セッション
座長 秋田大学消化器内科学・神経内科学講座 准教授 後藤 隆先生
講演 2 C 型肝炎治療と医療安全の関わり
秋田厚生医療センター 星野 孝男
- 2021/10/8 リフキシマ WEB 講演会
一般講演 I II 座長 秋田厚生医療センター消化器内科 診療部長 星野孝男
- 2021/12/5 第 34 回秋田県肝胆膵癌研究会
「膵癌早期診断を目指した当院の地域連携」
秋田厚生医療センター 消化器内科 津田 栄彦

年報

集計対象期間： 2021年

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
GIF合計	256	235	306	320	278	311	314	128	287	381	334	318	3468
GIF観察のみ	158	153	187	196	160	183	200	82	187	269	232	207	2214
生検	76	58	89	93	87	98	87	34	80	85	80	86	953
食道ESD	0	1	1	3	2	2	3	1	1	1	1	1	17
胃ESD	7	6	6	8	8	9	2	2	3	7	8	8	74
十二指腸ESD	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
EMR/ポリペク	0	0	1	0	0	1	0	1	0	0	0	0	3
PEG/PEG交換（透視下含む）	5	0	5	4	3	6	4	3	2	1	2	1	36
止血術	9	5	7	14	11	8	14	5	5	10	6	8	102
迅速ウレアーゼ試験	1	0	0	1	0	0	0	0	0	3	0	0	5
異物摘出術	0	3	3	1	1	1	0	1	0	2	2	1	15
上部拡張術（透視下含む）	0	1	1	1	2	0	0	0	0	2	2	0	9
EVL	0	3	1	0	0	0	1	0	1	2	1	0	9
EIS（透視下含む）	0	2	1	0	2	1	0	0	0	0	0	0	6
プローブ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
APC（治療目的）	0	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0	3	6
ステント留置術	0	1	1	0	0	1	1	0	2	0	0	0	6
N-Gチューブ挿入	0	0	1	0	0	0	0	0	1	1	0	1	4
透視下検査その他（上部）	2	2	1	1	3	2	2	1	4	3	1	3	25
ドックGIF合計	233	221	183	245	215	280	252	106	240	327	286	301	2889
ドックGIF観察のみ	207	201	162	222	193	261	227	96	227	306	265	271	2638
ドックGIF生検	26	20	21	22	22	19	24	10	13	20	21	29	247
ドックGIFウレアーゼ試験	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ドックSF合計	50	36	45	31	30	49	47	20	49	56	50	52	515
SF合計	28	32	30	29	27	18	19	5	15	18	18	25	264
SF観察のみ	18	22	19	19	13	11	7	3	8	13	9	15	157
生検	5	4	3	5	10	5	7	0	4	1	5	4	53
止血術	1	3	4	2	2	2	5	1	3	2	2	3	30
SF異物除去	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SFその他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2
透視下SF	5	1	2	0	3	0	1	0	0	2	0	0	14
CF合計	158	156	178	194	171	194	180	75	153	195	181	185	2020
CF観察のみ	83	77	111	118	99	117	102	42	77	117	102	102	1147
生検	7	16	10	17	12	12	11	7	12	7	18	8	137
ESD	4	5	5	2	4	6	2	2	2	4	4	2	42
EMR/ポリペク	60	55	50	54	50	52	52	21	49	53	58	67	621
止血術	1	0	1	1	0	1	4	1	2	2	1	0	14
APC（治療目的）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
下部拡張術	0	2	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	4
ステント留置術	1	3	0	2	2	1	5	1	2	2	4	1	24
プローブ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
下部異物摘出術	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
透視下検査その他（下部）	10	5	8	9	10	7	8	3	10	8	6	7	91
EUS合計	5	11	13	6	9	9	5	4	7	5	5	9	88
上部EUS	4	5	8	3	5	7	3	1	4	2	3	2	47
大腸EUS	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
EUS-FNA	1	3	1	2	4	2	2	3	2	2	2	7	31
EUS-CD	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
EUS-BD	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
透視下検査その他(EUS)	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
ERCP合計	25	33	37	35	31	29	33	10	20	34	36	27	350
ERCP（造影のみ）	1	3	1	0	1	0	6	1	1	0	0	0	14
ERCP（排石）	6	6	3	4	3	5	8	1	4	8	9	3	60
EST	0	3	2	3	0	1	1	0	2	1	4	1	18
EST（排石）	8	7	7	11	6	9	6	4	4	10	8	7	87
EST+ERBD	1	4	3	4	2	2	3	0	1	3	5	3	31
EST+ENBD	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	2
EST+ERBD+ENBD	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	2
ERBD	9	8	12	10	6	9	3	2	4	6	4	5	78
ENBD	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	2	4
ERBD+ENBD	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
IDUS+ERBD	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	3
IDUS+ERCP	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	2
IDUS+EST+ERCP	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2
IDUS+EST+ERBD	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
DBE+ERCP	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
胆道メタリックスステント挿入	0	1	5	3	7	2	3	0	2	2	6	1	32
透視下検査その他（ERCP）/乳頭切除+ERBD	3	5	1	2	4	2	3	0	3	2	1	3	29
Spy Glass	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
イレウスチューブ挿入	0	3	4	0	1	0	1	0	2	1	1	1	14
ダブルバルーン内視鏡	0	2	0	1	0	0	0	0	1	0	0	1	5
BF合計	10	12	13	10	15	9	13	4	10	13	9	8	126
EBUS-TBNA	2	3	1	3	4	1	3	1	3	4	2	3	30
EBUS-GS	1	0	0	0	1	1	0	0	0	3	4	3	13
総検査数	765	741	809	871	777	899	864	352	784	1030	920	927	9739

腎 臓 内 科

【スタッフ紹介】

大谷 浩：診療部長、秋田大卒（日本内科学会専門医、日本腎臓学会専門医・指導医、日本透析医学会専門医）

後藤博之：診療部長、秋田大卒（日本内科学会専門医）

多田光範：診療科長、秋田大卒

小澤政豊：診療科長、秋田大卒（日本内科学会専門医、日本腎臓学会専門医）

【主な業務】

腎内科では主に外来、病棟の腎疾患患者の診療のほかに、透析センター業務を行っている。腎内科外来は、火、水、木、金曜の午後に外来を行っており、腎炎から糖尿病性腎症、腎硬化症を含め腎疾患全般に関して診療している。入院業務に関しては、腎炎、腎不全などの腎疾患全般、血液透析を含めた血液浄化療法および関節リウマチを代表とする膠原病とくに腎疾患合併例の診療にあたっている。また必要に応じて腎生検を施行し、2021年度の実績を表1に示す。昨年につき、腎性件数の増加を認めており、MPO-ANCA 関連腎炎の増加がめだった。透析関連では、透析新規導入者はほぼ全員に内シャント造設術を行っており、再建術も合わせると、表2のごとく例年年間40件前後行っているが、近年、高齢透析導入者の増加に伴い、長期留置型カテーテルによる維持透析数も増加傾向である。透析センターでは、表3に示すように、約53名前後の日中の維持透析患者および24名前後の夜間維持透析患者の管理を行っており、当院での全維持透析患者数は130名前後である。また、表には示されていないが、エンドトキシン吸着、CHDF、on line HDFや、間欠型HDFを導入しており、コンソールの更新に従い、同療法の恩恵を受け得る患者様の人数も徐々に増加してきている。また、内シャント狭窄、閉塞に対して、内シャント血管造影、経皮的血管形成術（PTA）を施行しているが、2021年度は表4に示すごとく、91件であった。

【主な業績】

学会発表・講演会

- 1) 大谷 浩 尿蛋白と血尿について。 湯沢市、2021年6月
- 2) 小澤政豊、大谷 浩、後藤博之、金澤達郎。黄色ブドウ球菌による骨髄炎罹患後に急性腎不全を併発した1例。秋田腎不全研究会、秋田、2021年11月

投稿論文

- 1) M Ozawa, H Ohtani, A Komatsuda, H Wakui, N Takahasi: VEGF-VEGFR2 inhibitor-associated hyaline occlusive glomerular microangiopathy: a Japanese single-center experience. Clin Exp Nephrol 25: 1193-1202, 2021.

表1 腎生検診断と症例数

	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
微小変化型ネフローゼ症候群	0	0	1	0	4
微小変化群	0	0	2	3	1
IgA腎症	4	0	2	15	8
メサンギウム増殖性腎炎	0	0	0	1	0
膜性腎症	3	5	3	4	3
膜性増殖性糸球体腎炎	0	0	0	1	1
巣状糸球体硬化症	1	1	1	1	3
半月体形成性腎炎	2	5	2	5	3
糖尿病性腎症	0	1	2	5	3
管内増殖性腎炎	0	1	1	0	0
良性腎硬化症	0	1	2	3	3
悪性高血圧	0	0	0	0	0
間質性腎炎	0	1	0	3	2
ループス腎炎	1	1	0	1	1
骨髄腫腎、アミロイドなど	0	1	1	2	2
急性尿細管壊死	0	0	0	0	0
血栓性微小血管症	0	0	1	0	0
血管内悪性リンパ腫	0	1	0	0	0
IgG4関連腎症	1	0	0	0	0
感染関連腎症	0	1	0	0	2
非薄基底膜病	0	0	0	0	1
分類不能	0	0	0	1	0
合計	12	19	18	44	36

表2 内シャント作成件数

2017年	58件
2018年	39件
2019年	53件
2020年	48件
2021年	41件

表3 透析患者数内訳

	2017年		2018年		2019年		2020年		2021年	
	日中平均 (人/日)	夜間平均 (人/日)								
4月	58.2	20.6	59.8	22.8	51.4	25.9	57.1	23.5	52.8	23.6
5月	59	22	58.4	23.7	51	26.4	57.1	23.5	51.1	24.2
6月	59.1	22.8	57.5	24.3	48.2	26.4	57.2	22.6	53	23.6
7月	69.2	28.6	57.2	24.3	51.3	26.2	58	21.9	55.1	22.3
8月	57	22.4	59.4	23.2	52.2	25.9	58	21.4	52.7	24.4
9月	56.8	24.1	59.5	23.1	50.9	26.7	57.5	21	50.3	22.5
10月	58.7	24	59.8	23.5	52.5	25.8	57.5	21	52.5	25.8
11月	58.4	24.5	58.9	25.1	52.2	24.6	59.2	21.5	53.4	23.9
12月	57.8	24.6	59	25.5	50.3	23.7	59.4	20.9	54.3	27
1月	58.2	24.6	60.3	25.4	53	23.5	58.7	21.6	51.4	22.9
2月	58.5	24.6	62.4	26.3	52.9	24.5	59.9	21.3	53.6	25.8
3月	55.4	24.4	60.1	26.1	49.7	23.8	59.9	22.4	54.9	24.4
平均	55.9	20.3	54	20.4	58.9	23.9	59.4	24.4	52.9	24.1

表4 内シャント経皮的血管形成術(PTA)症例数(血管造影含む)

2017年	70例
2018年	94例
2019年	96例
2020年	96例
2021年	91例

糖尿病・代謝内科

【スタッフ紹介】

下斗米孝之：診療部長，秋田大卒
（日本内科学会総合内科専門医・指導医，
日本糖尿病学会専門医・指導医）

高嶋 悟：科長，秋田大卒
（日本内科学会総合内科専門医，日本
糖尿病学会専門医・指導医，日本内分
泌学会専門医）

奈良藍子：医員，自治医科大卒
（日本内科学会総合内科専門医，日本
糖尿病学会専門医）

佐藤優洋：科長，秋田大卒
（日本糖尿病学会専門医）

【学会施設認定】

日本糖尿病学会認定教育施設

【診療の概要】

令和3年度は下斗米，高嶋，奈良，佐藤の4人体制で診療を行った。

入院・外来ともに2型糖尿病，糖尿病合併症管理を主体として，その他に1型糖尿病，下垂体疾患，甲状腺疾患，副甲状腺疾患，副腎疾患などの診療を行っている。

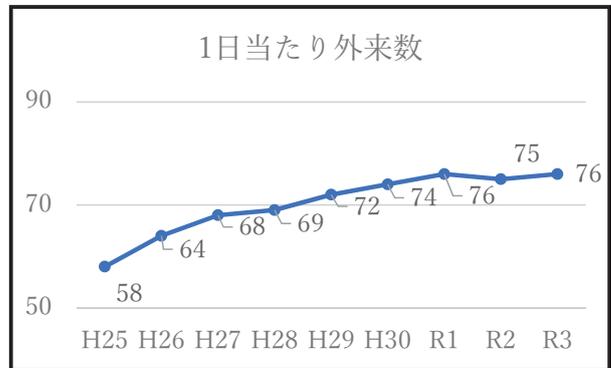
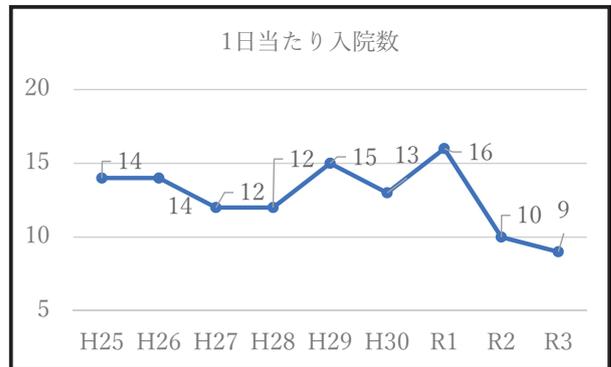
入院患者数は年間200人前後で最近数年間は横ばいで経過していたが，新型コロナ流行後は減少し，令和3年は141名であった。1日あたりの平均入院数は概ね10人前後で推移している。

一方，外来患者数は高齢化の進行，糖尿病患者数の増加の影響もあり，1日平均外来受診者数は平成25年の58人から令和3年は76人と増加傾向を示している。

・令和3年度の入院患者数 141名

疾患別の内訳

糖尿病	107名
低血糖症	3名
下垂体疾患	2名
甲状腺疾患	2名
副腎疾患	3名
感染症	18名



血液内科

2008年4月より、標榜科名を内科から血液膠原病内科に変更し（現在、血液内科）、3人体制で、診療を行っています。対象疾患は血液疾患、膠原病、関節リウマチ、膠原病類縁疾患、などが主なものです。

【スタッフ】

北林 淳 日本内科学会・総合内科専門医 日本血液学会指導医・専門医 ICD (Infection Control Doctor)
川端 良成 日本内科学会・総合内科専門医 日本血液学会指導医・専門医
道下 吉広 日本内科学会・総合内科専門医 日本血液学会指導医・専門医
日本輸血学会専門医

【診療内容】

1. 血液疾患

造血器腫瘍には、白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫などの血液疾患があり、当院では、3名の日本血液学会の血液専門医・指導医が中心となり、診療に携わり、当院は日本血液学会の研修施設に認定されています。

悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、再生不良性貧血、骨髄異形成症候群、血小板減少性紫斑病などの難治性血液疾患患者の診療にあたっています。

病棟内には無菌室が設置されており、個室3室、4人部屋4室があり、最高19名の無菌室での治療が可能であり、急性白血病の寛解導入療法時や、再生不良性貧血、骨髄異形成症候群の白血球減少時、また、秋田大学第三内科の御協力のもと、造血幹細胞移植も施行可能で、これまで、血縁者同種末梢血幹細胞移植、自家末梢血幹細胞移植を施行しています。

2. 膠原病、リウマチ疾患

治療抵抗性の関節リウマチに対して、生物学的製剤の投与を行っています。現在の投与中の生物学的製剤は、レミケード、エンブレル、アクテムラ、ヒュミラ、オレンシア、オレンシア、シムジア、ケブザラで、100名を超えています。最近ではJAK阻害剤投与症例も増加傾向で、約40名です。

生物学的製剤、JAK阻害剤の投与により、関節痛、こわばりの軽減、炎症反応の低下とともにADL（日常生活の活動性）の著明な改善が得られ、関節リウマチは寛解状態に近い患者さんも多くみられています。

【主な業績】

学会発表

1. GL/MYC再構成を有し、かつCD138の発現を伴うB細胞性リンパ芽球性白血病(Precursor B-lymphoblastic leukemia with IGL/MYC rearrangement and CD138 expression)(英語)
倉橋 保奈実(秋田大学 血液・腎臓・膠原病内科), 山下 鷹也, 北舘 明宏, 道下 吉広, 川端 良成, 北林 淳, 松本 奈津美, 齋藤 雅也, 小林 敬宏, 藤島 直仁, 亀岡 吉弘, 高橋 直人
日本血液学会学術集会 83回 Page OS3-10D-3(2021.09)

2. Bortezomib-EPOCH 併用療法にて完全寛解が得られた精巣原発 plasmablastic lymphoma の 1 例 (会議録 / 症例報告)
Author : 藤島 崇嗣 (秋田厚生医療センター 血液内科), 川端 良成, 道下 吉広, 北林 淳, 高橋 直人
Source : 臨床血液 (0485-1439)61 巻 11 号 Page1629(2020.11)
3. 当院における髄液検査の検討 (会議録)
渡辺 恵 (秋田厚生医療センター 臨床検査科), 工藤 敏郎, 高橋 珠美, 大山 葉子, 綿貫 勤, 北林 淳
秋田県農村医学会雑誌 (0002-368X)63-64 巻 Page110(2019.05)
4. 秋田県内の多施設調査による骨髓異形成症候群に対するアザシチジンの使用状況と安全性 / 有効性に関する検討 (Azacitidine safety and efficacy in Myelodysplastic syndrome: A multicenter survey in Akita)(英語)(会議録)
Author : 渡部 敦 (秋田大学 血液腎臓膠原病内科), 吉岡 智子, 伊藤 史子, 池田 翔, 郭 永梅, 奈良美保, 藤島 眞澄, 藤島 直仁, 市川 善一, 中山 豊, 川端 良成, 北林 淳, 桑山 明久, 小笠原 仁, 井上 武, 茂木 睦仁, 仁村 隆, 三田 亜紀子, 道下 吉広, 波多野 善明, 伊藤 貢, 黒木 淳, 手島 和明, 大八木 秀明, 久米 正晃, 野口 晋佐, 鶴生川 久美, 亀岡 吉弘, 高橋 直人
臨床血液 (0485-1439)59 巻 9 号 Page1780(2018.09)
5. 再発難治 CLL/SLL, MCL に対するイブルチニブの有効性と安全性 (The safety and efficacy of ibrutinib for relapsed/refractory MCL and CLL/SLL)(英語)(会議録)
Author: 亀岡 吉弘 (秋田大学 血液内科), 北林 淳, 鶴生川 久美, 野口 晋佐, 大八木 秀明, 茂木 睦仁, 川端 良成, 小笠原 仁, 黒木 淳, 仁村 隆, 高橋 直人
Source : 臨床血液 (0485-1439)59 巻 9 号 Page1602(2018.09)
6. MM に対する Ld 療法における至適な血漿 lenalidomide 濃度と NK 細胞機能 (The optimal plasma lenalidomide concentration and the function of NK cell in Ld therapy for MM)
Author : Kobayashi Takahiro(Hematol., Akita Univ.), Miura Masatomo, Niioka Takenori, Fujioka Yuki, Abumiya Maiko, Ohyagi Hideaki, Shinohara Yoshinori, Motegi Mutsuhito, Kuroki Jun, Nishinari Tamio, Kawabata Yoshinari, Kitabayashi Atsushi, Michishita Yoshihiro, Ikeda Sho, Shida Seiji, Yoshioka Tomoko, Nishikawa Hiroyoshi, Takahashi Naoto
臨床血液 (0485-1439)58 巻 9 号 Page1459(2017.09)
7. 腎生検で診断に至った血管内大細胞型 B 細胞リンパ腫 (IVLBCL)
伊藤 香里 (秋田大学 医学部血液膠原病内科), 北林 淳, 奈良 瑞穂, 奥山 慎, 涌井 秀樹, 小松田 敦, 高橋 直人
日本腎臓学会誌 (0385-2385)59 巻 6 号 Page868(2017.09)
8. 多発性骨髓腫において低酸素誘導性 microRNA-210 は癌促進性経路 DIMT1-IRF4 を制御する (Hypoxia inducible microRNA-210 regulates DIMT1-IRF4 oncogenetic axis in multiple myeloma)
Author : Ikeda Sho(Department of Hematology, Nephrology, and Rheumatology, Akita University), Kitadate Akihiro, Abe Fumito, Nara Miho, Michishita Yoshihiro, Hatano Yoshiaki, Kitabayashi Atsushi, Kawabata Yoshinari, Saito Hirobumi, Kume Masaaki, Takahashi Naoto, Tagawa Hiroyuki
Source : 臨床血液 (0485-1439)57 巻 9 号 Page1425(2016.09)

9. 再発難治 CLL/SLL, MCL に対するイブルチニブの有効性と安全性 (The safety and efficacy of ibrutinib for relapsed/refractory MCL and CLL/SLL)(英語)(会議録)

Author: 亀岡 吉弘 (秋田大学 血液内科), 北林 淳, 鶴生川 久美, 野口 晋佐, 大八木 秀明, 茂木 睦仁, 川端 良成, 小笠原 仁, 黒木 淳, 仁村 隆, 高橋 直人

Source : 臨床血液 (0485-1439)59 巻 9 号 Page1602(2018.09)

5. 骨髄異形成症候群経過中に肺梗塞、心筋梗塞を合併したムコール症

秋田厚生医療センター血液内科

○倉橋保奈実, 道下吉広, 川端良成, 北林 淳

秋田大学血液腎膠原病内科

高橋直人

第 213 回東北地方会

6. 高度の心機能低下を有し、オールトランス型レチノイン酸および亜ヒ酸による初期治療にて長期の分子生物学的寛解が得られた急性前骨髄球性白血病の 1 例

秋田厚生医療センター血液内科

○阿部 滉, 川端良成, 倉橋保奈実, 道下吉広, 北林 淳

秋田大学血液腎膠原病内科

高橋直人

第 213 回東北地方会

【 論 文 】

1. Multiple Myeloma-Associated Ig Light Chain Crystalline Cast Nephropathy.

Matsumura H, Furukawa Y, Nakagaki T, Furutani C, Osanai S, Noguchi K, Odaka M, Yohda M, Ohtani H, Michishita Y, Kawabata Y, Kitabayashi A, Ikeda S, Nara M, Komatsuda A, Takahashi N, Wakui H.

Kidney Int Rep. 2020 Jul 3;5(9):1595-1602. doi: 10.1016/j.ekir.2020.06.026. eCollection 2020 Sep.

PMID: 32954087 Free PMC article. No abstract available.

2. Durable remission attained with rituximab therapy in a patient with acquired von Willebrand syndrome associated with CD20-positive lymphoproliferative disorder].

Kurahashi H, Kawabata Y, Michishita Y, Kitabayashi A, Kobayashi T, Kitadate A, Takahashi N.

Rinsho Ketsueki. 2018;59(4):420-425. doi: 10.11406/rinketsu.59.420.

PMID: 29743402 Japanese. 1. Rituximab 療法により 5 年以上寛解を維持している CD20 陽性リンパ増殖性疾患関連後天性 von Willebrand 症候群 (原著論文)

倉橋 保奈実 (秋田厚生医療センター), 川端 良成, 道下 吉広, 北林 淳, 小林 敬宏, 北館 明宏, 高橋 直人

臨床血液 (0485-1439)59 巻 4 号 Page420-425(2018.04)

3. Hypoxia-inducible microRNA-210 regulates the DIMT1-IRF4 oncogenic axis in multiple myeloma Author : Ikeda Sho (Department of Hematology, Nephrology, and Rheumatology, Akita University Graduate School of Medicine), Kitadate Akihiro, Abe Fumito, Saitoh Hirobumi, Michishita Yoshihiro, Hatano Yoshiaki, Kawabata Yoshinari, Kitabayashi Atsushi, Teshima Kazuaki, Kume Masaaki, Takahashi Naoto, Tagawa Hiroyuki

Cancer Science (1347-9032)108 巻 4 号 Page641-652(2017.04)

小 児 科

【概 要】

当科は地域支援型病院の一員として主に急性期疾患を扱う。慢性疾患についても診断と治療を行い、専門的治療が必要であれば適宜、大学病院などに紹介する。

また研修病院として小児の Generalist を育てることを目標としている。

【スタッフ】

科 長：久保田 弘樹（小児科学会専門医、小児科学会指導医）

近藤 大喜（小児科学会専門医、小児科学会指導医、小児栄養消化器肝臓学会認定医）

医 員：畑澤 孝子（小児科学会専門医）

山本 翔子（小児科学会専門医）

非常勤：高橋 勉（内分泌） 秋田大学付属病院小児科学講座 教授

豊野 学朋（循環器） 同准教授

【診療の概要】

外来：午前中は一般外来、午後は専門外来、予防接種、乳児健診を行っている。

時間外診察も臨機応変に行う。

入院：新生児（低出生体重児、新生児黄疸、軽度呼吸不全）から肺炎、腸炎、尿路感染症、脳症、てんかん、アレルギー疾患、内分泌負荷試験やMRI、脳波などの各種日帰り検査、慢性期寝たきりの患児等々、幅広く対応する。

【診療実績】

外来患者

	2017	2018	2019	2020	2021
4月	647	626	528	282	525
5	793	716	628	304	508
6	825	639	628	399	487
7	797	808	635	438	529
8	785	957	730	373	393
9	717	690	531	367	421
10	704	700	678	474	501
11	774	690	673	495	625
12	899	803	785	458	532
1	867	929	714	394	525
2	924	725	590	401	537
3	868	714	442	483	685
計 (人)	9,600	8,997	7,562	4,868	6,268

入院患者

	2017	2018	2019	2020	2021
4月	65	52	51	23	36
5	78	59	43	25	37
6	70	56	39	38	44
7	60	70	48	28	26
8	54	77	53	22	25
9	61	58	41	28	25
10	52	61	50	27	21
11	45	49	52	26	24
12	57	50	51	30	20
1	50	56	50	20	27
2	59	52	49	26	34
3	46	45	31	30	21
計 (人)	697	685	558	323	340

予防接種

	2017	2018	2019	2020	2021
BCG	77	56	65	61	45
2種 混合	4	8	10	5	6
4種 混合	270	216	232	206	165
MR	49	57	33	52	43
日本 脳炎	64	73	66	52	62
ムン プス	27	46	66	49	12
水痘	64	80	59	61	52
肺炎 球菌	285	261	247	231	178
Hib	283	251	237	233	167
B型 肝炎	223	200	200	185	132
ロタ	123	117	135	123	104
flu	56	147	50	25	140
計 回数	1,469	1,512	1,400	1,283	1,106

乳児健診

	2017	2018	2019	2020	2021
1か月	398	382	282	271	228
4か月	62	44	45	48	48
7か月	43	46	36	48	37
10か月	46	59	51	41	39
計 (人)	549	531	414	408	352

【業 績】

日本小児科学会第118回 秋田地方会
令和3年7月10日

青年期 Low 症候群を通して考える移行期医療
の問題点

山本翔子

Target sign を認めた若年性ポリープの一例
伊藤知輝、近藤大喜、畑澤千秋

小 児 外 科

【概 要】

当科は2004年9月に開設され、市中一般病院の小児外科としてソケイヘルニア、虫垂炎などの日常一般的にみられる小児外科疾患のみならず小児の頭頸部、体表、泌尿器、整形外科領域の疾患に対しても幅広く診療を行っている。

【スタッフ】

診療科長：畑澤千秋（小児外科専門医、外科専門医、小児科指導医、地域総合小児医療認定医、アレルギー専門医、プライマリケア指導医、認定病院総合診療医）

非常勤：渡部 亮（秋田大学附属病院小児外科学講座 助手）

【診療の概要】

外来は毎日午前中に行っており木曜の午後が手術日となっている。マンパワーの制約はあるが外科、麻酔科、小児科、産婦人科をはじめとする院内の先生方のご協力と、院外からは秋田大学医学部小児外科の応援を得て地域の小児外科医療に貢献すべく日々の業務を行っている。

【学会認定施設】

日本小児外科学会 教育関連施設 B（秋田大学医学部附属病院小児外科）

【診療実績】 表1

【手術実績】

2021年1月～12月

全身麻酔手術	51件
ソケイヘルニア・陰嚢水腫	23件
消化器系	13件
泌尿器系	8件
その他	7件

【業 績】

学会発表共同演者：

Target sign を認めた若年性ポリープの一例
秋田厚生医療センター研修センター 伊藤知輝、同小児科 近藤大喜、山本翔子 2、畑澤孝子、久保田弘樹、同小児外科 畑澤千秋、東通りこどもとアレルギーのクリニック 小松真紀、日本小児科学会第118回秋田地方会、秋田市、2021.7.10

院外講義：

日常よく見られる小児外科疾患；秋田厚生医療センター小児外科 畑澤千秋、R2年度秋大3年次臨床講義、秋田市、2021.1.27

産院退院後生後1ヵ月までの消化器症状と黄疸；秋田厚生医療センター小児外科 畑澤千秋、令和2年度小児救急電話相談事業、第3回事例検討会、ミニレクチャー、秋田市、2021.2.17

小児の腸重積；秋田厚生医療センター小児外科 畑澤千秋、R3年度小児救急電話相談事業 第2回事例検討会、秋田市、2021.8.25

【院内講義】

小児の異物誤飲への対応；秋田厚生医療センター小児外科 畑澤千秋、R2年度研修講義 Advanced Program、2021.1.19

研修者としての心構え；秋田厚生医療センター研修管理委員会 畑澤千秋、臨床研修オリエンテーションプログラム、2021.4.5

医師としての個人情報保護；秋田厚生医療センター研修管理委員会 畑澤千秋、臨床研修オリエンテーションプログラム、2021.4.5

秋田厚生医療センターの臨床研修；秋田厚生医療センター研修管理委員会 畑澤千秋、臨床研修オリエンテーションプログラム、2021.4.5

秋田厚生医療センターの臨床研修；秋田厚生医療センター研修管理委員会 畑澤千秋、臨床研修オリエンテーションプログラム、2021.4.5

小児の外傷患者が搬送されてきたら；秋田厚生医療センター小児外科 畑澤千秋、R3 年度研修講義、2021.5.10

腹痛のこどもが来院したら；秋田厚生医療センター小児外科 畑澤千秋、R3 年度研修講義、2021.6.23

嘔吐のこどもが来院したら；秋田厚生医療センター小児外科 畑澤千秋、R3 年度研修講義、2021.6.25

当院職員としての確認事項；秋田厚生医療センター研修管理委員会 畑澤千秋、R3 年度研修講義、2021.8.16

秋田厚生医療センターの臨床研修；秋田厚生医療センター研修管理委員会 畑澤千秋、臨床研修プログラム変更参加者向けオリエンテーション、2021.9.28

腹痛女子・君の（病）名は；秋田厚生医療センター小児外科 畑澤千秋、R3 年度救急カンファレンス指導医講義、2021.10.21

表 1

	入院患者	紹介患者	定時手術	臨時手術
年	人			
2004	28	1511	2	
2005	147	4552	14	
2006	97	8946	11	
2007	110	12658	21	
2008	114	13453	23	
2009	128	17256	19	
2010	129	14165	20	
2011	116	12268	22	
2012	92	13256	19	
2013	93	11460	22	
2014	109	13661	19	
2015	104	13874	8	
2016	100	11460	16	
2017	84	14351	13	
2018	68	12055	13	
2019	91	13355	12	
2020	91	115	57	18
2021	69	131	36	15

外科

外科スタッフは11名で、日本外科学会専門医が9名、うち日本外科学会指導医が5名。さらに日本内視鏡外科学会の技術認定取得医が2名おり、数・質ともに秋田県トップクラスのチーム編成です。

2021年の外科年間手術総数はCovid-19クラスターの影響で853件と、ここ5年間では2番目に少ない手術件数でした。しかし、当院は地域がん診療連携拠点病院ということもあり、悪性腫瘍の手術は、最近5年間で最多の手術件数であった2020年に比べ減少していないものが多く、胃がん57→59件、結腸がん64→70件、乳がん47→47件、肺がん40→43件、肝胆膵の悪性腫瘍26→33件などとなっています。また、緊急手術も100件と、ここ5年間では昨年に次ぐ多さでした。

がん診療と外科救急医療を両立させ、これらの手術を安全に遂行できるのは、ともに診療にあたってくださる各科の先生方、手術室・放射線科・病理・検査・病棟・ICU・救急・外来・薬剤・栄養・事務・クラーク・清掃・各委員会・研修医など、院内すべての皆様のおかげです。この場を借りて本年も厚く厚く御礼申し上げます。

消化器外科領域手術においては、鏡視下手術の標準化がさらに進んでいます。2021年は、過去最多だった2020年からは13件減少、過去2番目だった2019年から52件増加し、285件でした。内訳を見ると、虫垂切除46件、ヘルニア修復術16件で、これらは最近5年間で最多件数。胃切除27件、大腸切除74件で、これらは最近5年間で2番目でした。

乳腺甲状腺外科領域の手術件数は63件あり、ここ5年間の中央値でした。手術適応とまらない症例などを含めると潜在的な患者数が非常に多く、相変わらずの激務が続いています。EBM (Evidence based medicine) が日々刷新される中、手術のみならず、術前・

術後の化学療法 / ホルモン療法 / 分子標的療法、術後の経過観察、検診要精査者への対応など、その内容は広範囲に渡っています。

呼吸器外科領域の手術件数は64件でした。近年は同時多発がんや異時性多発がんの症例が増え、その術式の選択に苦慮することも多くなりましたが、症例によっては2回目以降の手術を念頭に置き、肺機能を極力温存する術式が必要になることから、肺がんに対する区域切除術、部分切除術が増加傾向にあります。

外科専門医育成も当科の重要な責務です。2017～2021年の5年間に9名の専攻医が平均14ヶ月間(半年～2年)、当科で修練を積み、1年あたり平均236件(168～286件)の手術を経験し、121件(92～153件)を執刀しました。外科専門医取得に必要な手術件数は350件、執刀数は120件ですから、当科で1年間研修すると、専門医取得に必要な手術件数の65%、そして執刀数は規定を満たすこととなります。当科は次世代の外科医療を支える人材の育成を今後も継続いたします。

また、当院は秋田県トップクラスの研修医数を有する基幹型臨床研修病院であり、全ての研修医が外科をローテートします。外科を志望する研修医は、その後の外科医キャリアの基礎となるような研修を送ってもらい、外科以外を志望する研修医は、外科医的な考え方、動き方を経験してもらい、研修修了後は外科を含めた他科の考え方がわかる医師になるよう指導しております。

外科は今後も、患者さんの診療、学術、教育の三本柱に注力し、地域の皆様に貢献するよう努めてまいります。

令和3年（2021年）

< 口演 >

1. 第8回秋田県外科症例検討会（2021年1月9日、秋田市）
大量腸管切除が必要になった一例
最優秀賞受賞
南塚祐介、佐々木吉寛、米屋崇峻、佐々木智彦、田村博史、大淵聡、吉野敬、今野広志、柴田聡、齊藤礼次郎、遠藤和彦
2. 第36回日本臨床外科学会秋田県支部例会（2021年3月6日、秋田市）
小腸穿孔で発症し、化学療法後に小腸狭窄を生じた悪性リンパ腫の一例
南塚祐介、米屋崇峻、田村博史、佐々木智彦、吉野敬、大淵徹、今野広志、柴田聡、齊藤礼次郎、遠藤和彦
3. 第29回日本乳癌学会学術総会（2021年7月1日－3日、横浜市）
血性乳頭分泌を契機に発見された男性非触知微小浸潤癌の一例（e-ポスター）
木村愛彦、齊藤礼次郎、今野広志
4. 第180回東北外科集談会
第106回日本胸部外科学会東北地方会
第38回日本血管外科学会東北地方会
第95回日本小児外科学会東北地方会（2021年9月25日、秋田市 Web開催）
嚥下困難から手術適応となったZenker憩室の一例
小坂航、齊藤礼次郎、高橋史、米屋崇峻、長岐雄志、大淵徹、宇佐美修悦、今野広志、柴田聡、遠藤和彦
5. 第83回日本臨床外科学会（2021年11月18日～20日、東京）
骨髄異形成症候群に合併した回盲部切除後壊疽性膿皮症の1例
長岐雄志、齊藤礼次郎、柴田聡、今野広志、大淵徹、宇佐美秀悦、田村博史、米屋崇峻、遠藤和彦

6. 第25回あきたスギッチファンド

秋田魁新報社がんと生きるファンド事業（2021年11月21日、秋田市）
すい臓大学 ～すい臓がんに負けないために～
柴田聡

< 論文 >

1. 腹腔鏡補助下低位前方切除術後に吻合部仮性動脈瘤により出血を来した1例
田村博史、大淵徹、下山雅朗、宮内隼弥、高橋正人、遠藤和彦
日本大腸肛門病学会雑誌 第74巻、5号 308-311（2021年5月）
2. Rapid HER2 cytologic fluorescence in situ hybridization for breast cancer using noncontact alternating current electric field mixing.
Sin-nosuke Watanabe, Yoshihiko Kimura, Yoshihiro Minamiya
Cancer Medicine. 2021; 10; 586-594

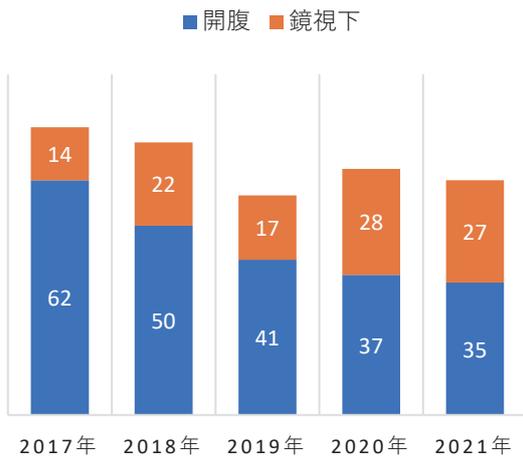
< 司会、座長 >

1. 第36回日本臨床外科学会秋田県支部例会（2021年3月6日、秋田市）
当番世話人 齊藤礼次郎
2. Breast Cancer Board in Akita 2021（2021年6月5日、秋田市、WEB開催）
司会 木村愛彦
【症例検討】
『手術もしくは診断に難渋した症例』

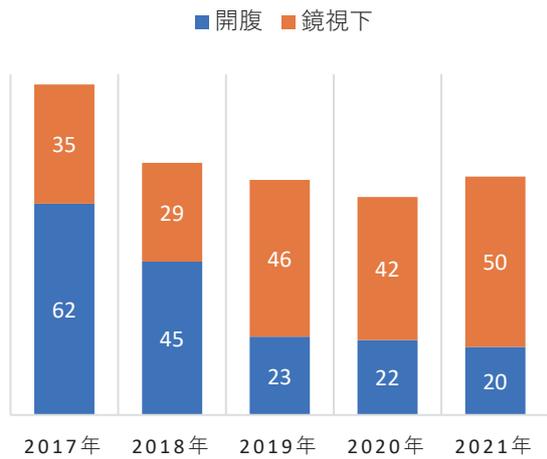
外科手術件数年次推移



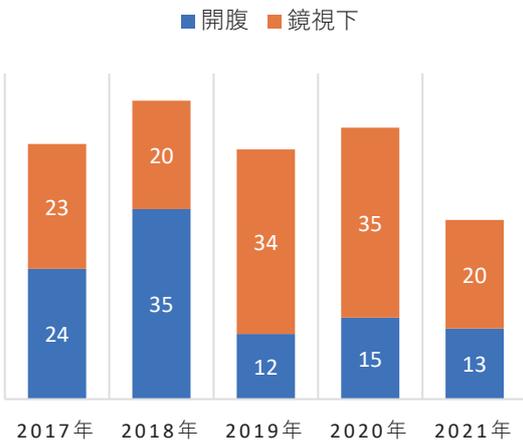
胃腫瘍手術件数年次推移



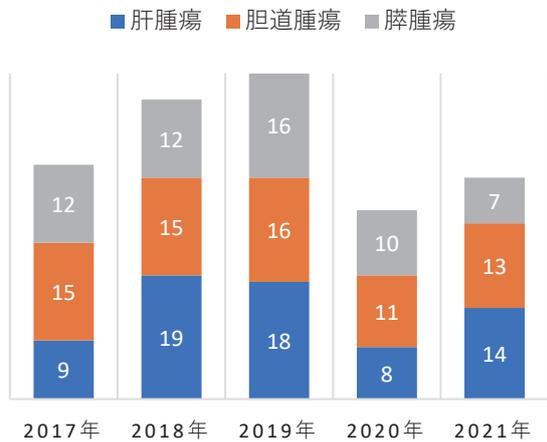
結腸がん手術件数年次推移



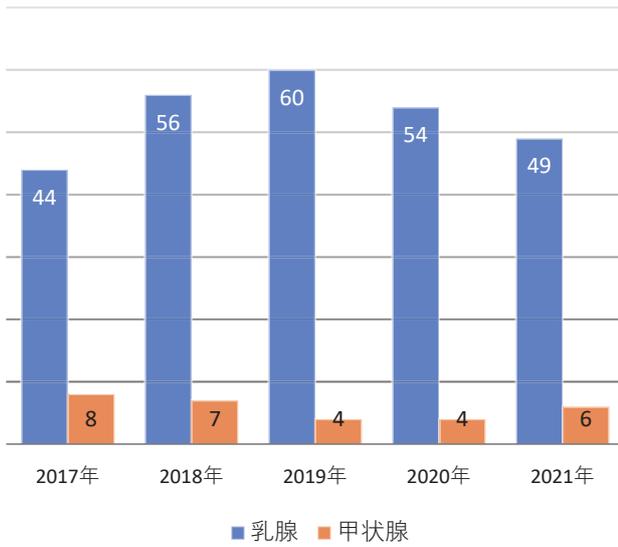
直腸がん手術件数年次推移



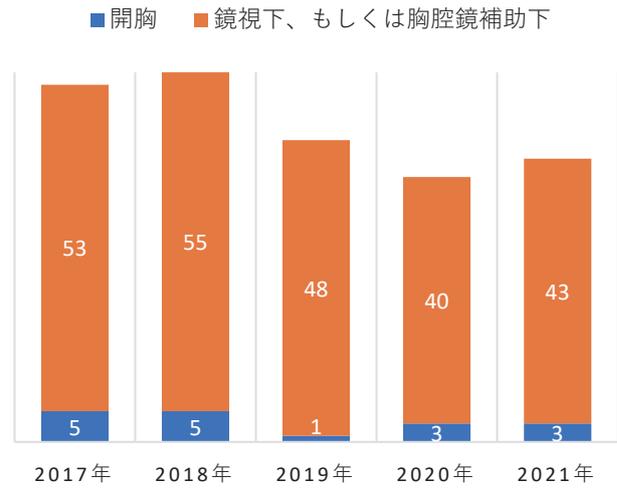
肝胆膵腫瘍手術件数年次推移



乳腺・甲状腺手術件数年次推移

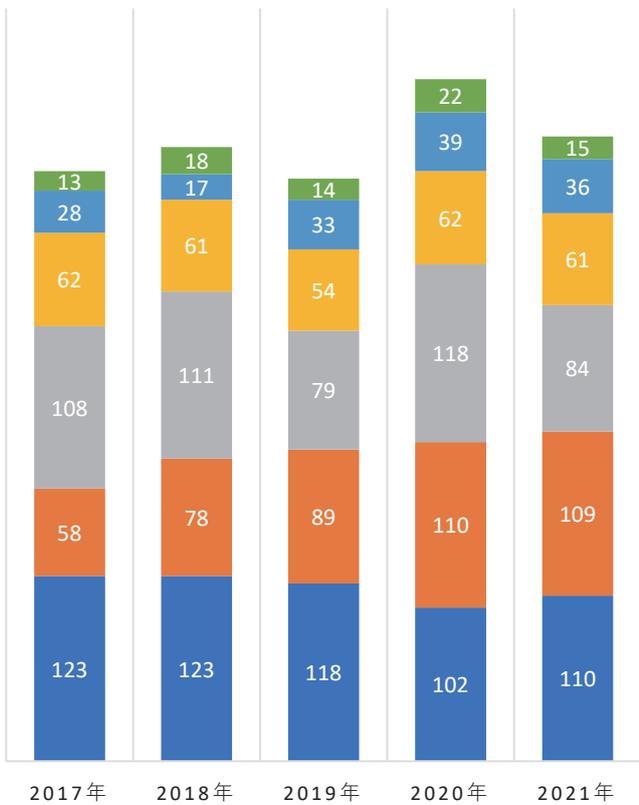


肺腫瘍手術件数年次推移



良性疾患手術年次推移

■ ヘルニア手術 ■ 肛門疾患手術 ■ 胆石手術
■ 虫垂切除術 ■ 腸閉塞手術 ■ 消化管穿孔手術



消化管穿孔手術
 腸閉塞手術
 虫垂切除術
 胆石手術
 肛門疾患手術
 ヘルニア手術

整 形 外 科

【スタッフ】(2021年12月31日現在)

- 阿部 栄二：(1976年卒：医学博士；2000年9月～)、日本整形外科学会専門医、日本整形外科学会認定脊椎脊髄病医、日本脊椎脊髄病学会指導医
- 村井 肇：(1984年卒：医学博士；2002年4月～)、日本整形外科学会専門医、日本整形外科学会認定スポーツ医、日本整形外科学会認定リウマチ医、日本整形外科学会認定脊椎脊髄病医、日本整形外科学会認定運動器リハビリテーション医、日本脊椎脊髄病学会指導医、日本リハビリテーション医学会臨床認定医、日本医師会認定産業医、日本骨粗鬆症学会認定医、日本人間ドック学会認定医、日本病院会医療安全管理者
- 小西奈津雄：(1988年卒：医学博士；2012年4月～)、日本整形外科学会専門医
- 小林 孝：(1991年卒：医学博士；2009年4月～)、日本整形外科学会専門医、日本整形外科学会認定脊椎脊髄病医、日本脊椎脊髄病学会指導医・評議員
- 石川 慶紀：(1999年卒：医学博士；2021年4月～)、日本整形外科学会専門医、日本整形外科学会認定脊椎脊髄病医、日本脊椎脊髄病学会指導医
- 菊池 一馬：(2002年卒：医学博士；2014年4月～)、日本整形外科学会専門医、日本整形外科学会認定脊椎脊髄病医、日本脊椎脊髄病学会指導医
- 木下 隼人：(2009年卒：医学博士；2017年4月～)、日本整形外科学会専門医、日本骨粗鬆症学会認定医
- 木村 竜太：(2011年卒：医学博士；2018年4月～2021年3月)、日本整形外科

学会専門医、日本リハビリテーション医学会専門医、日本脊椎脊髄病学会指導医

佐藤 貴洋：(2017年卒；2020年4月～2021年3月)、後期研修医

河原木 剛：(2018年卒；2021年4月～)、後期研修医

【施設認定】

日本整形外科学会認定研修施設

日本脊椎脊髄病学会認定脊椎脊髄外科専門医施設
日本脊椎脊髄病学会認定クリニカルフェロー研修施設

【医師の移動】

2021年3月、木村竜太医師、佐藤貴洋医師が他施設へ転勤し、代わって2021年4月石川慶紀医師、河原木剛医師が赴任、8人体制での診療が維持された。

【診療状況】

診療圏は従来同様、秋田市、男鹿・南秋地区に加え、由利本荘・にかほなど県南地域、能代・北秋田など県北地域からの患者が日常的であった。

当初は入院患者も例年どおり多く、1日の入院患者数が100人を超す日が少なくなかったが、2021年8月院内に新型コロナウイルス感染症クラスターが発生。約2週間外来、新規入院を停止したため、同時期は1日の入院患者数が25人程度まで激減した。

【手術】

クラスター発生中は手術も中止を余儀なくされたため、年間総手術件数は1270件と昨年よりはやや減少したが、10年連続で年間1000件を超えた。そのうち脊椎手術は523件で、手術全体に占める脊椎手術の割合は41%であった。2009年43%、2010年42%、2011年43%、2012年42%、2013年40%、2014年43%、2015年46%、2016年41%、2017年45%、2018年40%、2019年39%と、2020年40%と手術の4

割が脊椎手術という状況が続いている (図1)。

2013年にはじめて年間100件を超えた人工関節置換術は、2021年も9年連続で100件を超え、股(THA)・膝(TKA)合わせて169件であった(図2)。

欧米では減少に転じた国もある大腿骨近位部骨折患者数が、我が国ではいまだ年々増加している。当科での手術件数も2011年に初めて100件を超えるなど年々増加してきたが、2021年は144件と、過去最多だった2019年以降わずかに減少してきた(図3)。

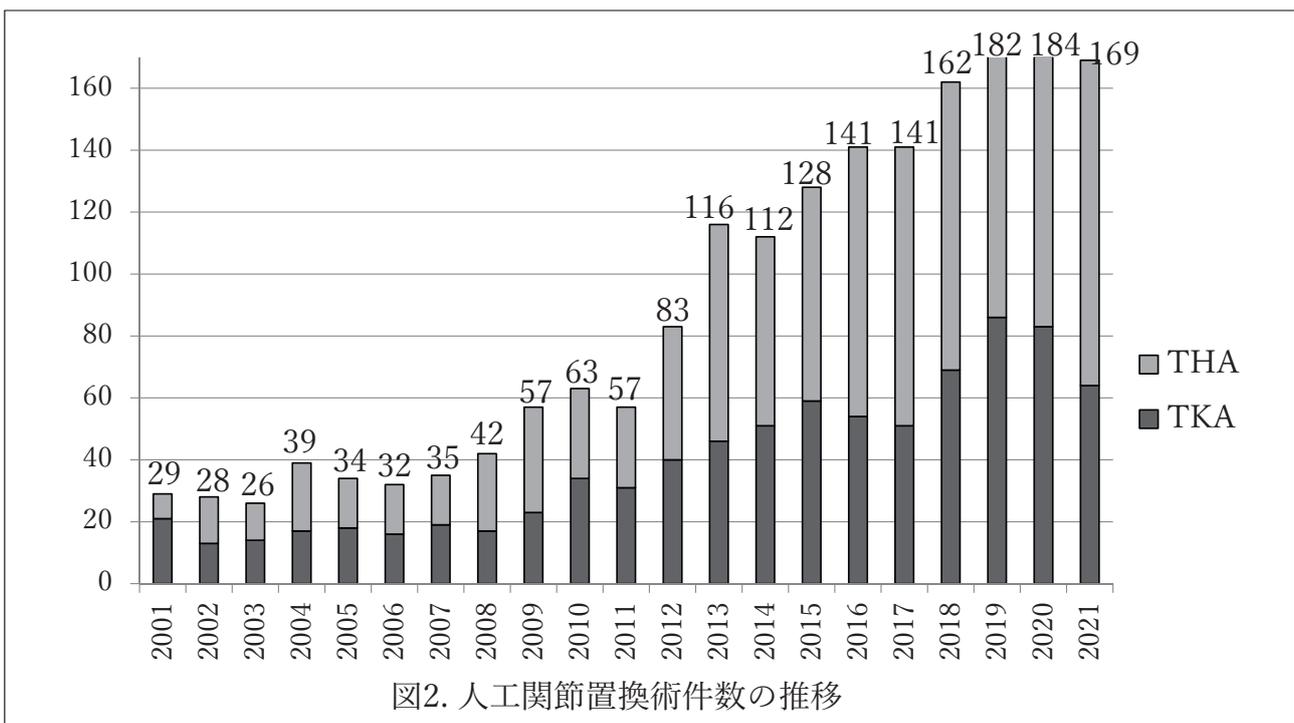
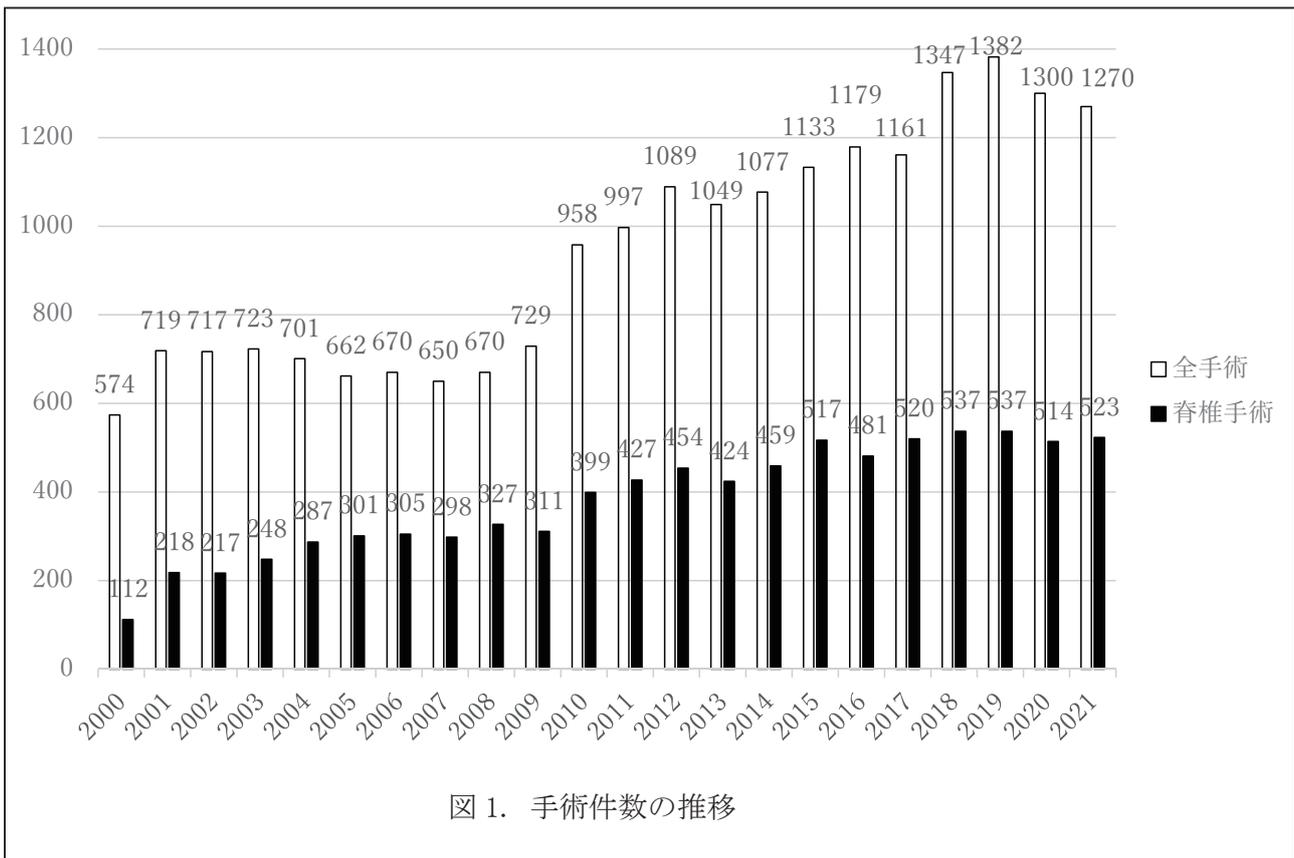
【業 績】

論 文

1. 太田真由ほか：薬剤性横紋筋融解症による下肢コンパートメント症候群の1例．整形・災害外科 64(9)、1155-1159、2021
2. 小林 孝ほか：特集 骨粗鬆症性椎体骨折—難治例の診断・治療を中心に— 骨粗鬆症性椎体骨折に対する骨切りによる矯正固定術．関節外科 Vol. 40 No. 5、541-551、2021
7. 小林 孝ほか：シンポジウム 成人脊柱変形手術前後の非特異的腰痛の変化．第28回日本脊椎・脊髄神経手術手技学会、2021年9月、京都
8. 小林 孝ほか：Spine leader's lecture 成人脊柱変形に対する骨切り術の適応と実際．第28回日本脊椎・脊髄神経手術手技学会、2021年9月、京都
9. 木下 隼人ほか：骨粗鬆症治療の有無で比較した成人脊柱変形の矯正固定術後治療成績．第23回日本骨粗鬆症学会、2021年10月、Web開催(神戸)
10. 河原木 剛ほか：脆弱性骨折を繰り返し治療に難渋した透析患者の1例．第10回秋田県股関節研究会、2021年10月、秋田
11. 小林 孝ほか：シンポジウム4 病態に応じたL5骨切り術の実際．第55回日本側彎症学会、2021年11月、浜松

学会発表

1. 小林 孝ほか：L5骨切り術の問題と対策．第11回日本成人脊柱変形学会、2021年3月、盛岡
2. 木下隼人ほか：当院における術後髄液漏について．第50回日本脊椎脊髄病学会学術集会、2021年4月、京都
3. 村井 肇ほか：骨粗鬆症の薬物治療—10年以上経過例の検討—．第94回日本整形外科学会学術総会、2021年5月、Web開催(東京)
4. Takashi Kobayashi: The problems and measures of L5 osteotomy, APSS-APPOS 2021, 2021/6, Kobe
5. 木下 隼人ほか：左肩 Carchot 関節をきたした頸椎症性脊髄症の1例．第70回東日本整形災害外科学会、2021年9月、盛岡
6. 河原木 剛ほか：当院で経験した脊髄梗塞11例の検討．第70回東日本整形災害外科学会、2021年9月、盛岡



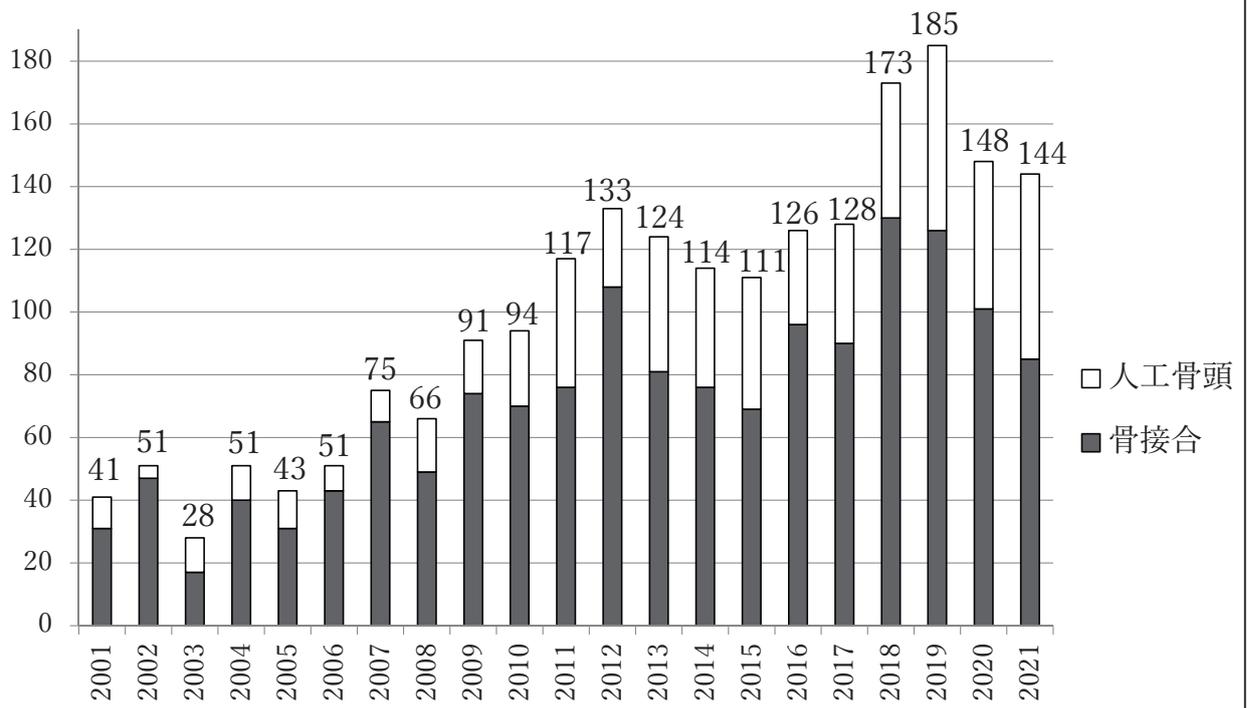


図3. 大腿骨近位部骨折手術件数の推移

脳神経外科

2021 年度

【スタッフ】

診療部長：小島壽志（昭和 56 年卒）

平成 6 年 4 月～令和 4 年 3 月退職

医 員：桑山実喜子（平成 29 年卒）

令和 2 年 11 月～令和 3 年 6 月

診療科長：引地堅太郎（平成 16 年卒業）

令和 3 年 7 月～

【施設認定】

日本脳神経外科学会専門医研修施設

【診療体制】

令和 3 年 4 月～令和 3 年 6 月：小島・桑山

令和 3 年 7 月～令和 4 年 3 月：小島・引地

【外 来】

令和 3 年 4 月～令和 3 年 7 月

	月	火	水	木	金
1 診	大学 (隔週)			桑山	桑山
2 診	小島	小島	小島	小島	小島

令和 3 年 7 月～令和 4 年 3 月

	月	火	水	木	金
1 診	大学 (隔週)			引地	引地
2 診	小島	小島	小島	小島	小島

【近 況】

令和 2 年 8 月以降、常勤医師 2 人体制で外来・病棟・救急対応を担うこととなりました。大学病院の先生方には同院でのお仕事がお忙しいにも関わらず月曜日の外来応援、水曜・土曜の夜勤の応援に来てくださるなどの御協力賜ったことで診療体制維持できました。誠に感謝申し上げます。

令和 3 年 8 月には当院でのクラスター発生に伴い急患受け入れ制限などを設けたため入院患者が例年の 1/3 程度となりましたが、それ以外の期間は入院患者 25～40 人で推移しております。

外来では主に脳卒中後・外傷後・脳外科手術後などの方々を定期フォローしており、1 日あたり 15～30 人で推移しています。

手術は慢性硬膜下血腫を中心に行い、来年度からは全身麻酔下での開頭術を徐々に行っていく予定となっております。

2021 年度をもって、約 30 年にわたり当科で勤務してくださいました小島先生が退職となります。長期にわたり秋田市のみならず男鹿市・潟上市・南秋田郡などの地域医療に御尽力頂き誠にありがとうございました。

産婦人科

秋田厚生医療センター 産婦人科部門

2021年2月-	2021年4月-	2021年10月-	2022年4月-
吉岡知巳	佐藤直樹	佐藤直樹	佐藤直樹
能登彩	能登彩	金森勝裕	金森勝裕
尾野夏紀	尾野夏紀	能登彩	能登彩
久木元詩央香	岡部基成	吉川諒子	有明千賀
齋藤寛	齋藤寛	五十嵐なつみ	津谷明香里

分娩	2020	2021
自然分娩	191	199
吸引分娩	17	18
鉗子分娩	11	2
帝王切開数	46	23
総分娩数	265	242
帝王切開率	17.4 %	9.5 %

2020年と2021年の産婦人科診療統計を提示します。
 2021年は診療体制の移行期となりました。約2ヶ月間の診療制限で手術件数は減少しています。年次変化として、帝王切開数(率)の半減や腹腔鏡下手術と骨盤臓器脱手術の拡充が挙げられます。
 1. 安全 2. 品質 3. 生産 4. 発展 の優先順を遵守し、適正で良質な医療の構築と提供を目指しています。
 2023年報告では、新体制での成長実績を開示します。

手術	分類	2020	2021
産科手術	帝王切開	46	23
	流産/中絶手術	3	1
	頸管縫縮術	0	0
	子宮全摘 (腹式) : TAH・ETH	27	23
	子宮全摘 (腹腔鏡補助) : TLH/LAVH/LH	0	6
	子宮全摘 (腔式) : TVH	1	0
	子宮筋腫核出 (腹式)	3	0
	子宮筋腫核出 (腹腔鏡) : LM	0	0
	子宮付属器腫瘍摘出 (腹式)	10	10
	子宮付属器腫瘍摘出 (腹腔鏡)	4	17
婦人科 良性疾患手術 (含CIN3) (含中間悪性腫瘍)	異所妊娠手術 (開腹)	0	0
	異所妊娠手術 (腹腔鏡)	1	1
	子宮頸部切除術 (円錐切除)	11	9
	子宮内膜掻爬術	9	4
	骨盤臓器脱手術	4	15
	その他良性手術	0	2
	子宮悪性腫瘍手術 (郭清あり)	3	3
	子宮悪性腫瘍手術 (郭清なし)	8	6
	子宮付属器悪性腫瘍手術 (郭清あり)	0	0
	子宮付属器悪性腫瘍手術 (郭清なし)	13	5
婦人科 悪性疾患手術 (浸潤癌)	その他悪性腫瘍手術・試験開腹	2	2
	合計	145 件	127件

泌 尿 器 科

〈スタッフ紹介〉

診療部長 岡根 克己

(日本泌尿器科学会専門医・指導医、日本泌尿器科内視鏡学会認定医、日本内視鏡外科学会認定医、日本透析医学会専門医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医)

科 長 本間 直子

(日本泌尿器科学会専門医・指導医)

2019年4月から2022年3月

医 長 齋藤 拓郎

(日本泌尿器科学会専門医)

2020年10月から2021年9月

医 長 佐藤 博美

(日本泌尿器科学会専門医)

2021年10月から

【診療の概要】

月・火・木は3診体制で外来を行っているが、水・金は手術日のため外来は1診のみで行っている。

月・火・木の午後は検査や処置等を行っている。

また、火曜日の午後に排尿ケアチームによる、入院患者に対する排尿自立指導を行っているが、泌尿器科医師も同チーム員でありチームによる回診に帯同し指導を行っている。

【診療実績】

令和3年度の診療実績を見てみると、外来患者数、入院患者数、手術件数ともに前年度を大幅に上回っていた。

外来患者数はこれ以上増えるとマンパワー的にかなりきつく、状態が落ち着いている患者様は積極的に近隣の開業医の先生へ紹介する「2人主治医制」を今以上に進めていきたいと考えている。

入院患者数の増加は、前立腺癌疑いの方に対する前立腺生検入院が増えた事が1つの要因であると思われる。前立腺癌検診もかなり浸透してきており、検診で異常を指摘され受診する方が増えている。それに伴い前立腺生検数も増えてきており、当科では検査枠を増やしそれに対応している。

手術件数は増えており嬉しい事ではあるが、本年度は結石の手術件数を増やす事を1つの目標にしていたため、その目標を達成する事ができなかった事は非常に残念であった。昨年度からECIRSも開始し、より高難度の結石に対する手術も積極的に行うようにしているため引き続き結石の手術件数を増やすよう研鑽していくつもりである。

【学会発表等】

1. 令和2年度秋田県前立腺がん検診実績

岡根克己

秋田県前立腺がん検診研修会（2021年11月27日秋田）

2. 当院における超高齢進行性前立腺癌患者の治療の現状

本間直子

秋田進行前立腺癌講演会（2021年8月31日秋田）

3. 日常診療における排尿日誌の活用

本間直子

夜間頻尿診療セミナー（2022年1月25日、秋田）

表1 泌尿器科の実績（過去5年間）

	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
外来患者数（月平均）	1385	1315	1266	1340	1442
入院患者数	498	528	498	580	643
手術件数	168	164	166	227	252
平均在院日数	9.9	7.6	8.5	9.3	8.4

表2 主要疾患別の入院患者数（過去5年間）

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
腎癌	11	4	15	13	20
腎盂尿管癌	18	13	28	27	20
膀胱癌	95	105	96	102	103
前立腺癌	58	44	32	35	40
前立腺生検	136	119	121	132	207
前立腺肥大	11	14	6	4	4
尿路結石症	23	37	51	90	70
尿路感染症	100	104	71	101	87
その他	70	66	781	90	92
合計	522	528	501	594	643

表3 手術件数（過去5年間）

	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
腹腔鏡下腎摘出術（尿管全摘を含む）	7	4	8	18	10
膀胱全摘	5	2	1	5	0
経尿道的膀胱腫瘍切除術	89	85	80	76	89
根治的前立腺全摘術	17	23	7	3	7
経尿道的前立腺切除術	7	10	4	3	2
経尿道的尿管結石砕石術	9	10	12	39	34
経尿道的膀胱結石砕石術	4	4	11	10	10
ECIRS	0	0	0	7	5
その他	20	21	37	66	95
合計	168	164	166	227	252

眼 科

【スタッフ紹介】

科 長：早川宏一（日本眼科学会専門医，日本アレルギー学会専門医）

医 員：田村淑美（月火水木：外来担当）

非常勤医師：坂本貴子（日本眼科学会専門医）火曜日：外来

視能訓練士：鈴木こず恵，伊藤聖子，佐藤ひろな

視能訓練士（臨時職員）：今野裕子

〈発 表〉

第23回院内学術発表会 3月11日（木）秋田厚生医療センター2F 大会議室

新しい眼内レンズ・レンティスコンフォートの術後成績

○佐藤ひろな，伊藤聖子，鈴木こず恵，今野裕子，笠井潮美，形山恵，田村淑美，早川宏一

硝子体手術後の腹臥位安静患者の苦痛に伴う安楽な体位の工夫

○西5病棟 石井智子，早川宏一，秋元静香，菅原舞，山浅勉

第17回 日本褥瘡学会東北地方会学術集会 6月26日（Web開催）

硝子体手術後の腹臥位安静患者の苦痛に伴う安楽な体位の工夫

○西5病棟 石井智子，早川宏一，秋元静香，菅原舞，山浅勉

〈広 報 誌〉

伊藤聖子：健康コラム 知っていますか？加齢黄斑変性

JA 秋田なまはげ広報誌 大地 P11, vol.41 2021,8

〈講義・早川宏一〉

秋田県立衛生看護学院

看護科1年生

2月19日 臨床病態学I（眼科疾患）

秋田大学医学部4年生

6月3日（木）15：50-17：10 【ぶどう膜疾患】

〈そ の 他〉

早川宏一

秋田県社会福祉審議会臨時委員（令和3年10月1日～令和6年9月30日）

日本アレルギー協会東北支部世話人

秋田アレルギーフォーラム世話人

秋田県アレルギー疾患医療連絡協議会委員（令和3年3月1日より令和5年2月28日）

総手術件数（中央手術室での件数）

年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
総件数	475件	375件	423件	323件	300件

主な手術の変遷

	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
白内障	442	351	368	280	262
網膜・硝子体	13	9	27	14	15
緑内障	6	1	14 (iStent13)	17 (iStent9)	7 (iStent2)
眼瞼内反	4	2	4	6	1
その他	10	12	10	6	15

麻 醉 科

【スタッフ紹介】（2021年10月）

- 岩崎 洋一：1989年秋田大学卒
日本麻酔科学会認定医・
専門医・指導医
- 松本 聖子：1995年秋田大学卒
日本麻酔科学会認定医・
専門医・指導医
- 中鶴間優汰：2016年秋田大学卒
日本麻酔科学会認定医
- 伊藤志緒乃：2016年秋田大学卒
日本麻酔科学会認定医
- 嵯峨 卓：2017年秋田大学卒
日本麻酔科学会認定医
日本区域麻酔検定試験（J-RACE）
認定
日本周術期経食道心エコー（JB-
POT）認定医
ICLS インストラクター

【麻酔科紹介】

麻酔科管理症例の総数

2020年 1911例

2021年 1938例

2021年度は、4月から医師6年目の伊藤志緒乃先生を迎え、10月には中鶴間先生が秋田大学医学部付属病院へ異動となり同院から医師5年目の嵯峨先生を迎えることとなった。

若手医師育成のため、これまで硬膜外麻酔を併用していた手術に対し神経ブロック麻酔を行ったり、術後悪心嘔吐を軽減するため全静脈麻酔や保険適用となったオランダンセトロンを積極的に使用したりするようにした。

今年度も新型コロナウイルス感染症の影響は続き、8月下旬から9月上旬にかけて院内クラスターが発生し、手術制限をせざるを得なかった。その状況下でも手術室スタッフや各診療科との協力を得て、麻酔管理症例数は例年通

	2020年	2021年
開頭	0	0
開胸	58	63
心臓・大血管	0	0
開胸・開腹	1	4
腹部	749	718
帝王切開	39	27
頭頸部	159	156
胸腹壁・会陰	150	172
脊椎	495	478
四肢	257	315
その他	3	5

り1900件台を保っていた。新型コロナウイルス感染者の緊急手術も増えており、各スタッフが対応できるようマニュアル作成やシミュレーション実施などにより教育を進めている。

今後も、若手麻酔科医の育成と、新しい知見に基づく麻酔管理を実践していきたい。

【学会報告】

中鶴間優汰

「声門拡大術を上喉頭神経ブロックと鎮静で行った1症例」

第11回北海道・東北支部学術集会

中鶴間優太

「巨大卵巣腫瘍摘出術の麻酔管理の1症例」

第11回北海道・東北支部学術集会

（文責）松田光世

呼吸器内科

【スタッフ紹介】

福井伸（診療部長）

秋田大 2001 年卒

日本内科学会認定内科医・総合内科専門医

日本呼吸器学会呼吸器専門医

日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医・指導医

日本アレルギー学会専門医

日本結核・非結核性抗酸菌症学会病結核・抗酸菌症認定医

日本医師会認定産業医

日本結核・非結核性抗酸菌症学会推薦インフェクションコントロールドクター

守田亮（科長）

秋田大 2006 年卒

日本内科学会認定内科医・総合内科専門医

日本呼吸器学会呼吸器専門医・指導医

日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医・指導医
がん治療認定医

日本アレルギー学会専門医

横山達也（科長）

獨協医科大 2008 年卒

日本内科学会認定内科医・総合内科専門医

日本呼吸器学会呼吸器専門医

日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医

日本結核・非結核性抗酸菌症学会病結核・抗酸菌症認定医

日本救急医学会救急科専門医

渋谷嘉美（医員）

秋田大 2008 年卒

日本内科学会認定内科医・総合内科専門医

日本結核・非結核性抗酸菌症学会病結核・抗酸菌症認定医

施設認定

日本呼吸器学会関連施設

日本呼吸器内視鏡学会認定施設

アレルギー専門医教育研修施設

2021 年 4 月から呼吸器内科は常勤医 3 名（福井、守田、横山）、嘱託医 1 名（渋谷）の診療体制である。

横山を同僚に迎え診療に厚みが増し、研修医への指導も細かいところまで行えるようになった。また、守田・福井が内視鏡指導医を取得し学会認定施設に認められた。呼吸器内視鏡の進歩に遅れることなく、EBUS-TBNA、EBUS-GS を駆使し、正診率を高め、最適な治療導入を目指す所存である。同時に呼吸器内科医を目指す若手に内視鏡テクニックを伝授していきたい。

呼吸器内科は、循環器、消化器科と並んで患者数が多く、疾患の種類が多いことが特徴である。呼吸器感染症、肺癌、新型コロナウイルス感染症を含む呼吸器感染症、慢性閉塞性肺疾患、気管支喘息、間質性肺疾患、アレルギー性肺疾患、職業性肺疾患、気胸をはじめとする様々な胸膜疾患、呼吸不全などの疾患を対象とし、胸部 X 線写真、血液生化学検査や必要に応じて CT、呼吸機能検査、気管支鏡検査を駆使し、内科的専門治療を行っている。

最近の外来患者数は 1 日平均 24.5 人、入院患者数は平均 55.1 人程となっている。入院患者は肺癌が最も多いが、これは気管支鏡検査入院も含まれているためである。次いで肺炎等の呼吸器感染症が多く、近年は特に医療・介護関連肺炎が目立ってきている。その他、間質性肺炎、慢性閉塞性肺疾患が続く。気管支鏡検査は月・火・木曜日に行っており、週 3～4 例、年間 100 件を超える。

内科学会、呼吸器学会、呼吸器内視鏡学会、日本臨床腫瘍学会、肺癌学会、日本緩和ケア学会、日本サポーターブケア学会、アレルギー学会、結核・非結核性抗酸菌症学会、化学療法学会、救急医学会等に所属しており、最新の呼吸器診断・治療を吸収し、現在の標準的な呼吸器医療を地域の方々に提供するよう日々心がけている。

2020 年新型コロナウイルス感染症という未知の巨大な脅威に晒されたが、いまだ終息の気配はない。当院は第 2 種感染症指定医療機関で、軽症から中等症の新型コロナウイルス感染症の入院治療を行っている。多くは軽症で軽快退院

されたが、中には重症化し亡くなられた方もいる。今年度も外来患者数に変化があったのはコロナ禍の影響が大きいと考えている。外来患者新患数が増えたのは、濃厚接触者のスクリーニング検査を当科で請け負っていることであろう。新型コロナウイルス感染症はまだ治まる心配がない。今後もこの感染症に当院一丸となって対峙する。(文責 福井伸)

外来患者のべ数

2017年度	12,501
2018年度	12,890
2019年度	13,256
2020年度	11,793
2021年度	13,559

外来患者新患数

2017年度	1,479
2018年度	1,573
2019年度	1,511
2020年度	1,783
2021年度	2,255

退院患者数

2017年度	648
2018年度	659
2019年度	657
2020年度	720
2021年度	699

気管支鏡検査数

2017年度	193
2018年度	158
2019年度	98
2020年度	125
2021年度	117

学会・講演会・研修会発表

2021年2月3日

喘息プライマリー診療を考える会

一般演題「エナジー使用経験から考える当院での最適患者像」演者福井伸

2021年2月20日

第18回日本臨床腫瘍学会学術集会

医療者がリードする「がん患者力向上」シンポジウム がん患者力向上のために医師ができること 演者守田亮

2022年2月28日

Tohoku Lung Cancer Bronchos-copy Seminar

一般演題「気管支の交通が確認できなかった右下葉結節陰影の1例」演者守田亮

2021年3月16日

喘息診療連携パートナーリングの会 in AKITA
ディスカッションパート

「重症喘息の症例報告(病院医師の立場から)」
演者福井伸

2021年3月31日

岩手県南 irAE 対策講演会

「免疫チェックポイント阻害剤による皮膚障害のマネジメント」演者守田亮

2021年6月9日

肺がん免疫療法講習会

総合司会守田亮

2021年6月19日

第223回日本内科学会東北地方会

分野呼吸器1座長福井伸

2021年7月31日

第60回日本肺癌学会東北支部学術集会

「Lenvatinibが奏功した肺腺癌の1例」長谷川知彦(研修医)、守田亮、横山達也、福井伸

2021年8月25日

病棟薬剤師に知って欲しい肺がん医療

「どう変わる!? これからの小細胞肺がん治療」演者守田亮

2021年9月7日
Lilly Interactive Web Semi-nar in Akita
ディスカッションパート
ディスカッサント守田亮

2021年9月30日
Respiratory
Expert Online Seminar In Akita
Special Lecture 1「重症喘息の治療」演者福井伸

2021年10月18日
青森・秋田 NSCLC WEB セミナー
エリアセミナー「当科における IO+IO 使用経験」演者守田亮

2021年10月29日
第80回秋田肺癌研究談話会
一般演題「進展型小細胞肺癌の治療について」
守田亮

2021年11月6日
NHK エデュケーショナルオンラインフォーラム
「がんと向き合う患者力を育てるには」パネリスト守田亮

2021年11月10日
第1回山形若手医師のための呼吸器セミナー
～極める呼吸器～
Session1「肺癌診療の最新の話～進展型小細胞肺癌を中心に～」演者守田亮

2021年11月20日
第2回秋田県呼吸ケアカンファレンス
招請講演座長福井伸

2021年11月23日
第85回秋田県医学会総会
一般演題「COVID-19 当院での対応」福井伸

2021年12月13日
岩手 NSCLC WEB セミナー
エリアセミナー「当科における IO+IO 使用経験」演者守田亮

書 籍

小林範大, 福井伸. III ケア・サポート編吸入指導. 塩谷隆信・高橋仁美編集. 第4版
リハ実践テクニック呼吸ケア .MEDICAL VIEW ; 2021.p202-207.

耳鼻咽喉科

【スタッフ】

科長：近江 永豪

医師：富澤 宏基（R1.10.1～R2.3.31）

甲賀 鉄平（R3.4.1～R4.3.31）

【耳鼻咽喉科の一年の歩み】

当科では常勤医師が2名で診療を行っています。2名での勤務といえども、地域がん診療連携拠点病院として地域医療を担うために一人一人が倍以上の努力が必要です。しかし、まだまだ理想には至らない状態です。

令和1年10月から富澤宏基先生が赴任し、1年と半年勤務していました。これまで不安定な人事異動でありましたが、ようやく人事が固定され、富澤先生の熱心な姿勢と成長の速さもあり地域により安定した医療体制を提供することができるようになりました。令和3年4月より富澤先生が大学院に入り、甲賀鉄平先生が就任しました。年度の初め頃は付いていくのが精一杯ではありましたが、少しずつ成長が見られ、現在では安定した医療体制を取りつつあります。

耳鼻咽喉科の対象疾患としては頭頸部腫瘍（悪性・良性）、慢性副鼻腔炎、アレルギー性鼻炎、中耳炎、めまい、難聴・耳鳴、音声機能障害、嚥下障害、睡眠時無呼吸症候群、顔面神経麻痺などがあげられます。耳鼻咽喉科の守備範囲は非常に広く、感覚器および自己表現機能に関する器官、生命に直結する器官を対象と、その障害は直接人間らしい生活の質の低下につながるという重要な部位を担当しています。常勤2人ながらも機能改善・温存を目指し、患者様のニーズに沿った治療を行えるように努めてきました。

外来診療は平日月曜日から金曜日の午前中に2診で診察しています。なお、月・火・金曜日の午後は全身麻酔での手術、水、木曜日に外来手術や局所麻酔手術となっております。患者様

に対して待ち時間の短縮化や密度の濃い診療ができるように、病診連携を心掛けています。

疾患治療実績としてめまいに関してはメニエール病、良性発作性頭位めまい症を中心にめまい疾患に対して精査加療を行っています。中耳炎や難聴に対しては鼓室形成術、補聴器などの治療を中心に行っています。アレルギー性鼻炎に対しては重症例に関しては鼻中隔矯正術や下鼻甲介手術といった鼻閉改善手術を行っており、また副鼻腔炎に対する内視鏡下鼻内副鼻腔手術は一般的に行っており、鼻腔や副鼻腔にできる腫瘍（良性・悪性）もあり、当科ではこれらに対しても低侵襲的経鼻内視鏡手術を積極的に行っています。頭頸部外科領域における様々な疾患（唾液腺・咽頭・喉頭の良性・悪性腫瘍、甲状腺疾患など）をはじめ、積極的に取り組んでいます。頭頸部癌の治療後は多くの機能障害が生じ、生活の質が低下することがほとんどです。当科では低侵襲的な経口内視鏡下手術を積極的に行っています。放射線治療においても放射線治療科と連携してIMRTという周囲の組織に対する副作用を減らす照射を行い、できる限り機能の温存をできる選択をしています。また癌が再発・転移した患者様に対しても化学療法（抗がん剤）を行い、癌免疫療法も積極的に取り入れています。一方、高齢化社会に伴い、嚥下障害の患者さんの増加によって、誤嚥性肺炎を繰り返す症例も多くみられます。当科ではリハビリテーション科と連携して積極的に嚥下内視鏡検査（VE）、嚥下造影検査（VF）を行い、嚥下機能改善に努めています。なお、高度な医療が提供できるように、専門外来として、毎週水曜日午後めまい外来、木曜日は嚥下外来を設けています。また睡眠時無呼吸症候群に対しても力を入れており、終夜睡眠ポリソムノグラフィー検査やその後の経鼻的持続陽圧呼吸療法（CPAP）を取り入れています。今年度はCOVID-19の影響のため手術や外来の件数がやや減少していました。COVID-19に対しての感染予防策は立てながら、患者様に安心した医療を届けられるように今後とも精進していきたいと思っています。

領域	R3年度全身麻酔手術	件数
耳	鼓室形成術	11
	乳突削開術	6
	顔面神経減荷術	3
	鼓膜チューブ挿入術	4
	先天性耳瘻管摘出術	2
鼻副鼻腔	内視鏡下鼻内手術	42
	鼻中隔湾曲矯正術	11
	鼻副鼻腔腫瘍切除術	3
	粘膜下甲介切除術	14
口腔咽頭	口蓋扁桃摘出術	64
	アデノイド切除術	8
	UPPP	1
	頬粘膜腫瘍手術	2
	舌腫瘍切除術	2
	咽頭腫瘍手術	4
	舌悪性腫瘍切除術	3
	口唇悪性腫瘍手術	1
	咽頭悪性腫瘍手術	3
	喉頭	喉頭微細手術
喉頭悪性腫瘍手術		2
喉頭全摘術		2
唾液腺	耳下腺腫瘍摘出術	11
	耳下腺悪性腫瘍手術	1
	顎下腺腫瘍摘出術	3
	顎下腺唾石摘出術	3
	顎下腺悪性腫瘍摘出術	1
甲状腺	甲状腺腫瘍摘出術	9
	甲状腺悪性腫瘍摘出術	7
	バセドウ甲状腺全摘出術	2
	副甲状腺腫瘍摘出術	1
	甲状舌管嚢胞摘出術	1
頸部・その他	頸部郭清術	2
	頸部膿瘍切開術	3
	顔面骨骨折整復術	2
	顔面神経再建術	1
	計	244

領域	R3年度局所麻酔手術	件数
耳	鼓膜形成術	11
	鼓膜切開術	35
	耳介腫瘍摘出術	1
	外耳道異物除去術	13
鼻副鼻腔	内視鏡下鼻内手術	1
	鼻粘膜焼灼術	33
	下鼻甲介レーザー術	6
	鼻骨骨折修復術	12
	鼻内異物摘出術	4
口腔咽頭	中咽頭腫瘍切除術	5
	咽後膿瘍切開術	1
	扁桃周囲膿瘍切開術	5
	顎関節整復術	16
	咽頭異物摘出術	25
唾液腺	顎下腺唾石摘出術	1
頸部・その他	気管切開術	13
	気管孔閉鎖術	1
	リンパ節摘出術	21
	食道異物	1
	その他	45
		250

病 理 診 断 科

【スタッフ】

佐々木 俊樹（科長 2 月から臨床検査科と兼務）

日本病理学会専門医

日本臨床細胞学会専門医・指導医

高橋 正人（科長）

日本病理学会専門医

病理専門医研修指導医

日本臨床細胞学会専門医・指導医・教育研修指導医

秋田大学大学院医学系研究科非常勤講師

小山 慧（4 月から 9 月）（秋田大学医学部 病理研修プログラム 後期研修医）

渡辺 正人（副技師長、細胞検査士）

戸堀 健二（細胞検査士）

岩本 夏美（細胞検査士）

渡辺 恵（臨床検査技師）

野本はるみ（検査助手）

日本病理学会研修登録施設

日本臨床細胞学会認定施設

日本臨床細胞学会教育研修施設

（検体数それぞれ 1 月から 12 月）

	2017	2018	2019	2020	2021
組織診	5015	5107	4812	4465	4602
術中迅速	202	217	253	224	229
細胞診	5987	5956	6012	5466	5064
剖検	10	14	14	6	5
CPC（年度）	8	9	11	10	4

救急総合診療部

(2021年4月～2022年3月)

スタッフ

医師：畑澤 千秋（副院長、秋田県総合診療・家庭医研修センター長）
作左部 大
齊藤 崇（常勤嘱託）

概要

2020年から救急外来の診察室を使用しての総合診療外来が開始された。午前は主に当科のスタッフで診療を行うが、午後は院内各科から診療応援に来ていただき、外来診療を行なった。

救急外来は、秋田大学救急部からの診療応援を増やしていただくことができ、10月からは平日の日勤帯は毎日来ていただいて救急診療を行うことができた。

診療実績

救急外来の総受診者数は19419名であった。今年度は院内クラスターの発生により、8月中旬から9月上旬にかけて、約3週間の救急患者受け入れ停止期間があったにもかかわらず、昨年度よりやや増加していた。新型コロナウイルスの流行後の2020年度は、大きく救急外来受診患者数が減少していたが、徐々にWith コロナに向かって社会が変化してきているのでは？と感じられた。

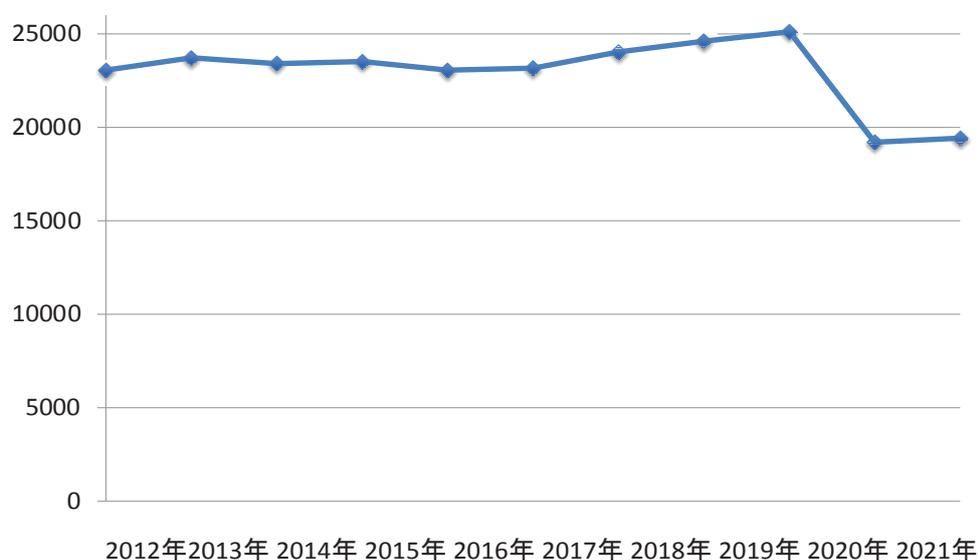
救急搬送患者数も3529名（ドクターヘリで搬送された患者30名を含む）と増加していた。来院時心肺停止患者数は129名であった。

また、救急総合診療部の入院患者は総数227名（男性122名、女性105名）、年齢は17～100歳、平均年齢79.1歳（中央値83歳）、1日平均12.6人、平均在院日数20.3日で、前年度（男性106名、女性94名、平均年齢76.4歳、1日平均11.5名、平均在院日数20.6日）より入院総数は増加し、患者はさらに高齢化していた。平均在院日数は昨年度とほとんど変わらなかった。

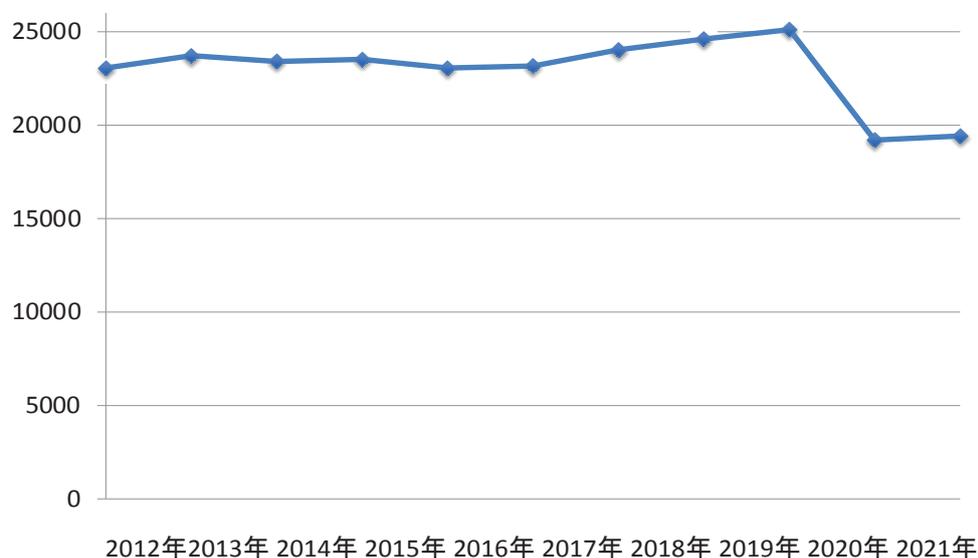
受診患者数と入院患者数は増加していたが、スタッフに増員はなく、ますます医師不足が深刻化している。今後の医療スタッフの確保や診療体制の再検討が重要と考えられる。

	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
救急受診患者数	24031	24608	25106	19202	19419
救急搬送患者数	3625	3537	3734	3372	3529

救急外来受診者数の変化



救急外来受診者数の変化



2021年度 研修カンファランス実績

● 救急カンファランス 37回

研修医が救急で経験したケースカンファランス、指導医講義

放射線科・放射線治療科

令和3年4月1日～令和4年3月31日

【放射線科スタッフ】

診療部長：大町 康一（放射線診断専門医）
医 師：犬上 篤（放射線診断専門医）
（核医学専門医）
（PET 核医学専門医）

【放射線治療科スタッフ】

診療科長：戸嶋 雅道（放射線治療専門医）

【放射線部スタッフ】

技 師 長：安達 正利
副技師長：阿部 幸成
主 任：佐藤 均
鈴木 景子（放射線治療専従技師）
鈴木 一
阿部 駿
齊藤 仁（放射線治療専従技師）
荒川 勝尚
菅原 白峰
小柳 陽佑
佐々木 育子（大曲より転入）
技 師：小玉 洋子
榊田 聖
吉田 恭平
田口 優輔（大曲より転入）
佐藤 譲
西 智弘
三浦 柊太
青羽 南臣
藤田 寛也

臨時助手職（受付）：

上村 麻理子
鈴木 まゆみ
高田 優子

看護師：藤田 正子（副師長）
宇瀬 敦子（INE 認定看護師）
*インターベンションエキスパートナース
小笠原 瞳（緩和ケア認定看護師）
吉田 知加
佐々木 美由紀

【放射線部門の状況】

～施設認定～

マンモグラフィ検診施設画像認定
IVR 被曝量低減推進施設認定
医療被ばく低減施設認定（予定）

～認定資格～

第1種放射線取扱主任者：7名
医学物理士：2名
放射線治療専門放射線技師4名
放射線治療品質管理士：1名
検診マンモグラフィ撮影診療放射線技師
：7名
磁気共鳴専門技術者：4名
日本核医学専門技師：1名
X線CT 認定技師：8名
日本血管撮影・インターベンション
専門放射線技師：2名
救急撮影認定技師：1名
医用画像情報精度管理士：1名
医療情報技師：3名
放射線機器管理士：2名
放射線管理士：2名
Ai 認定診療放射線技師：3名
画像等手術支援認定診療放射線技師2名
臨床実習指導教員：1名

【業 績】

全国・東北大会座長

令和3年6月25日（Web開催）

（Web開催）

Radiation Therapy Planning Conference in
北東北

戸嶋 雅道

令和3年10月30日（Web開催）
第11回東北放射線医療技術学術大会
医療法施行規則改正における施設の現状
佐藤 均

地方大会・研究会座長
令和3年12月4日（Web開催）
秋田X線撮影技術読影研究会
Warm up lecture
田口 優輔

令和4年3月19日（Web開催）
秋田X線撮影技術読影研究会
補助具のシンポジウム
榊田 聖

～発表～

令和3年4月5日～4月18日（Web開催）
第77回日本放射線技術学会総合学術大会
「移動型X線透視撮影装置におけるX線カットフィルターの有用性と画質の検討」
吉田 恭平

令和3年5月15日
秋田県秋田市 ライブ+ Web開催
肺がん医療・疾患啓発のための市民公開講座
肺がんの最新トピックス～みんなで学ぼう～
in 秋田
「肺がんに対する最新の放射線治療」
戸嶋 雅道

令和3年6月19日（Web開催）
Philips Brilliance Community in Akita
「泌尿器科領域への撮影テクニック」
榊田 聖

令和3年7月10日（Web開催）
第48回日本心血管インターベンション治療学会 東北地方会
コメディカル企画～ある日のヒトコマ～
「左冠動脈無冠尖洞起始を有するPCIに対し術前冠動脈CTが有効だった一症例」
佐藤 均

令和3年8月20日（Web開催）
秋田血管撮影技術研究会
IVR専門技師試験特集「体験記」
佐藤 均

令和3年8月21日（Web開催）
令和3年度学術セミナー
応用レクチャー データ取得と解析「CT」
阿部 駿
応用レクチャー データ取得と解析「核医学」
齊藤 仁

令和3年8月26日（Web開催）
アストラゼネカ社 社内教育講演
「肺癌に対する免疫療法における根治的放射線療法の展望」
戸嶋 雅道

令和3年8月27日（Web開催）
（公社）秋田県診療放射線技師会 中央支部
令和3年度 第1回ナイトセミナー
「施設認定の概要と自己評価について」
佐藤 譲

「当院におけるモダリティ別改善例」
一般撮影・CT …… 榊田 聖
透視・IVR …… 佐藤 均
核医学・マンモグラフィ …… 小玉 洋子

令和3年9月（Web配信講演）
月間RadiChannel
「Radiation Library 11-1 コンツールング」
戸嶋 雅道

令和3年9月（Web配信講演）
月間RadiChannel
「Radiation Library 11-2 呼吸性移動対策と位置合わせ」
戸嶋 雅道

令和3年9月（Web配信講演）
月間RadiChannel
「Radiation Library 12 心保護」
戸嶋 雅道

令和3年10月1日～2日（Web開催）
第30回日本脊椎インストゥルメンテーション学会
「移動型X線透視撮影装置におけるX線カットフィルターの有用性と画質の検討」
吉田 恭平

令和3年10月16日（Web開催）
秋田 Signa User's Meeting
「当院MRI撮影におけるCOVID-19対策」
佐々木 育子

令和3年10月31日（Web開催）
第11回東北放射線医療技術学術大会
「IGRTにおける被ばくと最適な線量の予測」
三浦 柗太

令和3年11月20日（Web開催）
5th Enhanced CT Imaging Seminar
「手指屈筋腱・伸筋腱3D-CTにおけるマスク適用画像の有効性」
阿部 駿

令和3年11月20日（Web開催）
第19回秋田CTテクノロジーフォーラム
「エキスパートから初学者までためになる画質向上の取り組み」
3D画像作成関連
西 智弘

令和3年11月26日（Web開催）
6th Phase ゼロから学ぶMRIセミナー
ビギナーセミナー「スライス厚とスライスプロファイルについて～実験を通して振り返る～」
青羽 南臣

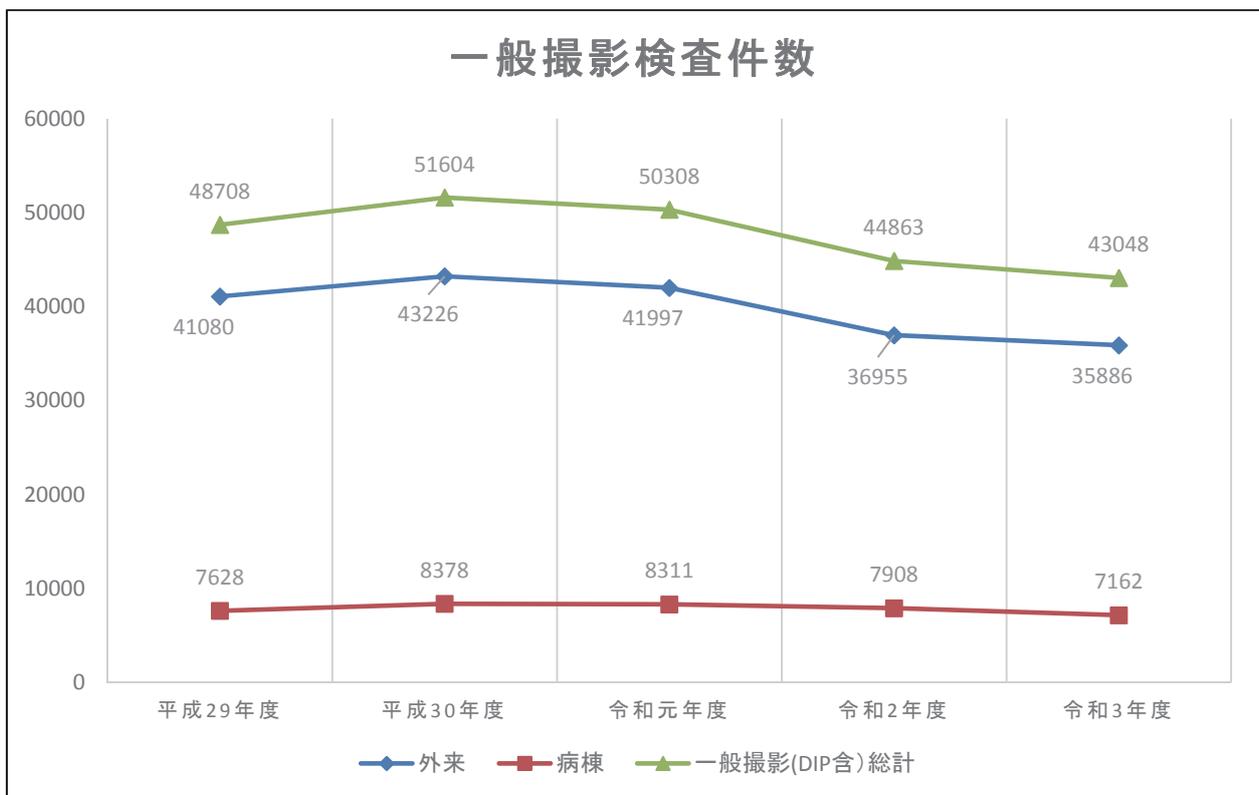
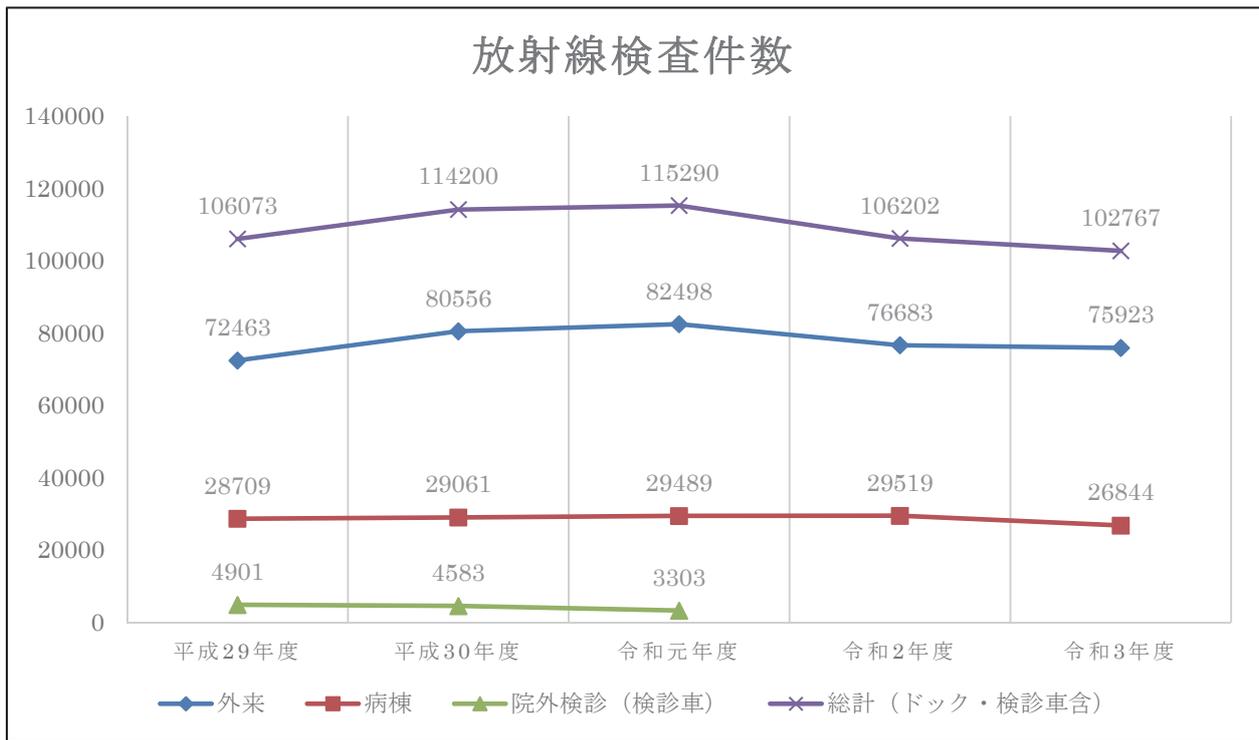
令和3年12月18日（Web開催）
令和3年度第2回放射線安全管理セミナー「改正省令の実施促進」
「線量管理のおさらい」 血管撮影
佐藤 均

令和4年1月22日（Web開催）
マネジメント研修会
「各認定技師制度の紹介」 X線CT認定技師・救急撮影認定技師
鈴木 一

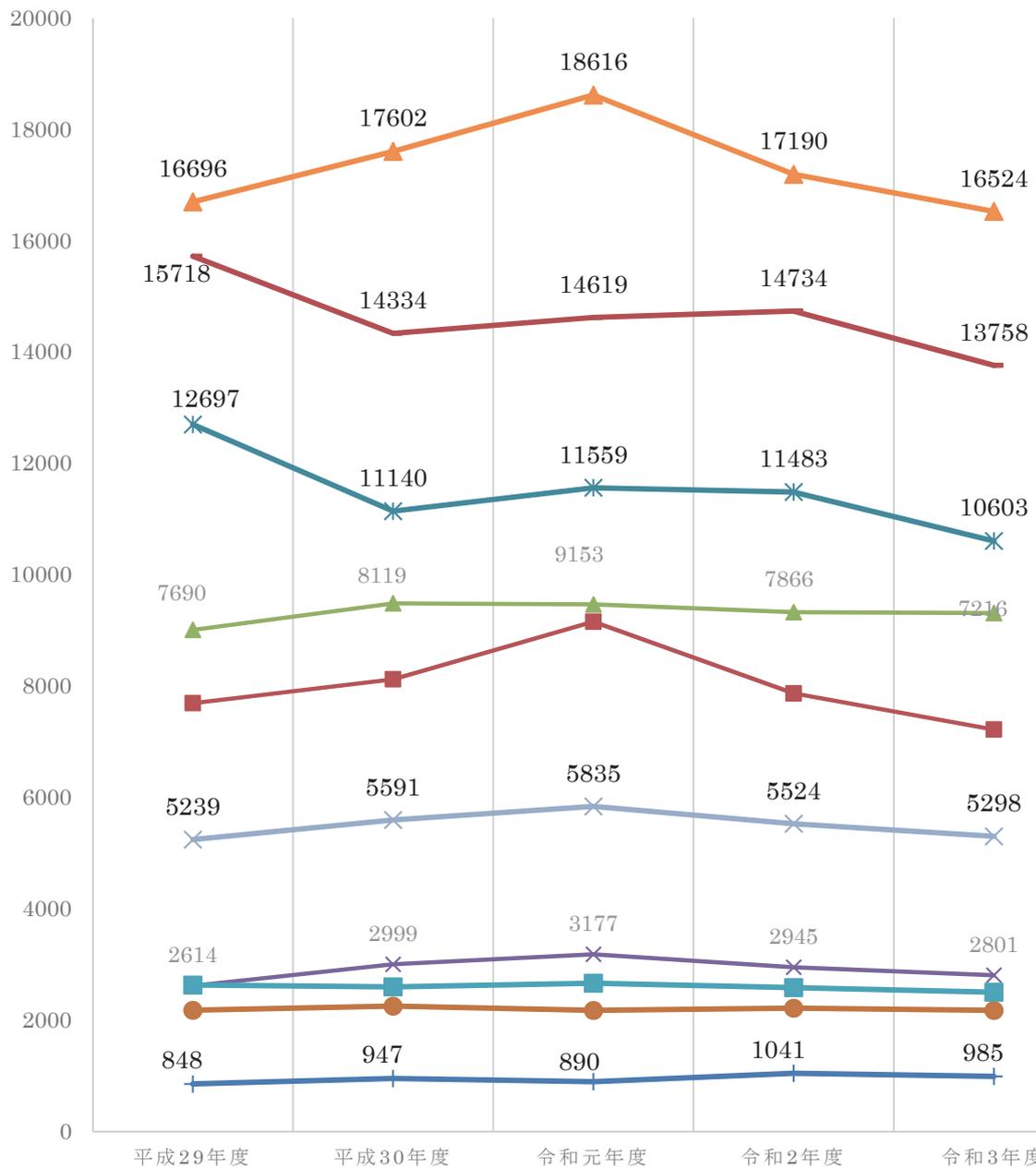
令和4年3月16日
秋田厚生医療センター院内学術発表会
「X線撮影における患者撮影介助時の水晶体被ばくの評価」
青羽 南臣

令和4年3月19日（Web開催）
秋田X線撮影読影技術研究会
補助具のシンポジウム「膝関節上窩軸撮影における補助台」
田口 優輔

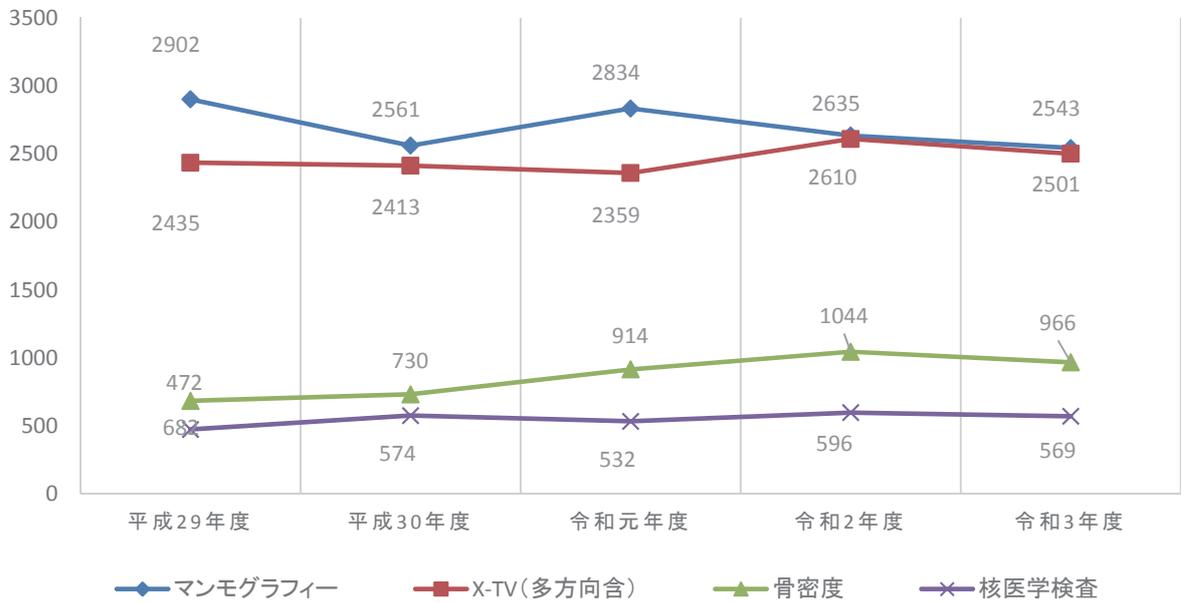
【業務統計】



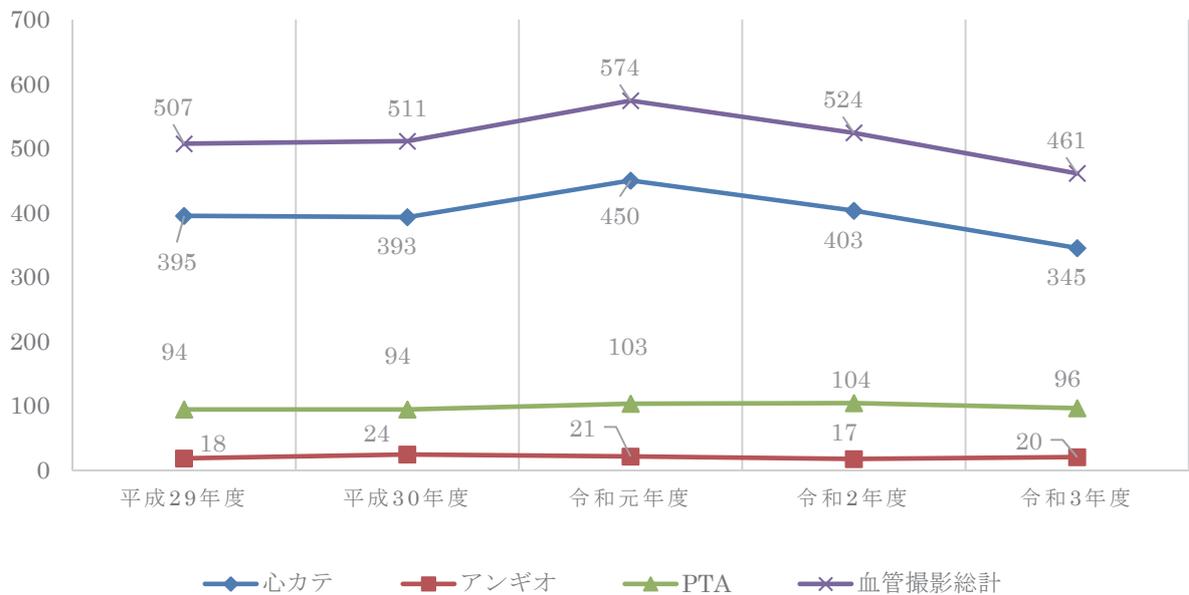
CT・MRI・ポータブル・イメージ件数



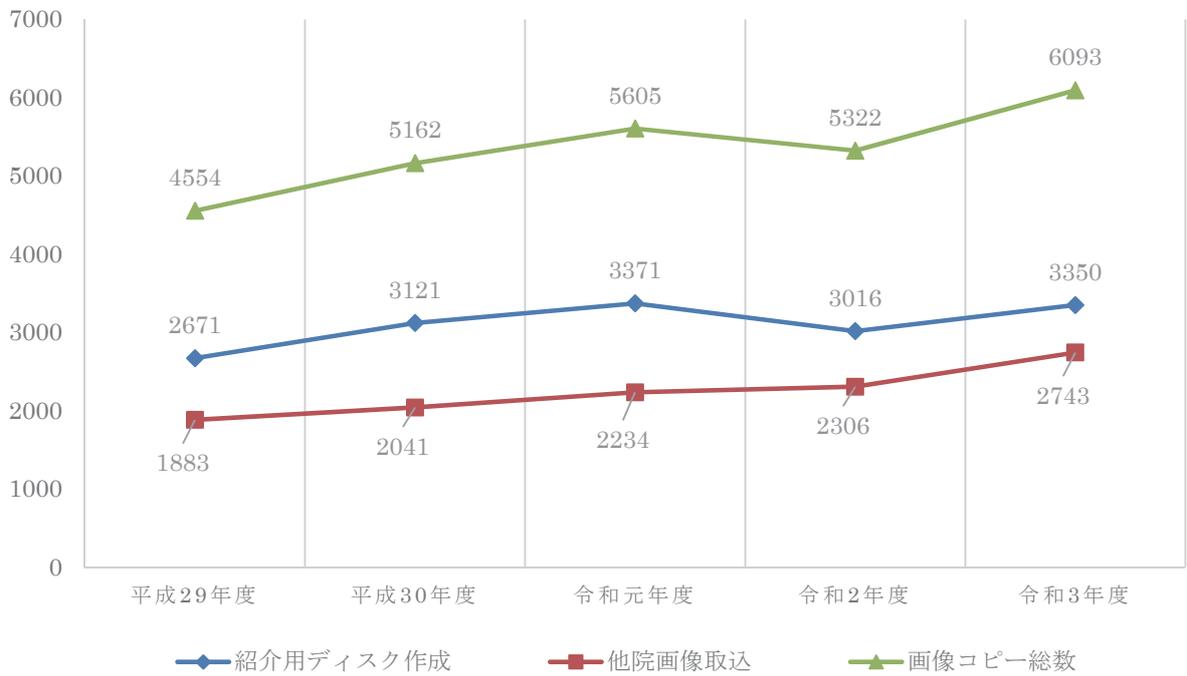
マンモ・透視・骨密度・核医学検査件数



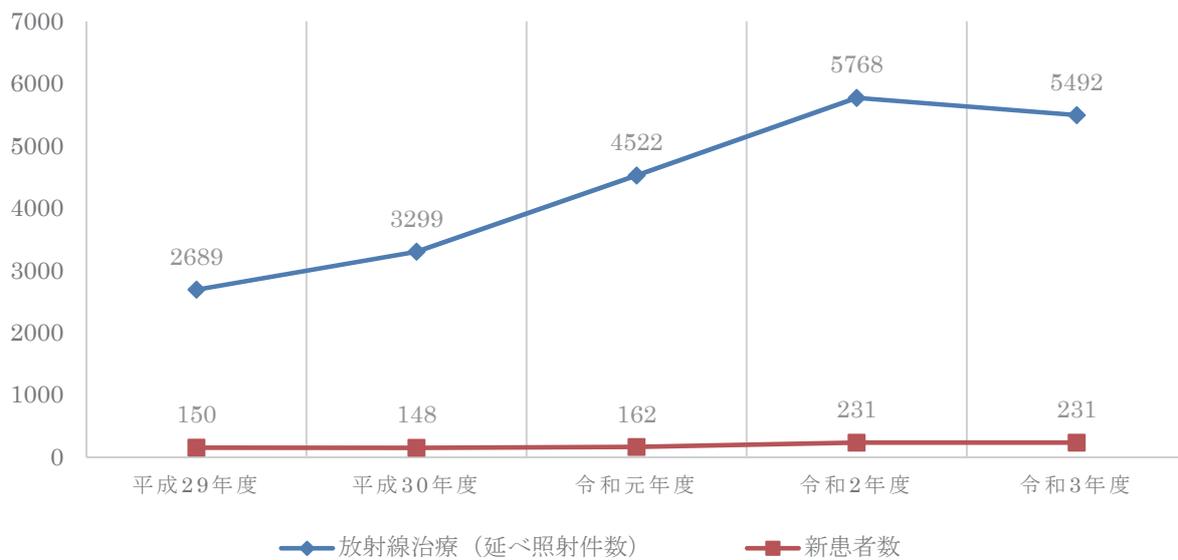
血管造影検査件数



紹介用画像作成・取込件数



放射線治療件数



薬 剤 科

【スタッフ】(令和4年10月現在)

薬 剤 長：川村 浩樹
薬剤主任：平泉 美奈子
薬剤主任：長谷川 和泉
薬剤主任：相原 佳奈子
薬剤主任：土田 望
薬剤主任：鈴木 康之
薬 剤 師：渡部 道雄
薬 剤 師：岡部 真由子
薬 剤 師：梅田 麻理
薬 剤 師：野崎 絢子
薬 剤 師：鎌田 行
薬 剤 師：東 龍太郎
薬 剤 師：田村 拓也
薬 剤 師：平山 元晴
薬 剤 師：日野 未来
薬 剤 師：鈴木 優花
薬剤助手：島田 由記
薬剤助手：夏井 牧子
薬剤助手：本間 美貴
薬剤助手：塚形 仁美
薬剤助手：星野 知哉

【異 動】

R4年 4月 長谷川 和泉 (由利より転入)
R4年 10月 野崎 絢子 (雄勝より転入)
R4年 4月 村木 夕佳子 (能代へ転出)
R4年 7月 濱本 有紀 (退職)

【概 要】

薬剤科では、病棟薬剤業務、薬剤管理指導業務、調剤業務、病棟別注射薬個人セット、高カロリー輸液調製 (IVH)、化学療法剤調製、製剤業務、医薬品管理、医薬品情報提供、麻薬管理等の業務を行っています。

【業務内容】

1. 病棟薬剤業務

病棟における薬品管理、医師・看護師と連携した効果的かつ安全な薬物治療の支援を行っています。

2. 薬剤管理指導業務

薬を正しく服用できるよう、薬効・用量用法・副作用などの説明・指導などを行っています。患者さんに安全で質の高い薬物治療を提供出来るよう取り組んでいます。

3. 調剤業務

医師から発行された処方箋に基づき薬を交付します。もし、処方箋中に疑わしい点 (疑義) がある場合は、発行した医師に問い合わせから調剤を行います。

※表1 表2

4. 中心静脈栄養 (IVH 調製業務)

クリーンベンチにて無菌的に高カロリー輸液を調製します。隔壁開通のみのキット製剤では対応出来ない輸液など、状態に応じた調製を行っています。

※表3

5. 化学療法調製

化学療法剤は事故がおこると患者の生命に影響を与える可能性があります。事前に、投与量・相互作用・休薬期間等を確認し、医療事故が発生しないよう万全の体制で調製を行っています。

※表4

6. 製剤業務

市販されていない特殊製剤を調製しています。(Mohs ペースト、0.02%ヒビテングルコネート液、1%ルゴール液 等)

7. 薬物血中濃度の解析

抗生物質の薬物体内動態を解析し、副作用の予測を行ったり、医師が最適の用量を設定するための資料を提供します。(バンコマイシン・テイコプラニン・アルベカシン 等)

8. 医薬品情報（D I）

[Drug Information Services]

日々刻々と変わる医薬品情報を迅速かつ正確に収集・整理・分類・管理し、院内に提供しています。

1) 薬局だより

(2021.4 第 281 号～ 2022.3 第 299 号)

新規採用薬・削除薬、副作用情報・安全性情報等

2) 医薬品安全性情報・添付文書改定情報

(2021.4 第 160 号～ 2022.3 第 171 号)

採用薬における添付文書改訂情報・新薬情報・
効能効果の追加・変更・注意事項 等

3) インタビューフォーム・使用上の注意・禁忌・

副作用情報・配合変化等の収集と管理 等

9. 持参薬管理

適正な薬品管理を行うために、入院患者の持参薬管理を行っています。また、術前休止薬による手術延期・検査延期を防止するため、入院前鑑別も行っています。

10. 病棟別注射薬個人セット

定期注射指示箋の内容を確認し、病棟・患者別にセット業務を行っています。

11. 血液製剤管理

血液製剤施行患者の患者情報と製剤名・ロット番号を保管管理しています。

[20 年間保管]

12. 麻薬管理

麻薬の取り扱いは「麻薬および向精神薬取締法」により定められています。

【薬剤師綱領】

薬剤師は国から付託された資格に基づき、医薬品の製造、調剤、供給において、その固有の任務を遂行することにより医療水準の向上に資することを本領とする。

薬剤師は広く薬事衛生をつかさどる専門職としてのその職能を発揮し、国民の健康増進に寄与する社会的責務を担う。

薬剤師はその業務が人の生命健康にかかわることに深く思いを致し、絶えず薬学、医学の成果を吸収して、人類の福祉に貢献するよう努める。

記 川村 浩樹

表1 月別処方箋枚数

外来

[単位：枚]

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
H29	667	873	659	792	794	625	657	613	739	952	849	819	9,039
H30	716	759	640	782	699	648	599	584	590	1,350	692	652	8,711
R1	646	772	576	661	737	580	564	544	884	913	645	545	8,067
R2	407	443	451	467	578	576	542	502	512	520	457	571	6,026
R3	666	668	605	657	441	447	495	473	519	646	643	794	7,054

入院

[単位：枚]

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
H29	5,528	5,990	5,736	5,857	5,591	5,546	5,701	5,527	6,015	5,532	5,657	5,973	68,653
H30	5,631	5,866	6,077	6,143	4,918	4,460	4,953	4,755	4,897	4,634	4,288	4,735	61,357
R1	4,889	4,742	4,752	5,174	4,490	4,663	4,865	4,998	5,264	4,608	4,587	5,049	58,081
R2	4,851	3,865	4,584	4,435	3,970	4,097	4,366	4,584	4,557	4,304	4,339	4,696	52,648
R3	4,530	4,129	4,732	4,293	3,460	3,212	4,102	4,348	4,581	4,074	4,227	4,898	50,586

表 2 院外処方箋発行枚数

[単位：枚]

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
H29	12,343	13,127	12,874	12,768	13,334	12,452	13,041	12,713	13,054	12,192	11,951	12,845	152,694
H30	12,167	13,088	12,195	12,987	13,044	11,603	13,509	12,738	12,635	12,606	11,549	12,321	150,442
R1	12,840	12,246	11,714	13,254	12,330	11,973	12,644	11,673	12,278	12,222	10,291	11,535	145,000
R2	11,204	9,725	11,369	11,488	10,710	11,018	11,534	10,045	11,352	9,891	9,487	11,954	129,777
R3	11,099	10,104	11,273	11,362	9,903	11,275	10,778	10,819	11,709	10,280	9,580	11,979	130,161

表 3 I V H調製件数

[単位：本]

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
H29	210	167	193	167	66	111	106	42	94	73	58	94	1,381
H30	79	109	115	72	88	100	75	94	194	161	159	186	1,432
R1	216	164	106	155	136	123	52	63	129	125	154	132	1,555
R2	114	91	86	192	124	180	125	120	95	71	81	33	1,312
R3	11	40	144	152	114	43	48	104	104	60	77	34	931

表 4 化学療法剤調製件数

外 来

[単位：件]

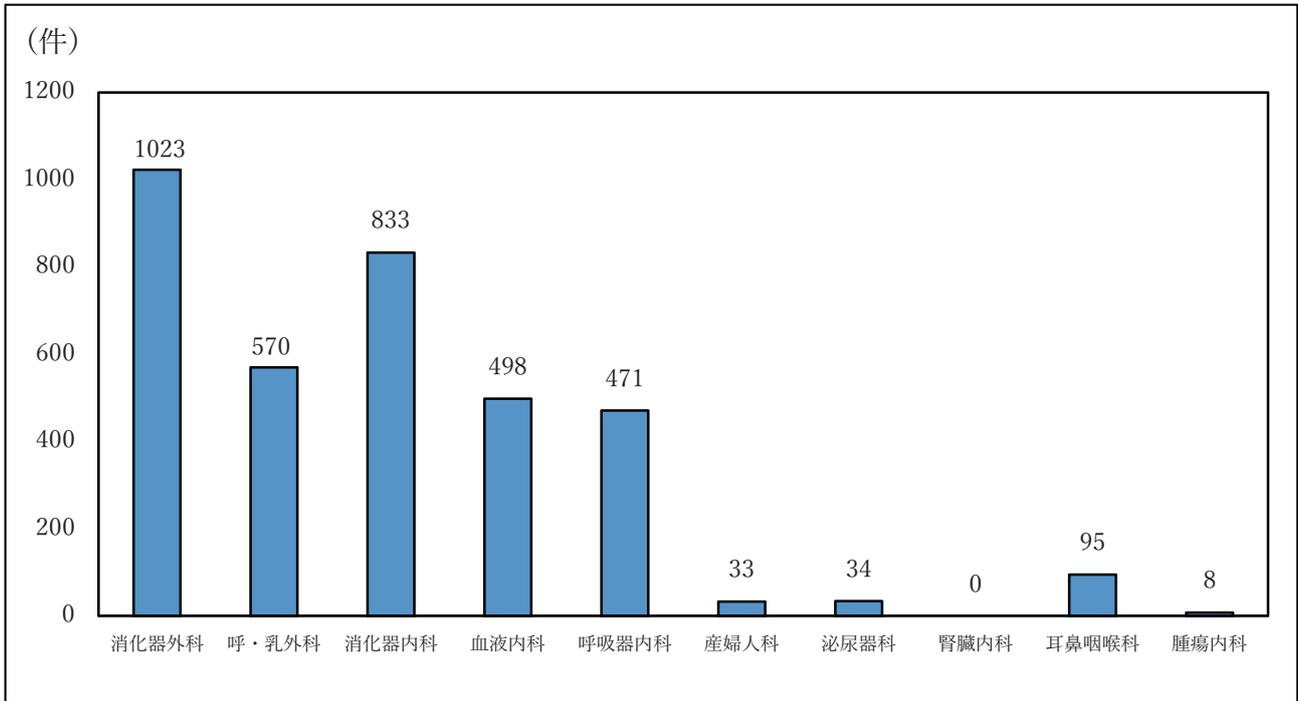
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
H29	261	289	274	280	284	286	279	286	266	307	273	289	3,374
H30	278	291	290	280	298	277	318	315	279	294	295	279	3,494
R1	313	319	304	336	334	325	372	306	300	315	275	299	3,798
R2	313	290	308	299	277	299	299	265	304	281	264	331	3,530
R3	305	271	311	323	318	305	275	265	298	275	265	353	3,564

入 院

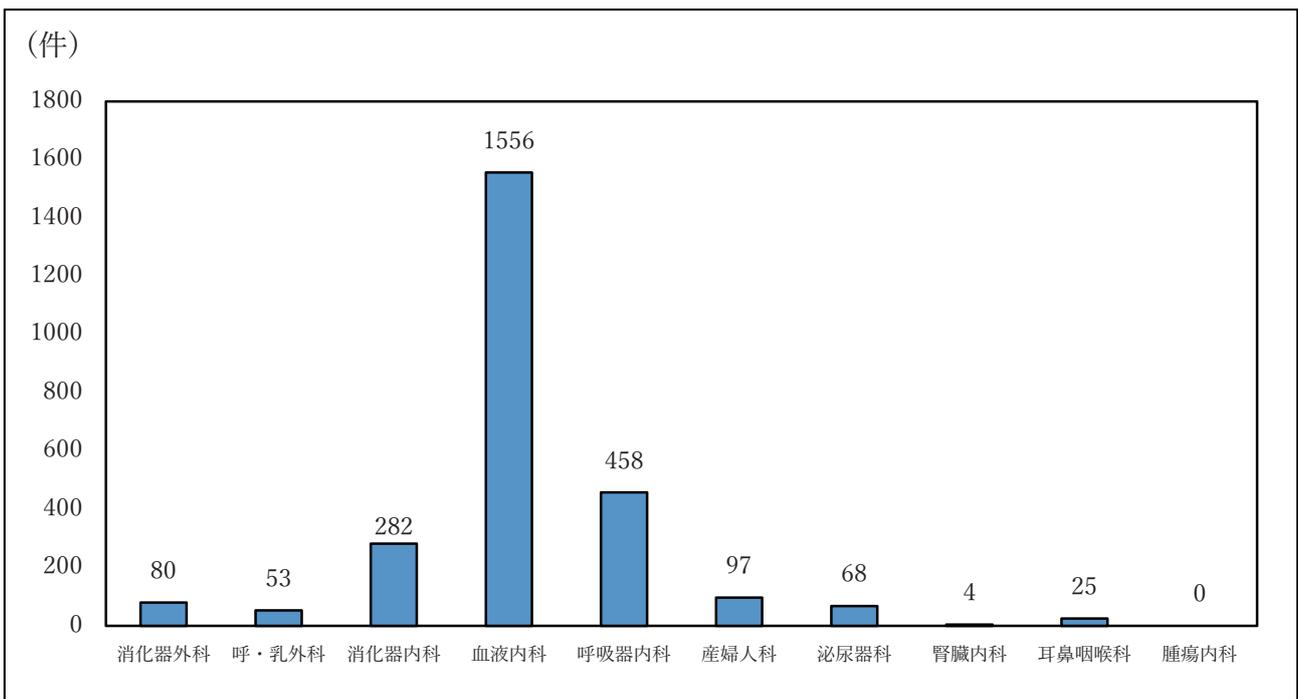
[単位：件]

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
H29	139	138	165	115	120	171	150	147	155	140	110	121	1,671
H30	158	155	137	168	167	133	184	230	182	185	185	189	2,073
R1	218	170	227	225	218	206	228	221	220	238	217	248	2,636
R2	247	222	253	211	160	190	275	228	258	229	225	259	2,757
R3	227	233	224	193	147	183	204	262	231	208	236	274	2,622

令和3年度 診療科別化学療法調製件数 [外来]



令和3年度 診療科別化学療法調製件数 [入院]



臨床検査科

ひとこと

昨年同様コロナ禍での1年となり、病院は勿論、検査科もいつもと違った雰囲気である。

現状を見るに検査全体として2、3人員増を期待したい。

主な気付きについて、以下、技師長から述べて頂くことにしたい。

以上

令和4年10月

検査医 綿貫 勤

2021年度も前年同様、病院全体がコロナの影響を受け、慌ただしい1年となった。

臨床検査科としては大きく以下の4つの出来事が挙げられる。

1) コロナ検査が遺伝子検査(LAMP法)から、抗原定量検査への変更。これにより報告までの時間短縮と、随時検査可能な状況になった。しかし世界的なコロナ検査試薬の枯渇により、中古機器を一時的に導入し対応した。

2) 心臓超音波(UCG)担当者の減少。担当2名のうち昨年1名転勤、今年2年育成した1名が中途退職となり、育成が追い付かず、秋田大学からの応援医師を増やして頂いた。現在も厳しい状態が続いている。

3) 働き方改革と人員のバランス。正職28人中19:9と女性と女性の多い職場のため振休が多い。加えて産休育休が4名(同時期に3名)おり、今後も同様の事態が予想される。

4) 実習生4名受け入れ。コロナ禍で他施設での実習が困難という事から、今年度は新潟医療技術専門学校生2名、北里大学保健衛生専門学院生2名の実習生を受け入れた。

学生にとっても、教える側のスタッフにとっても、記憶に残る経験になったと思われる。

この様な苦しい状況が次年度以降改善される事を願うばかりである。

文責 技師長 大山葉子

A. 当科の2021年度の目標と実績

【目標1：安全対策の強化】

2021年度のインシデントレポートは4件、すべて“検査に関するインシデント”であった。レベルは0～2の範囲内であり、重大なインシデントはなかった。

【目標2：精度管理の向上】

a. 精度保証施設認定取得

(日本臨床検査標準協議会)

2020年4月～2022年3月

b. 外部精度管理調査

・日本医師会

総合評価 95.3点 (評価対象 49項目)

D評価1項目(生化学)

・秋田県臨床検査技師会

(評価対象 150項目)

D評価1項目(輸血)

・日本臨床衛生検査技師会

(評価対象 257項目)

D評価2項目(生理)

※D評価は全ては正報告済みである。

【目標3：診療支援】

a. 外来採血支援継続

(2020年4月～)

b. 新型コロナウイルス抗原定量検査開始

(2021年8月～)

c. 臨床研修医の支援

・解剖及び臨床病理検討会

・超音波検査研修及び発表支援

【目標4：効率性と経済性の向上】

a. 全部門件数(検診・外注除く)が前年度比0.7%減、保険点数は3.2%増であった。(グラフ1)

取得済管理加算(検体検査管理加算Ⅳ等)を今後も継続できるよう努力したい。

b. 輸血用血液の廃棄率は、昨年度(0.20%)より更に減少(0.19%)し、目標値(0.30%)を下回った。

持続できる様、引き続き臨床側への協力を働きかけていきたい。(グラフ2)

- c. 外注委託はBMLで、昨年に比し件数は7.0%増、委託費は6.3%増であった。

B. 機器整備

- 2021年6月 GALILEI 2台
(細菌 インキュベーター)
- 2021年9月 BIOSAFETY CABINET
(細菌 安全キャビネット)
- 2022年3月 BCTMate
(細菌 検査システム)

C. 業務実績

【発表・座長・司会】

- a. 検査科内学習会
技師のスキル向上目的に定期的に開催(表1)
- b. 学会発表生理(超音波)3題(表2)
- c. 日本超音波医学会研修施設のため、臨床研修医の発表支援4題(表3)
- d. 座長
日本超音波医学会第63回東北地方会学術集会 消化器Ⅳ 大山葉子
- e. 司会
第47回日本超音波検査学会学術集会
教育講演(基礎領域) 大山葉子
- f. 講演
Meet the Expert on the Web
大山葉子

D. 臨床検査科人員動静

- 退職** 千葉陸実 検査技師 2022年2月
佐藤美華 検査技師 2022年3月
遠藤まり子 検査技師(臨時) 2022年3月

E. 臨床検査部門役職員(2021年4月現在)

- 検査管理医 佐々木俊樹
- 検査医員 綿貫 勤
- 検査技師長 大山葉子
- 検査副技師長
- 病理検査部門 渡邊正人
- 微生物検査部門 藤田郁子
- 生理/超音波検査部門 三浦百子

検査主任

- 生理/心電図検査部門 佐々木正則
- 病理検査部門 高橋珠美
- 生理/超音波検査部門 紺野純子
- 生化学検査部門 柏崎 優

臨床検査部門構成

検体検査部門

- (血液・輸血・一般・生化学・微生物・受付)
- 藤田郁子、柏崎優、渡辺純子、原崇、山平舞、佐藤裕馬、上杉美早紀、佐藤美華、諏訪瑞穂、児玉光、戸堀健司、東海林朔、中村ふき子、遠藤まり子、三浦美里、加藤玲子、佐々木恵美、加藤享

病理細胞診部門

- 渡邊正人、高橋珠美、和田夏実、渡辺恵

生理検査部門

- (心電図・脳波・呼吸機能・超音波等)
- 大山葉子、三浦百子、佐々木正則、紺野純子、草皆千春、高橋律子、泉田麻愛、平塚美樹、石井安季穂、千葉陸実、渋谷夏海、淡路祐介、山田真理、田口政子、渡部美由紀

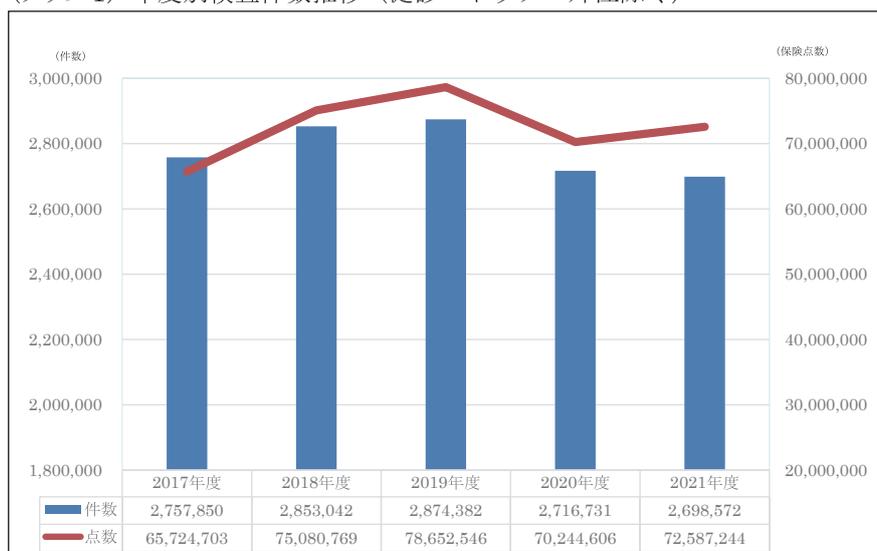
中央処置室部門

- 佐々木智子、大野恵美、小島百合枝(洗浄室兼務)、野本はるみ(病理兼務)

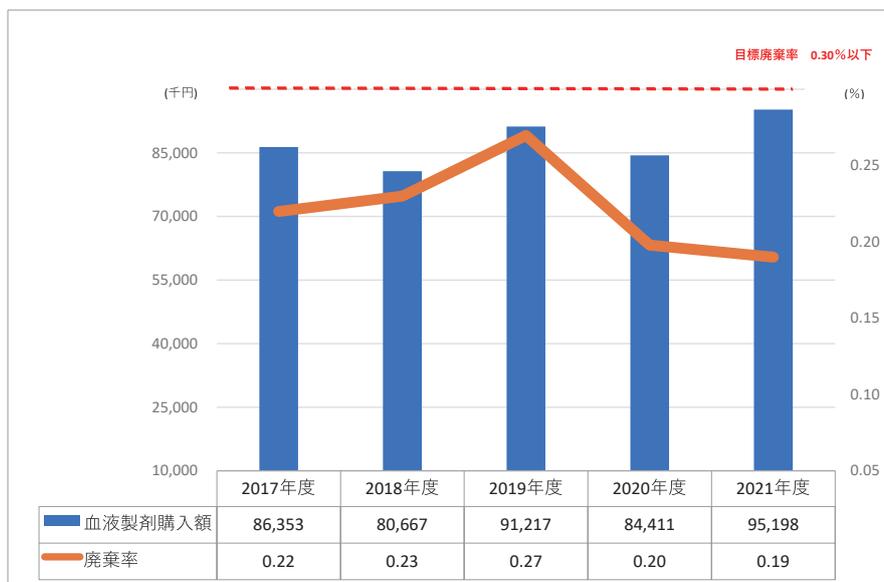
F. 検査関連有資格者

資格名称	資格取得者
細胞検査士	渡邊正人、高橋珠美、和田夏実、戸堀健司
超音波指導検査士 (腹部領域)	大山葉子
超音波検査士	大山葉子、三浦百子、佐々木正則、紺野純子 草皆千春、高橋律子、泉田麻愛、山田真理
糖尿病療養士	柏崎優、児玉光
特定化学物質及び四アルキ ル鉛等作業主任者	渡邊正人、高橋珠美、和田夏実
有機溶剤作業主任者	渡邊正人、和田夏実
遺伝子分析科学認定士 (初級)	渡辺恵
BMマイスター	柏崎優
二級臨床検査士(血液)	石井安季穂
毒物劇物取扱責任者(一般)	石井安季穂、渡辺恵、児玉光、渋谷夏海

(グラフ1) 年度別検査件数推移 (健診・ドック・外注除く)



(グラフ 2) 輸血：年度別 血液製剤購入額・廃棄率



(表 1)

令和 3 年度 検査科学習会 内容一覧

日付	曜日	演題名	演者	所属
2021.4.20	火	●血液型検査と緊急輸血対応	淡路祐介	輸血
2021.5.25	火	●Dlco 検査について	上杉美早紀	生理
2021.7.27	火	●髄液検査について	戸堀健司	一般
2021.8.31	火	●心筋梗塞とたこつぼ型心筋症	千葉睦実	生理
2021.9.28	火	●血液培養について	藤田郁子	細菌
2021.10.26	火	●SARS-CoV-2 Ag 検査について	東海林朔	生化学
2021.12.14	火	●術中迅速診断の実際	岩本夏実	病理
2022.1.18	火	●免疫組織化学染色について	渡辺 恵	病理
2022.2.22	火	●当院における ABR 検査	渋谷夏海	生理
2022.3.22	火	●ITP について	原 崇	血液

(表 2)

臨床検査技師 発表 (Web 開催含む)

年	月	開催地	学会名	演題名：発表者、共同演者
2021	5	現地開催 LIVE 配信	日本超音波 医学会第 94 回学術 集会	門脈ガスを認めた急性胆管炎の 1 例：大山葉子 ¹ 、石田秀明 ² 、長沼裕子 ³ 、星野孝男 ⁴ 、田村知大 ⁴ 、渡部博之 ⁴ 、佐藤佳澄 ⁵ 、作佐部大 ⁵ 、三浦百子 ¹ 、紺野純子 ¹ 、(1 秋田厚生医療センター 臨床検査科、2 秋田赤十字病院 超音波センター、3 市立横手病院 消化器科、4 秋田厚生医療センター 消化器内科、5 秋田厚生医療センター 救急センター)
	9	Web 開催	日本超音波 医学会第 62 回東北 地方会学術 集会	門脈浸潤を伴った膵悪性神経内分泌腫瘍 (NEC) の二例：大山葉子 ¹ 、石田秀明 ² 、長沼裕子 ³ 、星野孝男 ⁴ 、津田栄彦 ⁴ 、三浦百子 ¹ 、紺野純子 ¹ 、草皆千春 ¹ 、高橋律子 ¹ 、泉田麻愛 ¹ 、(1 秋田厚生医療センター 臨床検査科、2 秋田赤十字病院 超音波センター、3 市立横手病院 消化器科、4 秋田厚生医療センター 消化器内科)
2022	3	Web 開催	日本超音波 医学会第 63 回東北 地方会学術 集会	胃軸捻転の一例：大山葉子 ¹ 、石田秀明 ² 、長沼裕子 ³ 、星野孝男 ⁴ 、宮部賢 ⁵ 、大町康一 ⁶ 、三浦百子 ¹ 、紺野純子 ¹ 、草皆千春 ¹ 、高橋律子 ¹ (1 秋田厚生医療センター 臨床検査科、2 秋田赤十字病院 超音波センター、3 市立横手病院 消化器科、4 秋田厚生医療センター 消化器内科、5 秋田大学大学院 医学系研究科、6 秋田厚生医療センター 放射線科)

(表 3) 日本超音波医学会関連 医師発表

年	月	開催地	学会名	演題名：発表者、共同演者
2021	9	Web 開催	日本超音波医学会第 62 回東北地方会学術集会	胆嚢結腸瘻の一例：三浦優衣 ¹ 、石田秀明 ² 、長沼裕子 ³ 、星野孝男 ⁴ 、小林直大 ⁴ 、渡部博之 ⁴ 、長岐雄志 ⁵ 、齊藤礼次郎 ⁵ 、大山葉子 ⁶ 、三浦百子 ⁶ 、(1秋田厚生医療センター 研修センター、 ² 秋田赤十字病院 超音波センター、 ³ 市立横手病院 消化器科、 ⁴ 秋田厚生医療センター 消化器内科、 ⁵ 秋田厚生医療センター 消化器外科、 ⁶ 秋田厚生医療センター 臨床検査科)
2022	3	Web 開催	日本超音波医学会第 63 回東北地方会学術集会	<p>C 型肝炎ウイルス感染に続発した後腹膜悪性リンパ腫の一例：佐々木琢¹、石田秀明²、星野孝男³、道下吉広⁴、齊藤礼次郎⁵、宇佐美修悦⁵、高橋正人⁶、長沼敏雄⁷、長沼裕子⁸、大山葉子⁹、(1秋田厚生医療センター 研修センター、²秋田赤十字病院 超音波センター、³秋田厚生医療センター 消化器内科、⁴秋田厚生医療センター 血液内科、⁵秋田厚生医療センター 消化器外科、⁶秋田厚生医療センター 病理診断科、⁷長沼医院 消化器内科、⁸市立横手病院 消化器科、⁹秋田厚生医療センター 臨床検査科)</p> <p>正常肝に発生した原発性肝細胞癌の一例：中野瞬¹、石田秀明²、星野孝男³、柴田聡⁴、齊藤礼次郎⁴、佐々木俊樹⁵、長沼裕子⁶、大山葉子⁷、(1秋田厚生医療センター 研修センター、²秋田赤十字病院 超音波センター、³秋田厚生医療センター 消化器内科、⁴秋田厚生医療センター 消化器外科、⁵秋田厚生医療センター 臨床病理科、⁶市立横手病院 消化器科、⁷秋田厚生医療センター 臨床検査科)</p> <p>胆管細胞腺腫の一例：三浦優衣¹、石田秀明²、星野孝男³、佐々木智彦⁴、齊藤礼次郎⁴、佐々木俊樹⁵、長沼裕子⁶、紺野純子⁷、大山葉子⁷、(1秋田厚生医療センター 研修センター、²秋田赤十字病院 超音波センター、³秋田厚生医療センター 消化器内科、⁴秋田厚生医療センター 消化器外科、⁵秋田厚生医療センター 病理診断科、⁶市立横手病院 消化器科、⁷秋田厚生医療センター 臨床検査科)</p>

リハビリテーション科

I リハビリテーション科組織

村井 肇	医師
小西 奈津雄	医師
松岡 悟	医師（心大血管疾患）
庄司 亮	医師（心大血管疾患）
石澤 暢浩	医師（非常勤）
山浅 勉	技師長（理学療法士）
佐藤 奈菜子	副技師長（理学療法士）
加賀谷 由美	主任（作業療法士）
長谷川 香織	主任（言語聴覚士）
菅原 智美	主任（理学療法士）
渡邊 瑞穂	主任（理学療法士）
佐藤 美樹	理学療法士
菊地 有香	理学療法士
佐藤 陽介	理学療法士
佐藤 大道	理学療法士
阿部 あき	理学療法士
小林 一葉	理学療法士
鎌田 哲彰	理学療法士
佐藤 ゆりか	理学療法士
小池 彩花	理学療法士
滝田 大知	理学療法士
藤嶋 諒	理学療法士
石黒 里子	作業療法士
高野 千恵	作業療法士
照井 希実	作業療法士
鎌田 藍	作業療法士
後藤 梓	作業療法士
三浦 真澄	作業療法士
小池 由登	作業療法士
村形 莉佳	言語聴覚士
手嶋 咲季	言語聴覚士
熊谷 洋子	外来看護師
鈴木 美穂	リハビリ補助員

II 臨床実習・研修生受け入れ

理学療法部門

秋田大学医学部保健学科

総合臨床実習（8週・1名）

秋田リハビリテーション学院

総合臨床実習（7週・2名）

作業療法部門

秋田大学医学部保健学科

総合臨床実習（6週・1名）

III 総括

令和3年度は理学療法士（PT）15名、作業療法士（OT）8名、言語聴覚士（ST）3名、看護師（心リハ対応）1名、事務補助員1名の計28名で業務にあたりました。

当科では令和元年度にチーム制を導入し3年目となり、徐々にその成果が出てきました。1つ目は患者さんの治療以外の業務の見直しをしたことにより恒常的な時間外勤務を減らすことができたことです。2つ目は包括病棟の単位を管理し初期加算の割合を増やし、単価を上げたことです。3つ目は配属になった3名の新入職員に副担当がつき、複数スタッフが1人の患者さんに関わることで治療の質を維持し、リスク管理ができたことです。

また令和3年度は新型コロナウイルス感染症によるクラスター発生で、リハビリテーションが2週間休止になりました。この機会に当科独自の感染症対策マニュアルを作成したことで、スムーズにリハビリテーションを再開することができました。当科は入院と外来の患者さんが混在する部門のため、引き続き感染対策について危機感をもって対応していきたいと思えます。

今後も当院の基本理念である患者さん中心の医療の実践、質の高い医療の提供を念頭に患者さんに寄り添い、より質の高いリハビリテーションを提供できるようにスタッフ一同研鑽していきます。

IV リハビリテーション科資料

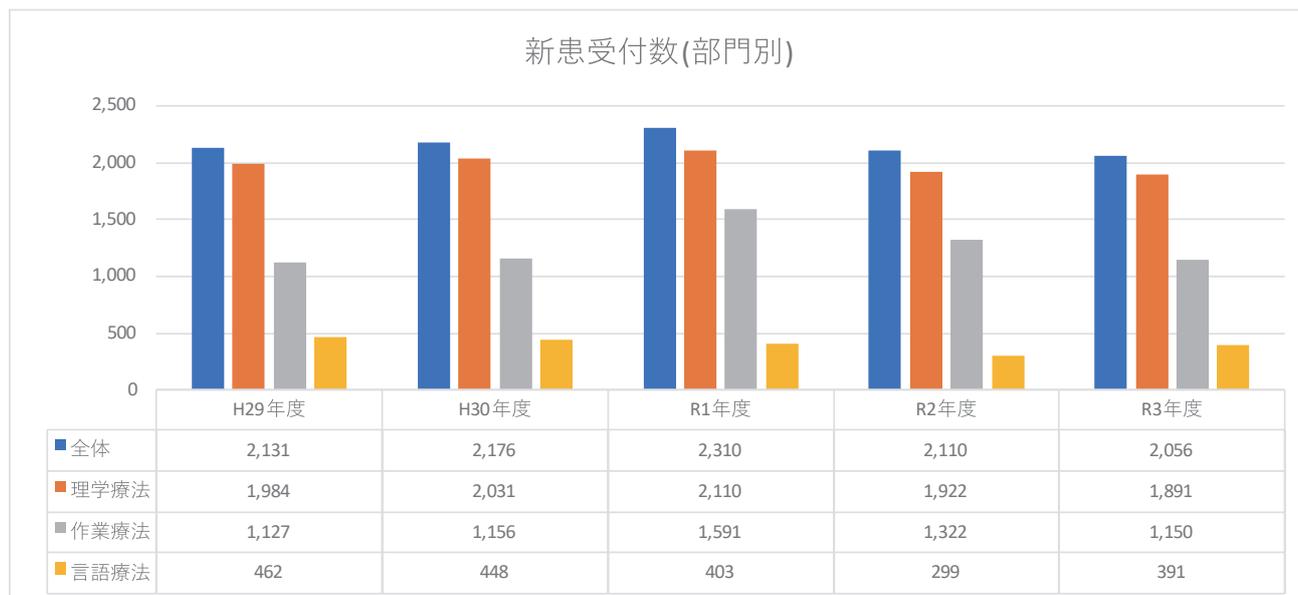
資格

NPO 法人日本心臓リハビリテーション学会認定 心臓リハビリテーション指導士	3名
3 学会合同呼吸療法認定士認定委員会 3 学会呼吸療法認定士	1名
(一般) 日本言語聴覚士協会 認定言語聴覚士 (摂食・嚥下障害)	1名
(公社) 日本理学療法士協会 認定理学療法士 (運動器)	1名
(公社) 日本スポーツ協会 日本スポーツ協会認定アスレチックトレーナー	2名
秋田県糖尿病認定指導士	1名
秋田県リハビリテーション研究会 がんのリハビリテーション研修課程修了	18名

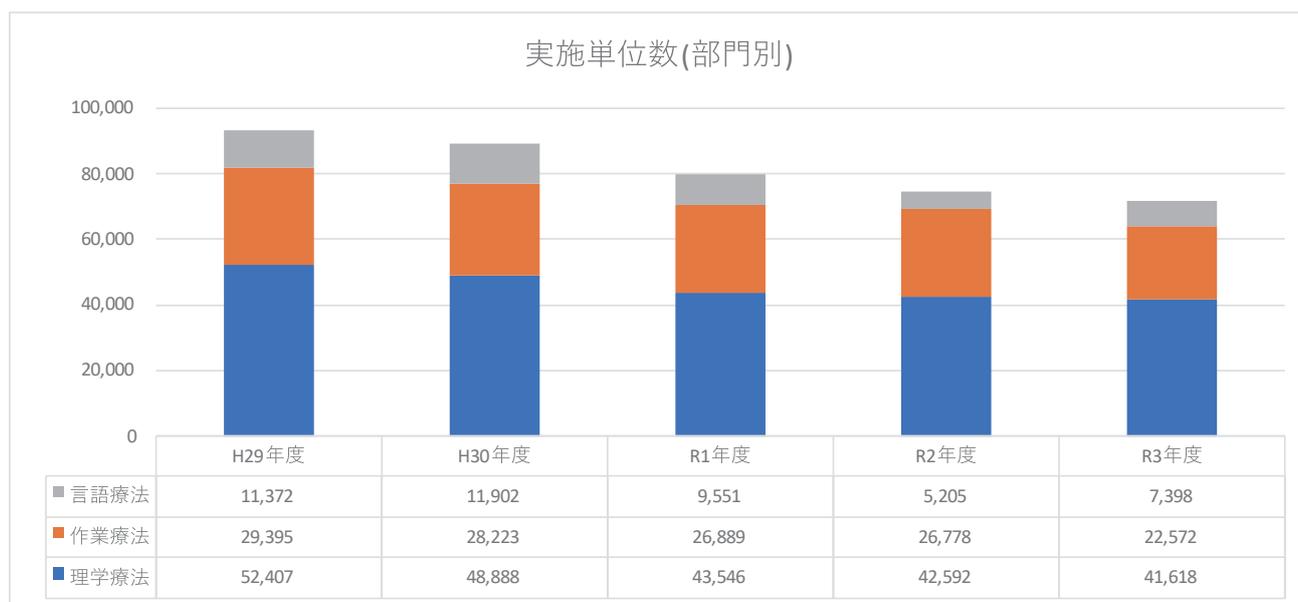
新患受付件数（診療科別）

	H29 年度	H30 年度	R1 年度	R2 年度	R3 年度
整形外科	1,026	1,099	1,207	1,124	1,015
脳神経外科	245	257	282	237	250
循環器内科	206	194	239	241	232
糖尿病・代謝内科	122	114	138	85	86
呼吸器内科	153	176	120	84	114
消化器内科	131	111	130	99	105
腎臓内科	48	40	38	47	33
消化器外科	67	52	44	51	54
救急総合診療部	41	30	40	38	60
血液内科	54	61	36	45	52
泌尿器科	18	20	14	25	23
産婦人科	2	3	0	2	7
耳鼻科	10	12	13	16	15
その他	8	7	9	16	10
合計	2,131	2,176	2,310	2,110	2,056

新患受付件数（部門別）



実施単位数（部門別）



栄 養 科

【 スタッフ 】 (令和4年3月現在)

管理栄養士 栄養技師長 佐藤美香子
〃 栄養副技師長 田 仲 誠 子
〃 吉 田 晴 菜
〃 高 橋 江 奈
〃 藤 原 志 保
〃 田 中 さ くら

給食調理業務(委託)
光 風 舎 38名

秋田県厚生連の取り組みである統一献立が当院に導入となり、令和4年3月2日で一年が経ちました。大きな混乱なく現在に至る事ができ、関係の皆様にお礼申し上げます。今後も調理委託職員と協力し、安心・安全な食事提供に栄養科一同尽力いたします。

栄養食事指導につきましては、様々な方面からご指導頂き、また他部門からもご協力を賜り、今年度は昨年度の倍の件数となりました。引き続き、各種指導の充実に励んで参ります。

【 主な業務 】

- ・給食管理
- ・栄養管理計画書
- ・栄養食事指導(入院、外来)
- ・糖尿病透析予防指導
- ・栄養情報提供書
- ・各種委員会
事務局

┌	栄養管理委員会(年4回)
	NST委員会(月2回)
- ・各種カンファランス
(医療安全、緩和、呼吸器、褥瘡、NST)
- ・嗜好調査(年4回)
- ・特定給食施設等栄養管理報告書
(年1回、秋田市保健所提出)
- ・調査依頼回答
(全国病院栄養部門実態調査 等)

【 お祝い膳提供 】

- ・誕生日お祝い膳 237 件
- ・出産お祝い膳 225 件

【 年間行事食 】

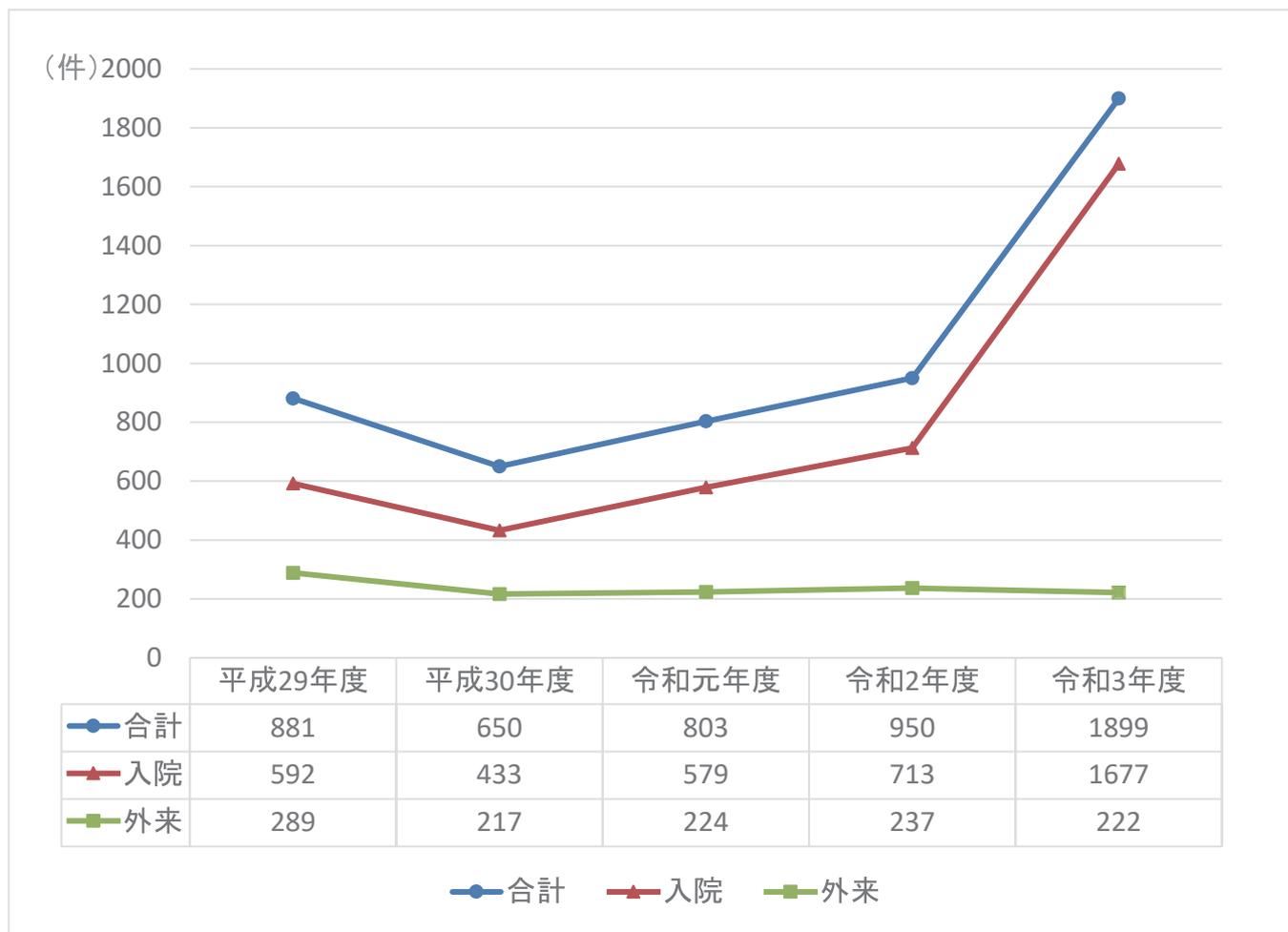
- 4月…花見献立
- 5月…子供の日
- 6月…旬の県内産果物
- 7月…七夕
土用の丑の日
- 8月…栄養の日
お盆料理
- 9月…十五夜
敬老の日
秋分の日
- 10月…十三夜
ハロウィン
- 11月…文化の日
- 12月…冬至
クリスマス
大晦日
- 1月…元旦
正月献立
成人の日
- 2月…節分
バレンタインデー
- 3月…ひな祭り
ホワイトデー
春分の日

【栄養食事指導件数】 1899 件

令和3年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入院	113	112	137	142	65	101	159	176	169	138	167	198	1677
外来	24	27	3	19	9	10	27	18	24	27	17	17	222
合計	137	139	140	161	74	111	186	194	193	165	184	215	1899

【過去5年間の推移】



【糖尿病透析予防指導件数】 183 件

【栄養サポートチーム加算件数】 332 件

【栄養情報提供加算件数】 81 件

令和3年度給食収入状況

給食収入(円)		食 数	(普通食)	(加算特食)	取扱患者数
R3 4月	18,236,220	26,566	16,401	10,165	8,855
5月	19,009,664	27,717	16,963	10,754	9,239
6月	19,114,725	27,990	17,850	10,140	9,330
7月	18,497,494	27,031	16,881	10,150	9,010
8月	15,505,242	22,686	14,190	8,496	7,562
9月	13,384,487	19,672	13,110	6,562	6,557
10月	17,408,459	25,480	16,351	9,129	8,493
11月	17,471,967	25,528	15,896	9,632	8,509
12月	17,351,707	25,225	15,153	10,072	8,408
R4 1月	17,587,030	25,522	15,437	10,085	8,507
2月	17,090,413	25,040	16,582	8,458	8,346
3月	20,133,869	29,458	18,961	10,497	9,819
合 計	210,791,277	307,915	193,775	114,140	102,635
月平均	17,565,940	25,660	16,148	9,512	8,553

臨床工学科

【スタッフ】(2021年4月現在)

臨床工学技士：石山 博之（技師長）
野崎 豪（副技師長）
館岡 芳昭（主任）
石井 尚之
鈴木 絵利可
熊谷 雄太
大塚 いずみ
北嶋 久寛
小松 太一
三上 智華（新人）

【1年間の経過】

2021年4月に2名の転勤と臨時職員1名の北秋田への配属が決まった。それにもない北秋田・大曲から男性技士各1名、新人女性技士1名で技士が10名と人数の変わりはない。しかし全体の3割が入れ替わると、業務にも大きく支障があり、拘束・準夜などの回数の負担や業務経験者の減少で各部署にご迷惑を掛けることがありましたが、秋頃には昨年と同様の業務体制に戻すことができた。

当科で携わっている業務は大きく分けて、血液浄化業務、循環器業務、手術室業務、内視鏡業務、機器管理業務となります。今年度の各業務での特筆すべき事項を以下に述べる。

血液浄化業務では、腎臓内科の病棟編成にもない病棟透析が大幅に減少し、その分が腎臓病センターでの透析施行回数が増加した。今年の透析施行件数は23,000件を超え、過去5年間でも一番多い件数になりました。今年から、雄勝中央病院に腎内科の先生が4カ月ごとの交代制で1名派遣することとなり、当院の腎内科の先生が常時3人体制となった。これまで以上に、先生方との連携の重要性を感じるようになった。

新規透析機器導入は1台で、10年以上の機器が10台以上もあり今後は計画的に更新していきたいと考えています。

循環器業務では、昨年から継続してCOVIDの影響を受け続けた1年であった。特に、8月には院内感染により、約半月にもおよぶ外来

休止や新規入院患者受け入れ中止となり、心臓カテーテル検査稼働件数・PCI件数ともに直近10年で最も少ない1年となった。また、9月からは由利組合総合病院と折合いをはかり、ABL治療が隔週予定となって件数も減少した。その中で、緊急カテーテル件数は30件と少なかったがdoor to balloon time(DTBT)、90min達成率50%となり早期治療へ貢献することができた。

さらに、ペースメーカ植込み件数は新規・交換合わせて70件と高水準の件数を維持した。また、教育・育成に関しては、循環器業務対応スタッフを1名増員することができた。COVIDにより、活動が抑制される中でも飛躍した1年であった。

手術室業務では、COVID拡大や院内クラスターに伴い手術制限があったが、整形外科手術にて使用する術中神経モニタリング、自己血回収装置の操作件数は例年通りとなった。また、各科の内視鏡下手術が増加し、超音波メスやレーザーメスなどの特殊機器の立ち合い業務が増えた。手術室の機器管理では、麻酔器、生体情報モニター、无影灯を更新して、新規には顕微鏡を導入することができた。また、各機器の定期点検を実施し、安全・円滑に手術が施行できるよう機器管理に重点を置くことができた。

内視鏡センター業務では、昨年に引き続きEST、ERCPなどの透視室業務を中心に食道バルーン、大腸ステントなどの治療に立ち合った。治療の種類やその治療に入る先生や看護師の数に応じてアシスト業務や外回り業務を行った。機器管理では、電気メスの1ヶ月点検を行い、モニター類の修理対応にも応じることができ、治療を円滑に施行することに協力できた。今後も、医療機器の分野で協力できることは何でもやっていきたいと考えています。

医療機器管理業務では、COVIDの影響で年間点検件数が8400件くらいとなり、昨年度より1500件少ない状況になりました。これからも新しい医療機器の導入や、機器更新が進んでいくと推察されるが、保守管理の重要性をスタッフ一同十分に理解し、正確で丁寧な点検を日々行うことで、医療機器の安全性確保と有効性維持に繋げていきたい。また、臨床業務では、各現場において技士一人一人が、質の高い技術

提供を心がけ、患者様、コ・メディカルスタッフからより信頼してもらえるような組織作りに今後も努めていきたいと考えている。

(記：石山博之)

【業 績】

《発表》

《学会・研修》

- ・新型コロナウイルス感染症対策により各学会・研修の参加を中止する。
- ・Webセミナー開催に各自で参加する。

【臨床工学技士関連資格取得者】

- ・透析技術認定士
石井尚之、大塚いずみ、北嶋久寛
- ・3学会合同呼吸療法認定士
石山博之、石井尚之、北嶋久寛
- ・心血管インターベンション技師
野崎豪、館岡芳昭
- ・第2種ME技術実力検定
石山博之、大塚いずみ、北嶋久寛

血液浄化法 延べ患者数

		2017年		2018年		2019年		2020年		2021年	
		月平均	延べ数								
日中	入院	171.3	2,055	173.4	2,081	188.0	2,256	181.9	2,183	200.3	2,404
	外来	1,340.8	16,090	1,374.9	16,499	1,364.3	16,371	1,336.8	16,042	1,433.8	17,206
	計	1,512.1	18,145	1,548.3	18,580	1,552.5	18,627	1,518.8	18,225	1,634.2	19,610
	1日平均	58.2		59.6		59.7		56.2		50.5	
夜間	入院	1.3	15	0.0	0	1.3	15	0.3	4	1.2	17
	外来	303.3	3,640	317.8	3,813	329.6	3,956	285.3	3,424	287.3	3,448
	計	304.6	3,655	317.8	3,813	330.9	3,971	285.7	3,428	288.7	3,465
	1日平均	23.4		24.4		25.5		21.9		20.6	
入院	合計	172.5	2,070	173.4	2,081	189.3	2,271	182.3	2,187	201.7	2,421
外来	合計	1,644.2	19,730	1,644.2	20,312	1,693.9	20,327	1,622.5	19,470	1,721.1	20,654
	合計	1,816.7	21,800	1,816.7	22,393	1,883.2	22,598	1,809.5	21,714	1,922.9	23,075
合計	1日平均	69.8		71.8		72.4		69.6		73.9	
入院	1日平均	6.6		6.7		7.2		7.0		7.7	
外来	1日平均	63.2		65.1		65.1		62.4		66.2	

1日平均 日中は月～土、夜間は月水金で計算

他科及び特殊血液浄化法 件数

	2017年		2018年		2019年		2020年		2021年	
	症例	件数	症例	件数	症例	件数	症例	件数	症例	件数
HD	10	31	10	11		※228		※163		※43
HDF	4	12	0	0		0		0		0
ECUM	7	7	2	2		5		0		0
CHDF	6	61	6	55		14		24		28
PE	2	13	2	12		12		0		0
DFPP	0	0	0	0		0		0		0
PA(LDL吸着)	0	0	0	0		0		0		0
PA(ビリルビン吸着)	0	0	0	0		0		0		0
HA(ET吸着)	8	15	8	14		14		10		5
DFT	1	10	1	9		9		0		0
LCAP	0	0	0	0		0		0		0
GCAP	4	40	4	39		0		20		5
CART	9	18	9	17		37		18		21
シャントエコー		117		145		131		154		154
シャントPTA	117	110	109	101		83		99		99
合計	168	434	151	405	0	533	0	488	0	355

※病棟透析(全件数)

心臓カテーテル室 件数

		2017年		2018年		2019年		2020年		2021年	
								※重複あり		※重複あり	
件数		394		287		449		403		304	
CAG	TRA,TBA	149		128		311		255		229	
	TFA	167		99		22		24		19	
	PCI	125		91		120		108		78	
吸引		30		19		20		25		14	
IVUS		132		92		134		129		79	
FFR		14		10		26		22		20	
ABL						27		42		28	
PMI	新規	40		30		42		41		43	
	交換	7		15		35		26		28	
合計		47		45		77		67		71	
EPS		4		1		1		0		1	
PPI		16		9		18		18		7	
IVCフィルタ		6		6		0		0		0	
テンポラリー		14		13		22		19		6	
AMI、ACS		55		34		52		45		31	

ペースメーカークリニック 件数

	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
	384	379	424	449	499

内視鏡 件数

			2019年	2020年	2021年
			424	471	420

自己血回収装置 件数

	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
	96	152	167	154	167

シャントエコー 件数

	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
	117	145	131	154	122

手術室ラパコロン時機器セッティング操作 件数

	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
	82	104	121	133	141

ラジオ波治療機器操作 件数

	2016年	2017年	2018年	2020年	2021年
	16	18	8	21	22

緊急呼出 件数

	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
循環器	30	31	28	38	12
血液浄化	17	19	12	20	27
医療機器その他	3	3	6	7	7
	合計60	合計53	合計46	合計65	合計46

医療機器点検 件数

	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
MEセンター					
人工呼吸器	1,202	1,202	1,019	1,148	1,119
シリンジポンプ	2,606	2,606	2,433	2,428	1,894
輸液ポンプ	7,509	7,509	4,038	5,385	4,887
離床センサー	517	517	520	526	0
経腸輸液ポンプ	26	26	36	7	20
小型シリンジポンプ	83	83	130	120	128
保育器	119	119	55	74	68
除細動器・AED	263	263	291	355	331
合計	12,325	12,325	8,522	10,043	8,447
手術室					
麻酔器	84	84	84	81	81
内視鏡ビデオスコープ	275	311	296	54	0
手術台	108	108	99	97	105
シリンジポンプ	289	275	300	295	293
顕微鏡	11	50	29	12	12
電気メス	39	40	34	27	27
ハイポラ	18	8	12	8	6
超音波メス	15	4	6	7	6
内視鏡システム	27	27	9	25	27
TULレーザー		3	3	5	8
合計	866	910	872	611	565
総合計	13,257	13,235	9,394	10,654	9,012

保 健 福 祉 活 動 室

【スタッフ紹介・令和4年3月末】

健康センター長（医師）	添野 武彦	看護師	相原 瞳
保健師（師長）	菊地 優子	看護師	吉田 美穂子
保健師	加藤 由紀子	事務	田口 亨
保健師	富川 真貴	事務	柏崎 凡子
保健師	門間 暁子	事務	北澤 志穂子
保健師	朝日 裕美		

【主な業務】

当保健福祉活動室は、定期・特殊健診を実施する事業所健診（院内）、市町村がん検診（院内）、人間ドック（日帰り・宿泊・脳）、特定健診、禁煙外来等の事業を展開している。健診の診察、読影、判定について、消化器科、外科、産婦人科、耳鼻科、眼科、皮膚科、循環器科、呼吸器科、検査科、放射線科などの協力をいただき実施している。今後も、丁寧なサービスを心掛け、地域住民のニーズに応えられる事業を展開したい。

令和3年度 保健予防活動状況

(令和3年4月～令和4年3月)

	項目	R3年度		R2年度		前年度対比
		人員	構成比 %	人員	構成比 %	人員
1	特定健診	90	1.1	122	1.5	-32
2	胃部検診	0	0.0	0	0.0	0
3	子宮がん検診	344	4.2	363	4.4	-19
4	乳がん検診	318	3.9	412	5.0	-94
5	大腸がん検診	46	0.6	73	0.9	-27
6	事業所一般・特殊健診	999	12.2	1,187	14.4	-188
7	職員定期健診(厚生連)	525	6.4	634	7.7	-109
8	職員特殊健診(厚生連)	452	5.5	320	3.9	132
15	骨粗鬆症検診	50	0.6	57	0.7	-7
16	日帰りドック	2,618	31.9	2,595	31.6	23
17	宿泊ドック	1,040	12.7	1,010	12.3	30
18	協会けんぽ一般・付加健診	1,624	19.8	1,524	18.6	100
19	脳ドック	83	1.0	100	1.2	-17
20	協会けんぽ子宮がん検診	26	0.3	22	0.3	4
	合計	8,215	100.0	8,419	102.5	-204

過去5年間の収入実績調べ

(単位：千円)

年度	内 訳	外来ドック	入院ドック	ドック計	保健活動収益	保健活動収入
		金額	金額	金額	(胃がん検診・事業所健診等)	(ドック収入+保健活動収益)
平成29年度		123,318	37,823	161,141	64,512	225,653
平成30年度		125,556	35,586	161,142	61,845	222,987
令和元年度		125,126	35,403	160,529	58,620	219,149
令和2年度		126,602	31,479	158,081	28,236	186,317
令和3年度		132,389	33,005	165,394	46,834	212,228

令和2年度 入院ドック 精検受診状況

資料No1

令和4年2月28日現在

検査項目	受診者数	要精検者数(人)	精検受診者数(人)	精検受診率(%)	精検受診結果(人)
血圧	505	8	5	62.5	高血圧症(要治療 2名、経過観察 1名) 異常なし 2名
心臓	505	82	45	54.9	高血圧症 3名、期外収縮 2名、虚血性心疾患 1名 僧帽弁閉鎖不全症 3名、左室肥大 1名、頻脈 1名 その他 10名、異常なし 24名
脂質	505	26	9	34.6	脂質異常症(要治療 3名、経過観察 4名) 異常なし 2名
呼吸器	500	18	12	66.7	胸下葉の骨棘 1名、肺気腫 1名、炎症性結節 1名 肺炎 2名、肋骨骨折後 1名、異常なし 6名
食道、胃、十二指腸	492	76	63	82.9	胃がん(早期 2名、進行 1名)、胃潰瘍(癒痕含む) 3名 胃腺腫 3名、逆流性食道炎 9名、ピロリ菌感染 2名 胃炎 9名、その他 11名、異常なし 23名
S字状結腸検査	457	41	31	75.6	大腸ポリープ(腺腫 21名、非腺腫 6名)、大腸憩室 1名 異常なし 2名、記載なし 1名
肝機能検査	505	75	33	44.0	肝機能障害 6名、脂肪肝 11名、B型肝炎 2名 アルコール性肝障害 7名、非アルコール性肝障害 3名 その他 1名、異常なし 3名
尿一般検査	505	22	15	68.2	顕微鏡的血尿 2名、慢性腎炎 1名、IgA腎症 1名 腎機能低下 1名、その他 1名、異常なし 9名
血液一般	505	11	6	54.5	貧血 1名、鉄欠乏症 1名、多血症 1名 異常なし 3名
糖尿病	505	27	17	63.0	糖尿病(要治療 5名、経過観察 7名)、境界型糖尿病 耐糖能異常 1名、異常なし 2名
眼	490	33	22	66.7	視神経乳頭陥凹拡大 8名、網膜裂孔 1名、高眼圧症 網膜分岐静脈閉塞 1名、白内障 1名、緑内障 1名、眼底出血 1名、網膜前膜 1名、異常なし 6名
耳鼻咽喉	505	21	8	38.1	咽頭茎のう胞 1名、下咽頭リンパのう胞疑い 1名 声帯肉芽腫 1名、耳垢 1名、扁平上皮乳頭腫 1名 慢性副鼻腔炎 1名、白板症 1名、口蓋扁桃肥大 1名
皮膚	503	82	21	25.6	白癬 10名、角化症 4名、母斑細胞性母斑 1名 脂肪腫疑い 1名、胼胝 1名、皮脂欠乏性湿疹 1名 紅色陰癬の疑い 1名、異常なし 2名
泌尿器	404	30	11	36.7	前立腺肥大症 5名、T-PSA高値 1名 前立腺がん疑い 1名、その他 1名、異常なし 3名
婦人科	82	3	3	100.0	子宮内膜肥厚 1名、子宮頸管ポリープ 1名 子宮筋腫 1名
乳房	80	2	2	100.0	乳腺症 1名、異常なし 1名
便潜血	500	33	17	51.5	大腸憩室 2名、放射線性直腸 1名 大腸ポリープ(腺腫9名、非腺腫 2名)、異常なし 3名
甲状腺	504	3	1	33.3	甲状腺腫瘍 1名
膵臓	505	4	2	50.0	高アマラーゼ血症 1名、異常なし 1名
尿酸	505	7	3	42.9	高尿酸血症(要治療 1名、経過観察 2名)
血清学的検査(RF等)	505	4	4	100.0	リウマチ疑い 1名、その他 1名、異常なし 2名
腹部超音波検査	505	25	17	68.0	肝血管腫疑い 3名、アルコール性肝障害 1名、脂肪肝 1名、脾血管腫 1名 胆石症 1名、胆のう管壁肥厚疑い 1名、左腎がん 1名、膀胱腫瘍 1名 膵管内乳頭粘液性腫瘍 2名、前立腺肥大症 1名、その他 1名、異常なし 3名
腎機能検査	505	12	8	66.7	慢性腎不全 2名、糖尿病性腎症 1名 良性腎硬化症 1名、異常なし 4名

総数 505人

令和2年度 外来ドック 精検受診状況

資料No2

令和4年2月15日現在

検査項目	受診者数	要精検者数 (人)	精検受診者 数(人)	精検受診率 (%)	精検受診結果(人)
血圧	2,596	81	41	50.6	高血圧症(要治療)26人 (経過観察)5人 治療中1人 甲状腺機能亢進症(疑)1人 異常なし8人
心臓	2,595	96	56	58.3	虚血性心疾患2人 肥大型心筋症3人 心房粗動1人 心房細動1人 僧帽弁閉鎖不全症2人 期外収縮6人 腹部大動脈瘤1人 その他21人 異常なし19人
脂質	2,596	92	34	37.0	脂質異常症(要治療)16人 (経過観察)15人 その他1人 異常なし2人
呼吸器	2,582	49	39	79.6	肺癌1人 肺気腫(疑)/気腫性変化3人 異常陰影5人 肺化膿症後1人 非結核性抗酸菌症(疑)1人 上葉小節肉芽腫(疑)1人 その他4人 異常なし23人
食道、胃、十二指腸	2,190	216	180	83.3	胃癌6人 胃炎35人 ピロリ菌感染性胃炎12人 逆流性食道炎14人 胃潰瘍1人 食道潰瘍1人 十二指腸潰瘍3人 十二指腸炎2人 胃びらん7人 その他32人 異常なし67人
肝機能検査	2,596	327	179	54.7	脂肪肝79人 アルコール性肝疾患29人 非アルコール性脂肪性肝疾患4人 肝機能障害33人 その他5人 異常なし29人
尿一般検査	2,591	130	75	57.7	糖尿病性腎症8人 腎結石1人 糸球体腎炎(疑)1人 腎硬化症4人 血尿7人 蛋白尿5人 膀胱炎3人 肥満関連性腎症1人 その他4人 異常なし41人
一般血液検査	2,596	150	87	58.0	鉄欠乏性貧血32人 多血症3人 造血器腫瘍(疑)1人 白血球増多3人 血小板減少1人 血小板増多2人 その他5人 異常なし40人
糖尿病	2,596	33	21	63.6	糖尿病(要治療)12人 (経過観察)9人
眼	2,568	194	113	58.2	緑内障5人 白内障2人 網膜中心静脈岐閉塞症4人 視神経乳頭陥凹拡大35人 高眼圧8人 網膜剥離1人 糖尿病性網膜症5人 その他21人 異常なし32人
耳鼻咽喉	2,592	3	3	100.0	咽頭のう胞1人 上咽頭腫瘍1人 披裂咽頭蓋ひだ貯留嚢胞1人
腹部超音波検査	2,582	154	98	63.6	転移性肝腫瘍1人 腎臓副腎転移疑い1人 膵癌1人 肝血管腫20人 脂肪肝8人 膵管乳頭粘液性腫瘍9人 腹部大動脈瘤1人 その他37人 異常なし20人
泌尿器	1,523	80	34	42.5	前立腺がん3人 前立腺がん疑い3人 前立腺肥大症9人 慢性前立腺炎2人 PSA高値2人 異常なし15人
婦人科	715	29	23	79.3	子宮筋腫9人 卵巣腫瘍2人 卵巣疾患 3人 子宮頸管ポリープ2人 異常なし7人
乳房	720	41	37	90.2	乳腺症8人 乳腺線維腺腫7人 乳腺のう胞6人 その他2人 異常なし14人
便潜血	2,524	164	90	54.9	大腸がん(早期)疑い1人 大腸腺腫44人 大腸ポリープ15人 潰瘍性大腸炎2人 大腸憩室2人 その他8人 異常なし18人
甲状腺	2,562	27	22	81.5	悪性リンパ腫疑い1人 バセドウ病1人 橋本病1人 甲状腺腫瘍10人 甲状腺のう胞1人 甲状腺炎2人 異常なし6人
膵臓	2,596	14	6	42.9	高アマラーゼ血症2人 唾石症1人 その他1人 異常なし2人
尿酸	2,596	30	12	40.0	高尿酸血症11人 異常なし1人
血清学的検査(RF等)	2,596	63	46	73.0	関節リウマチ2人 関節リウマチ疑い1人 RF高値7人 高γグロブリン血症4人 その他12人 異常なし20人
腎機能検査	2,596	41	26	63.4	慢性腎不全2 糖尿病性腎症4人 腎機能障害3人 慢性腎臓病1人 腎硬化症1人 高カリウム血症3人 その他3人 異常なし9人
その他	2,562	44	26	59.1	心房細動2人 大動脈弁狭窄2人 左室肥大1人 その他心疾患2人 下肢静脈瘤1人 子宮筋腫2人 その他4人 異常なし12人

総数2596人

令和2年度 協会けんぽ生活習慣病予防健診精検受診状況

資料No3

令和4年2月15日現在

検査項目	受診者数	要精検者数(人)	精検受診者数(人)	精検受診率(%)	精検受診結果(人)
血圧	1,690	73	28	38.4	高血圧症 20人 血圧高値 2人 白衣高血圧 1人 異常なし 4人 早朝高血圧 1人
心臓	1,690	61	31	50.8	心室性期外収縮 5人 大動脈弁狭窄症 1人 完全左脚ブロック1人 その他 12人 大動脈逆流 1人 異常なし 11人
脂質	1,690	110	40	36.4	脂質異常症 35人 異常なし 1人
呼吸器	1,681	43	19	44.2	肺がん 1人 COPD 1人 間質性肺炎 1人 陳旧性肺結核 1人 その他 7人 気管支拡張症 1人 異常なし 7人
食道、胃、 十二指腸	1,089	102	63	61.8	胃がん 1人 ピロリ菌感染性胃炎 4人 胃炎 13人 逆流性食道炎 3人 その他 16人 胃潰瘍 2人 胃潰瘍癒痕 3人 異常なし 21人
腎機能	1,690	9	6	66.7	左腎梗塞 1人 糖尿病性腎症 1人 良性腎硬化症 2人 腎機能低下 2人
肝機能	1,690	283	101	35.7	アルコール性肝障害 18人 脂肪肝 57人 肝機能障害 20人 その他 4人 異常なし 2人
尿一般	1,669	75	34	45.3	糖尿病性腎症 2人 糖尿病 1人 顕微鏡的血尿 4人 腎結石 2人 その他 8人 異常なし 17人
血液	1,690	77	40	51.9	鉄欠乏性貧血 18人 多血症 1人 血小板増多 5人 その他 4人 白血球増多 4人 異常なし 8人
糖尿病	1,690	62	23	37.1	糖尿病 14人 耐糖能異常 5人 異常なし 4人
眼科	1,689	34	18	52.9	視神経乳頭陥凹拡大5人 その他 3人 糖尿病性網膜症3人 緑内障 1人 脈絡膜萎縮 1人 異常なし 5人
肺機能検査	21	0			
婦人科	241	17	13	76.5	子宮頸がん 1人 子宮筋腫 4人 子宮腺筋症 2人 子宮頸管ポリープ 3人 その他 2人 異常なし 1人
乳房 甲状腺	236	14	11	78.6	乳腺炎 1人 乳腺症 3人 乳腺のう胞 3人 異常なし 2人 線維腺腫 1人
便潜血	1,594	99	44	44.4	大腸がん 1人 大腸憩室 3人 痔 3人 大腸腺腫 17人 その他 2人 大腸ポリープ 7人 異常なし 11人
腹部エコー	210	10	7	70.0	肝腫瘍 1人 肝血管腫 1人 腎のう胞 1人 巨大肝のう胞 1人 胆泥充満 1人 嚢胞性膵腫瘍 1人 膵のう胞 1人
尿酸	1,690	15	5	33.3	高尿酸血症 5人
その他(診察)	1,690	38	23	60.5	僧帽弁逆流 1人 子宮筋腫 2人 僧帽弁閉鎖不全1人 異常なし 11人 大動脈狭窄 1人 その他 7人

医療安全対策室

1. 医療安全管理体制

〈医療事故対策委員会〉

- 病院長・名誉院長・副院長 6名
- ・副院長看護部長・事務長・事務次長
- ・医事課次長・室長
- ・GRM 2名

〈医療安全管理委員会〉

- 室長・副室長・GRM 2名・各部署責任者

〈医療安全対策室〉

- 室長・副室長・GRM 2名・対策室委員 10名
- 〈部署リスクマネージャー〉
- 各部署責任者と他1名（対策室委員
 - ・看護部リスクマネジメント委員）

2. 活動内容

- ・安全・安心で質の高い医療を提供し、信頼される病院を築くため職場横断的に活動する。
- ・毎週1回、対策室委員でカンファレンスを行い、事故報告事例の共有と対策を検討する。
- ・各部署のインシデントレポートを集計し、必要時その部署に出向きカンファレンスし、対策を検討する。
- ・定期的に安全パトロールを実施し、その結果をフィードバックする。
- ・医療安全研修を行う。
- ・患者サポートチームの活動として、相談窓口を

設置し、患者・家族からの苦情や相談を医療メデイエーターとして中立的な立場で伺い対応している。また、ご感想ポストに寄せられたご意見やご要望に対して、毎週1回の患者サポートカンファレンスで、対応の検討を行なっている。

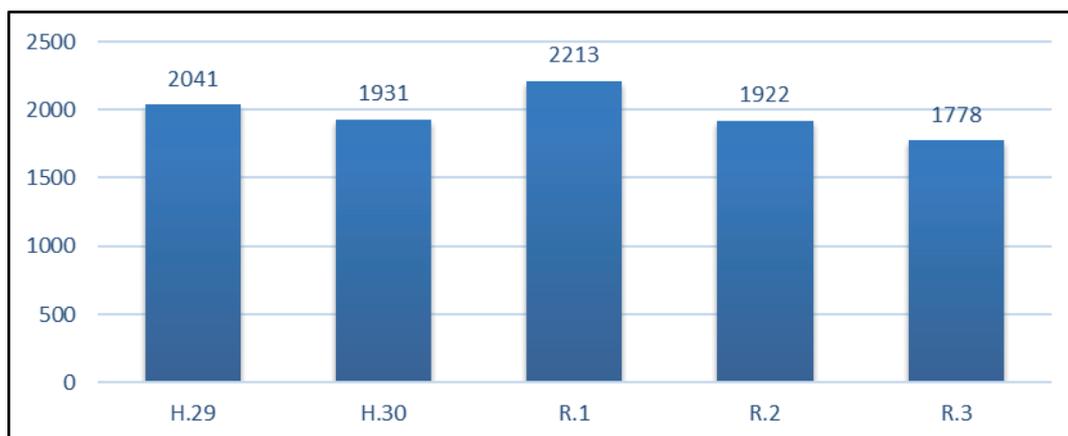
3. 令和3年度の評価

- ・インシデントレポートシステム
“AKIRS”の報告件数は1778件。
転倒転落事例が例年同様に全報告数の1/4を占めている。3b(骨折等の事故に至った)以上の事例は13件で、転倒・転落事故は昨年より5件減少している。
- ・個人情報漏洩事案は5件の本所報告事例あり。書類を預かる際・渡す際の書類確認・本人確認についてさらに検討する必要がある。
- ・相談窓口としてGRMが直接対応した苦情や相談は76人であった。ご意見には真摯に対応し、必要時、医師との面談を実施している。

記：成田雪美 小玉典子

4. インシデント・アクシデントレポート集計

○年度別 報告件数

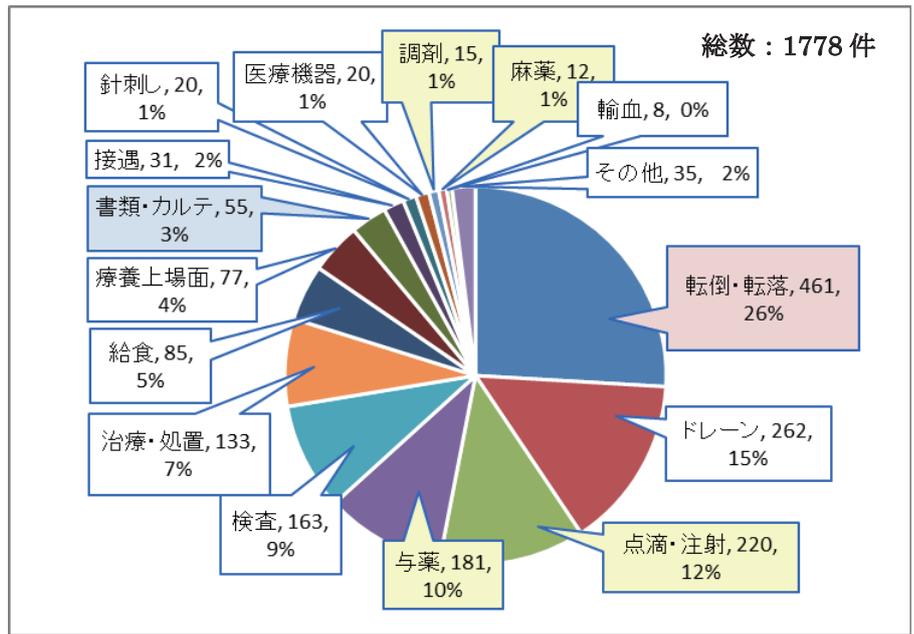


○職種別 報告件数

	医師	看護職	薬局	検査	放科	事務	栄養	リハ	ME	その他	総数
H.29	45	1762	13	73	19	10	92	8	13	0	2035
H.30	36	1671	12	43	24	19	87	16	17	0	1925
R.1	80	1906	28	33	25	16	95	22	11	0	2216
R.2	62	1628	25	39	12	22	105	18	10	1	1922
R.3	75	1562	9	10	11	7	75	17	10	2	1778

○種類別 報告件数（令和3年度）

項目	件数
転倒・転落	461
ドレーン	262
点滴・注射	220
与薬	181
検査	163
治療・処置	133
給食	85
療養上場面	77
書類・カルテ	55
接遇	31
針刺し	20
医療機器	20
調剤	15
麻薬	12
輸血	8
その他	35



○3b 以上（濃厚な処置や治療が必要なレベル以上）の報告件数

	総数	治療処置	ドレーンチューブ	与薬	検査	療養上場面	点滴注射	転倒転落	その他
H.29	11	4	0	0	0	0	0	7	0
H.30	17	5	0	0	0	2	0	8	2
R.1	12	4	0	0	0	2	2	4	0
R.2	18	3	0	0	0	2	0	12	1
R.3	13	5	0	0	0	1	0	7	0

5. 苦情・相談件数

○GRM 直接対応事例

	接遇・応対	治療関連	設備・システム	事故後対応	その他	合計
H.29	23	18	9	6	6	63
H.30	33	28	16	7	13	97
R.1	38	18	13	3	5	77
R.2	23	14	15	6	14	72
R.3	36	15	12	2	11	76

感 染 管 理 室

〈ICT メンバー〉

医師	北林 淳 (ICD)
	福井 伸 (ICD)
	星野 孝男
	柴田 聡
薬剤師	岡部 真由子
	鎌田 行
検査技師	藤田 郁子
	渡辺 純子
	佐藤 裕馬
看護師	小玉 典子 (GRM)
	水野 住恵 (CNIC)
	佐藤 真理子 (CNIC)
	佐藤 典子
事務	小野寺 洋一

目 的

患者、職員を感染から守る

活 動 内 容

1) サーベイランスの実施

① PICC を含む中心静脈カテーテル関連血流感染

(CLABSI) サーベイランス

全病棟対象の CLABSI のサーベイランスを実施している。感染率は 2020 年、大幅な増加があり、医療器具使用比もやや増加している。2021 年の感染率はやや減少したが、引き続き注意喚起が必要 (図 1)

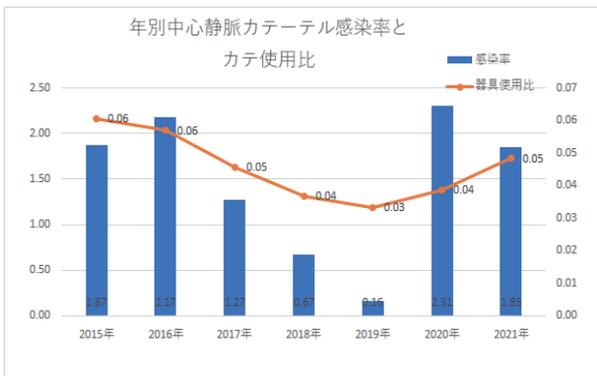


図 1 CVC 感染率と CVC 使用比の推移

CLBSI の感染率低減のため、エビデンスのある感染対策を束にして導入し、その遵守率の向上を図る取り組みを行っている。(ケアバンドル)

ガイドラインで 0.5% を超えるクロルヘキシジナルコールを推奨しているが、使用率は 21% と低い傾向にある。MBP 実施率 64.3% と低い遵守率である。周知方法と医師の協力が今後の課題である。(図 2)

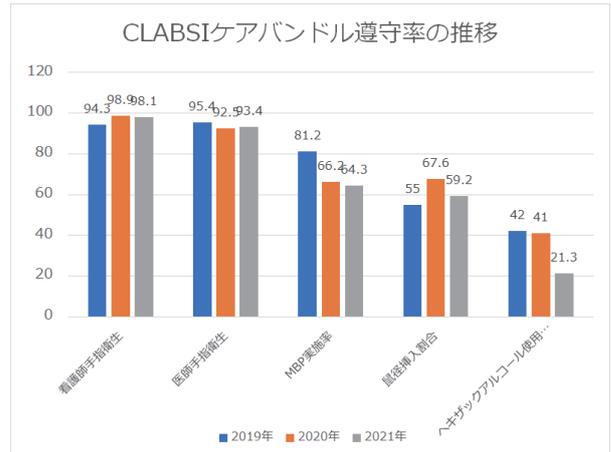


図 2 CLABSI 予防対策遵守率昨年度との比較

② 耐性菌サーベイランスについて

MRSA 新規検出率については、ほぼ横ばい傾向で大きな増加や減少はみられていない。(図 3)



図 3 MRSA 新規検出率の推移

ESBL 産生菌検出率は昨年よりは減少した。

(図 4)

ESBL 産生菌の感染対策としては、標準予防策の遵守と抗菌薬の適正使用が重要である。抗菌薬適正使用については後述する。

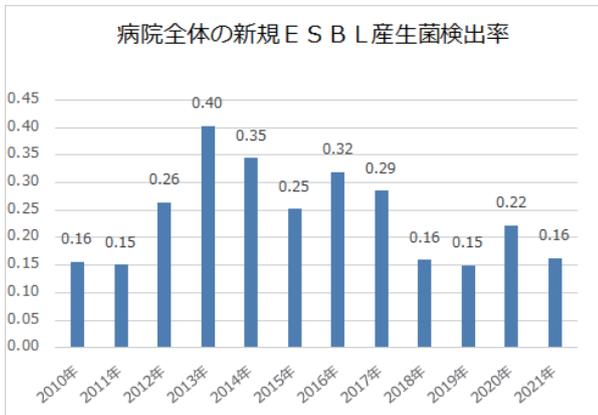


図 4 ESBL 産生菌新規検出率の推移

④ CD トキシン陽性率について

2014 年に CD トキシン陽性率の増加アウトブレイクの指標である 2SD を超えた時期があった。遺伝子検査も実施し、同一株である可能性が高い事から、注意喚起や環境クロスの導入、下痢患者へ対しての感染対策の周知を実施。また抗菌薬の適正使用の推進を行っていることで、現在は減少傾向にある。(図 5)

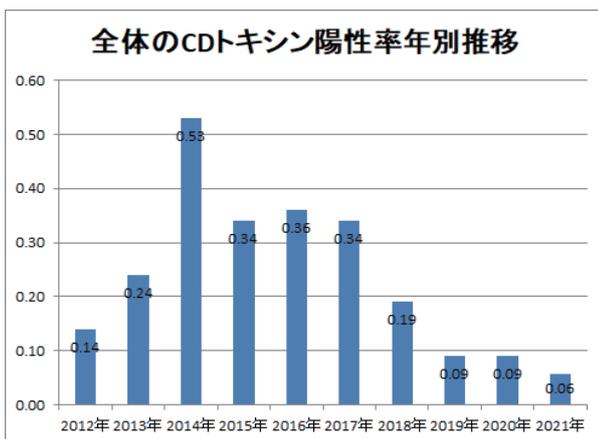


図 5 CD トキシン陽性率の推移

2) 感染防止技術

アルコールの使用量から病棟看護師が患者 1 人あたりに実施している手指消毒回数を算出した結果を示す。(図 6)

手指衛生のタイミングについての勉強会を開催し、各部署のリンクスタッフによる直接観察を開始したこともあり、2021 年には 15.7 回と徐々に上昇傾向である。

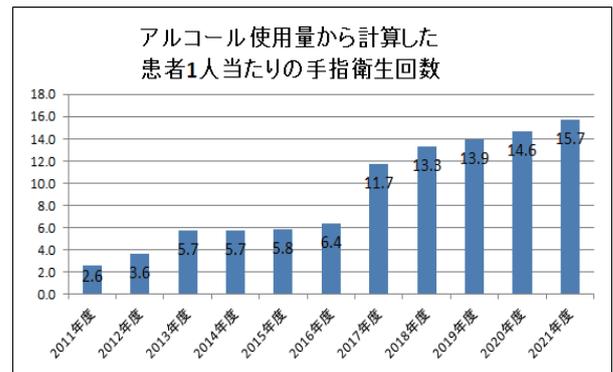


図 6 アルコール使用量から算出した患者一人当たり手指衛生回数

直接観察法によるタイミング別の手指衛生遵守割合を示す。(図 7)

WHO では①患者接触前②清潔操作の前③体液曝露後④患者接触後⑤患者周囲環境接触後の 5 つのタイミングで手指衛生の実施を推奨している。すべてのタイミングの平均で 2018 年 57.3 %、2019 年 53.4 %、2020 年 62.0 %、2021 年 60.9 %であった。遵守率 70% 以上の目標としており、全職員に周知・徹底していくため、今後もリンクスタッフの教育を含め、継続的な介入が必要と考える。

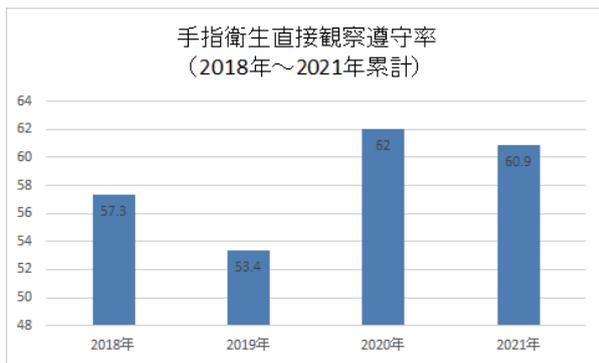


図7 直接観察による手指衛生遵守率結果

3) 感染管理教育

感染対策全体研修は上半期、下半期ともにeラーニングの受講とし、どちらも受講率100%であった。抗菌薬適正使用に関する研修もeラーニングで年2回開催し、上半期60.5%、下半期84.7%の受講率だった。

4) 職業感染防止

今年度の針刺し・切創、血液体液曝露は21件であった。(100床あたり4.8件)職種別では、医師71.4%(研修医含む)、看護師が約28.6%を占めていた。曝露場所としては手術室が最も多く、次いで救急外来・病棟が多かった。(図8、9、10)



図8 針刺し・切創、血液・体液曝露報告件数

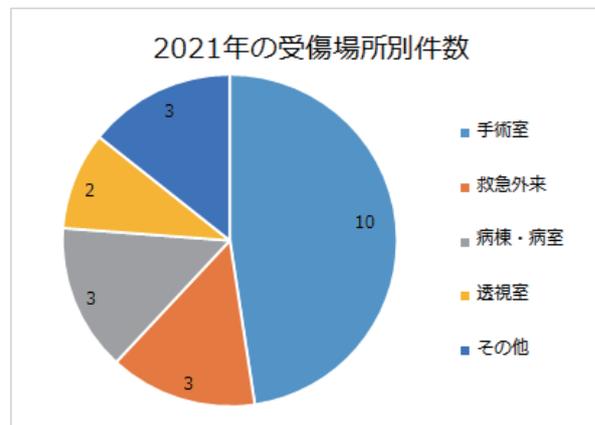


図9 針刺し・切創、血液・体液曝露報告場所割合 (2021年1月～12月の1年間)

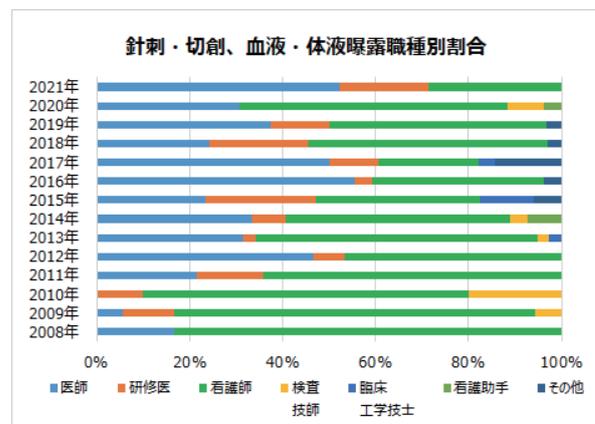


図10 針刺し、切創、血液・体液曝露職種割合

5) ファシリティ・マネジメント

週1回のICTラウンドを通して備品

の管理や、ゾーニング、ゴミの分別、薬品使用期限管理、医療関連感染(HAI)防止対策の実施状況を確認した。改善を促す為に現場に報告書を返却し、再びラウンドで確認している。

6) 抗菌薬の適正使用への取り組み

2018年4月より、抗菌薬適正使用支援加算新設され、当院でも算定している。ASTチームで毎週1回、抗菌薬使用患者のカンファレンスを実施し、抗菌薬の適正使用の推進を行っている。2021年のASTカンファレンス件数1866件で、報告書返却数は28件と返却率1.5%であった。報告書返却内容は抗菌薬変更・検査依頼が24件(85.7%)、であり、そのうち依頼受諾件数14件(58.3%)であった。

また当院では抗 MRSA 薬、カルバペネム系抗菌薬を届け出制にしている。抗菌薬使用届けの提出率は73.8%と昨年度よりも上昇した。(図11) 電子カルテに付箋で呼びかけるなどを行い継続した働きかけによる周知・徹底が必要である。(図11)

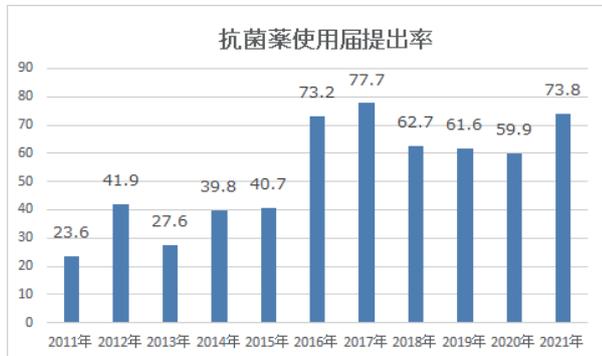


図11 特定抗菌薬の届け出提出率

広域抗菌薬の使用は、適切な培養検体の提出により、起炎菌の想定をした上で、感受性結果に基づいて de-escalation をする事が耐性菌対策に繋がる。各抗菌薬 AUD* の推移は下記の通りである。(図12)

※ AUD とは WHO が推奨している抗菌薬使用量の評価指標。

計算式は、AUD = 一定期間の特定の抗菌薬の総使用量 (g) ÷ その抗菌薬の DDD (g) ÷ 同期間の延べ入院患者日数 × 1,000 で算出している。

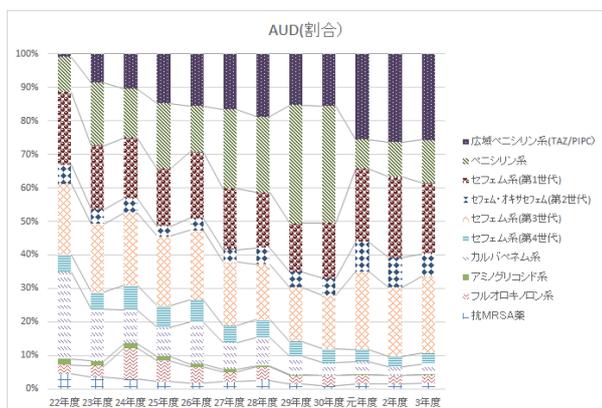


図12 AUD の推移

また、バンコマイシン (VCM) テイコプラニン (TEIC) アルベカシン (ABK) についての TDM : Therapeutic Drug Monitoring (治療薬物モニタリング) の推奨を薬剤師が中心となり行っており2020年度のTDM実施率は24/33 = 72.7%であった。

5) 地域連携

地域連携加算は100点、感染防止対策加算は390点である。当院では感染防止対策加算1を算定し、2021年度の連携病院は、藤原記念病院、湖東厚生病院で、合同カンファレンス開催は6月23日、10月20日、12月8日、集合計3回、開催し、意見交換がなされた。8月のカンファレンスは新型コロナウイルスの影響で開催できなかった。

地域連携加算の連携病院は市立秋田総合病院、秋田赤十字病院、中通総合病院、由利組合総合病院であり、2021年度は中通総合病院と、10月21日、11月24日に、由利組合総合病院と11月11日に相互ラウンドを実施した。

今後の課題

- 1) サーベイランスに基づいた感染対策の提言と遵守率の向上
- 2) 手指衛生遵守率向上への取り組み
- 3) 標準予防策の周知・徹底
- 4) ASTの積極的な介入による抗菌薬の適正使用と、TDMの推奨

院外講演・発表などの実績

1) 2021年6月26日

秋田県感染対策協議会研修会

Web開催

「当院における新型コロナウイルス感染症治療薬について」

演者 抗菌化学療法認定薬剤師

岡部 真由子

2) 2021年11月12日

秋田県社会福祉協議会

社会福祉施設対象研修会

「感染対策の基本的な考え方」

講師 CNIC : 水野 住恵

記 水野 住恵

医 事 課

【人員構成】

課長 小川原 隆徳（統括）
係長 伊藤 弥生（自費未収）
係長 榊田 幸絵（請求責任者）
係長 鈴木 麻美（診療録管理）
係長 落合 恵子（入院担当）
上記以外
入院担当 8名
外来担当 25名
受付・会計担当 5名
診療情報管理室 5名
医師事務作業補助 38名
システム担当 1名
コンシェルジュ 3名
交通事故・自費未収担当 2名
統計・入院補助 1名
医療情報技術者 1名
合計 94名

【業務内容】

医事課は、患者様へのサービス業務（入外受付対応・医療コンシェルジュによる総合案内）、医療行為の適正請求（入外診療費計算と会計精算・レセプト作成・オンライン請求）、診療情報管理、未収金管理、医師事務作業補助、病院情報システム管理などの事務作業を行っております。

「令和3年度目標及び重点実施事項と成果」

- 保険査定減の縮減（目標 0.09%）
・実績 0.12%（0.03%超過）
- 返戻・過誤件数の縮減（目標 0.65%）
・実績 0.76%（0.11%超過）
目標達成にむけ、会議や委員会などで職員の知識や意識の向上を図ったが、高額薬剤の査定や新型コロナウイルスに係る公費請求の返戻増加により目標未達となった。
- 自費未収金の縮減（過年度分回収率目標 30% = 1,919,197円）
・回収実績 2,074,064円（目標達成率 108.1% 154,867円超過）
早期督促の強化や退院当日の会計書発行割合向上に取り組んだ。

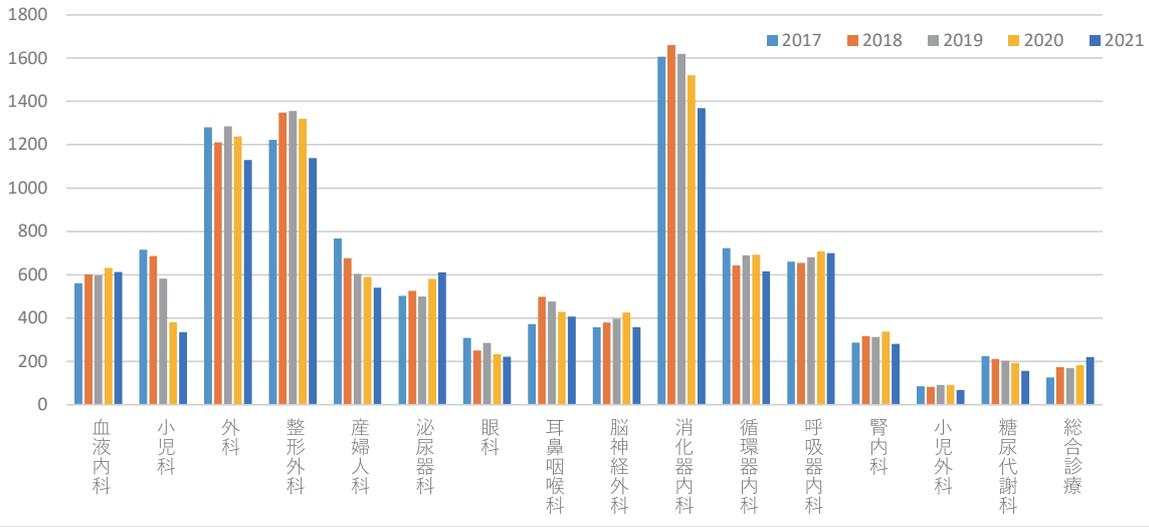
「その他の取り組み」

- ①オンライン資格確認開始
システム導入によりマイナンバーカードを用いたオンライン資格確認が可能となった。
- ②労災保険請求オンライン化
労災レセプト請求のオンライン化により業務の効率化を行った。
- ③チーム制の推進
業務共有化や効率化を更に推進するため、事務長や経営企画課も交え検討会議を行った。
- ④院内クラスターにおける非常時対応
診療停止に伴う特例的な診療体制に迅速に対応した。

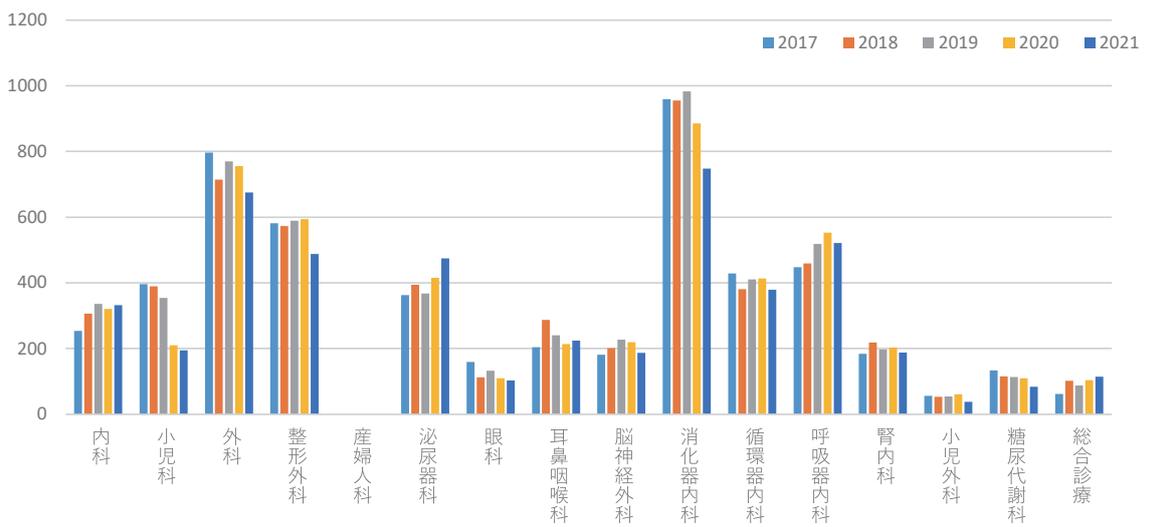
記：小川原 隆徳

診療記録管理室

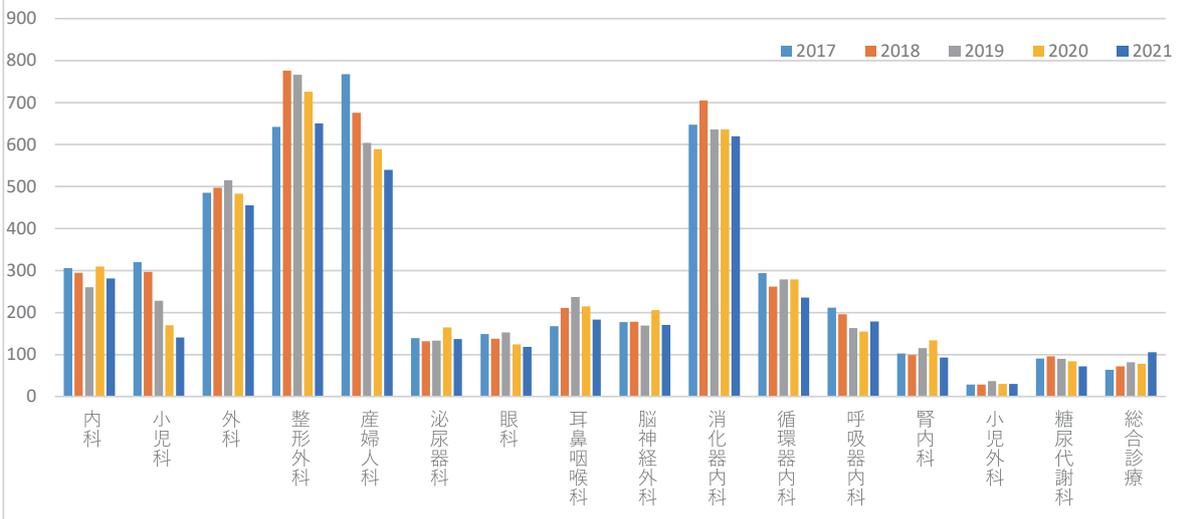
2017年-2021年診療科別・カルテ数(総数)



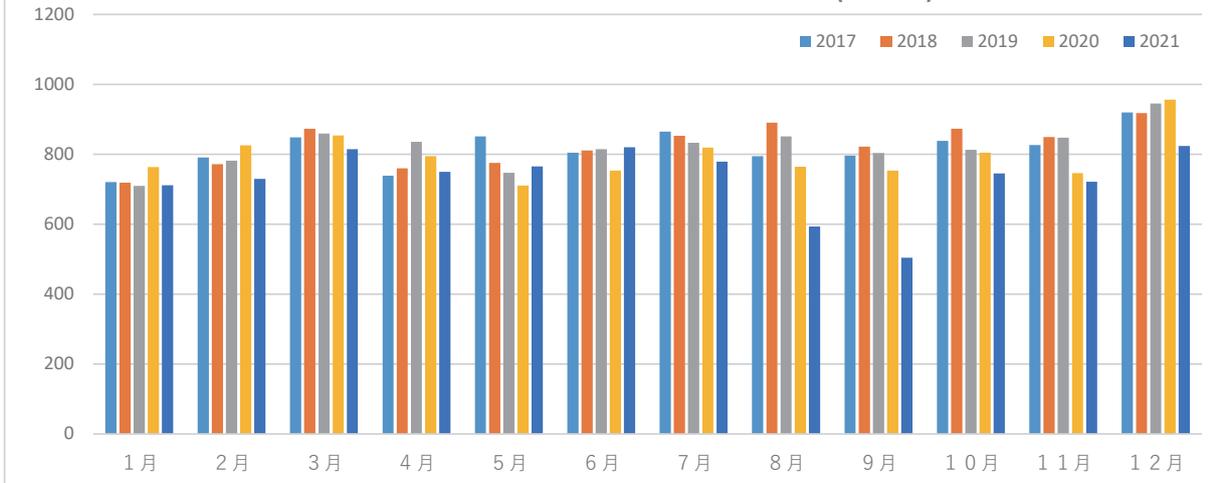
2017年-2021年診療科別・カルテ数(男性)



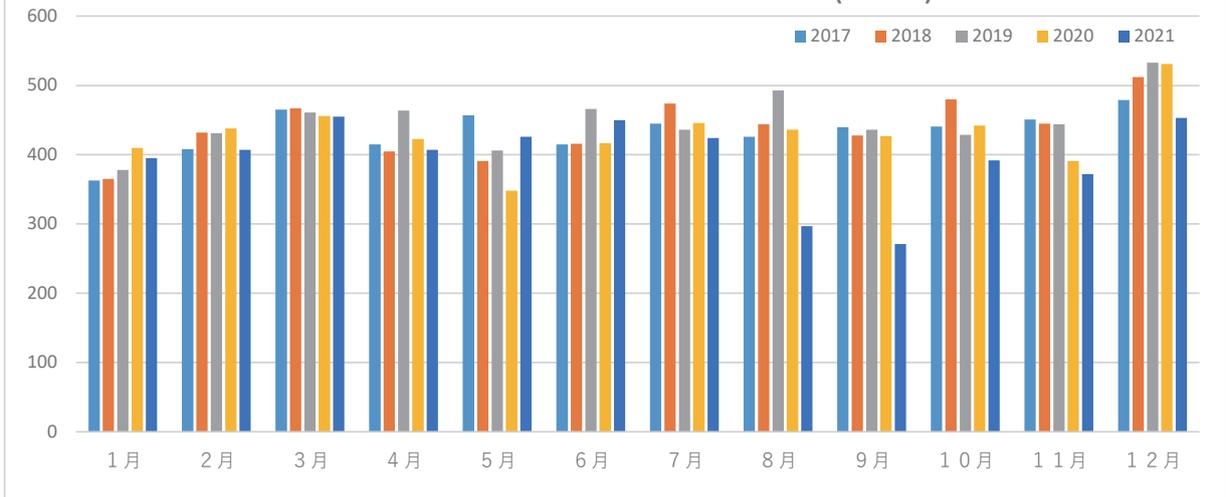
2017年-2021年診療科別カルテ数(女性)



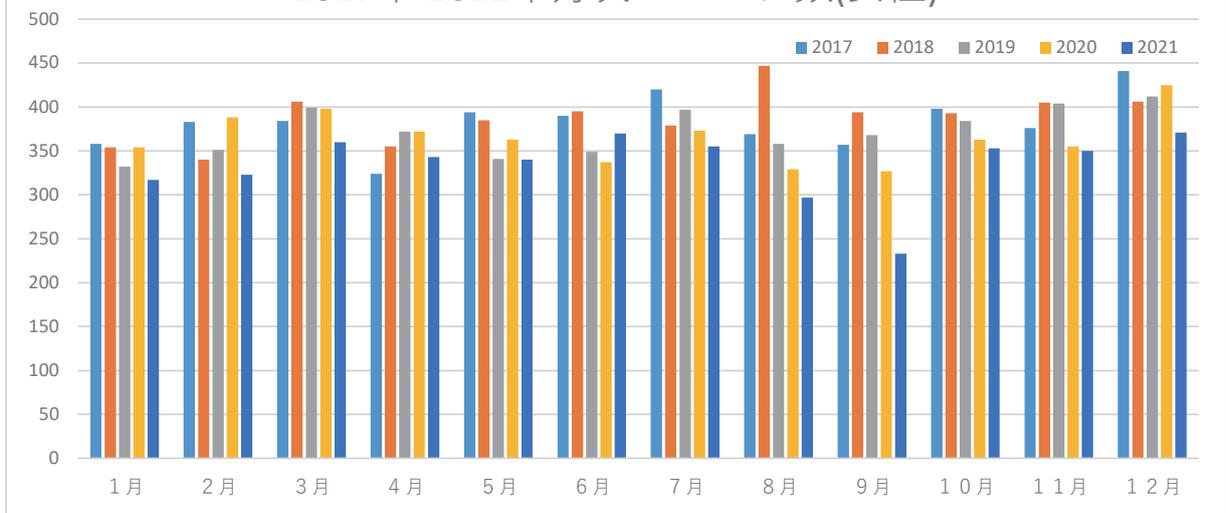
2017年-2021年月次・カルテ数(総数)



2017年-2021年月次・カルテ数(男性)



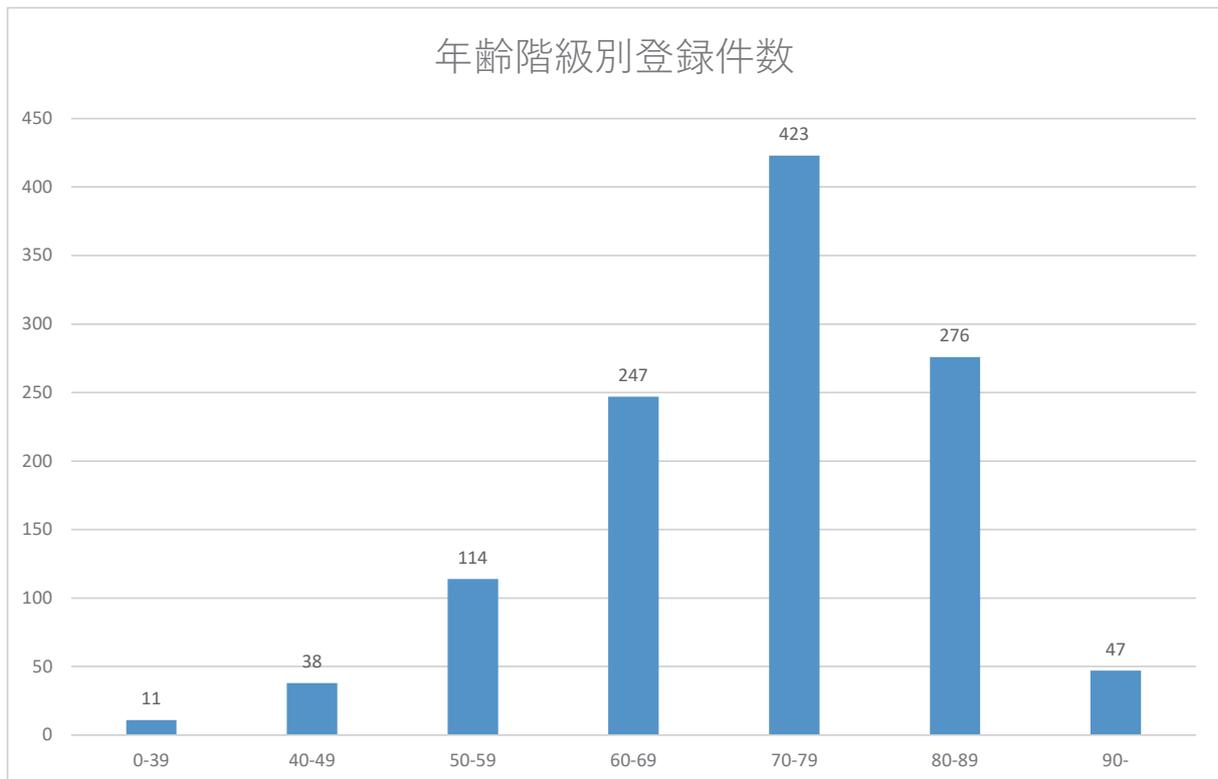
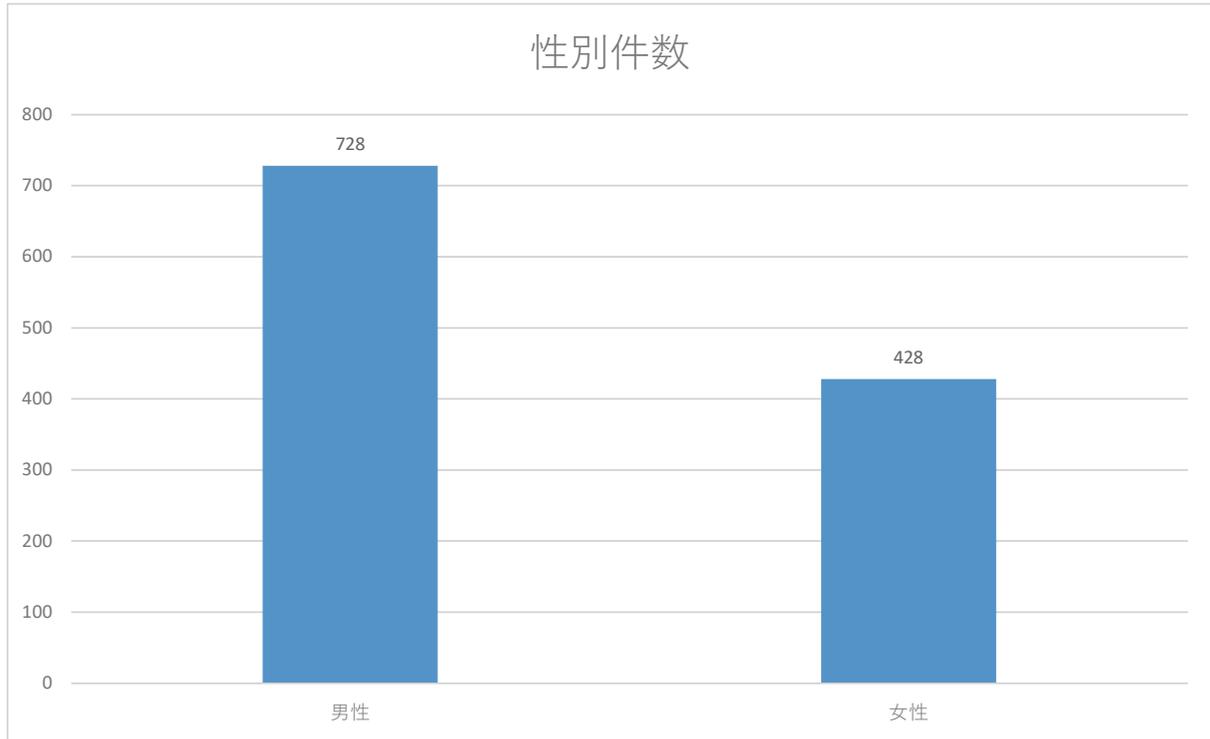
2017年-2021年月次・カルテ数(女性)



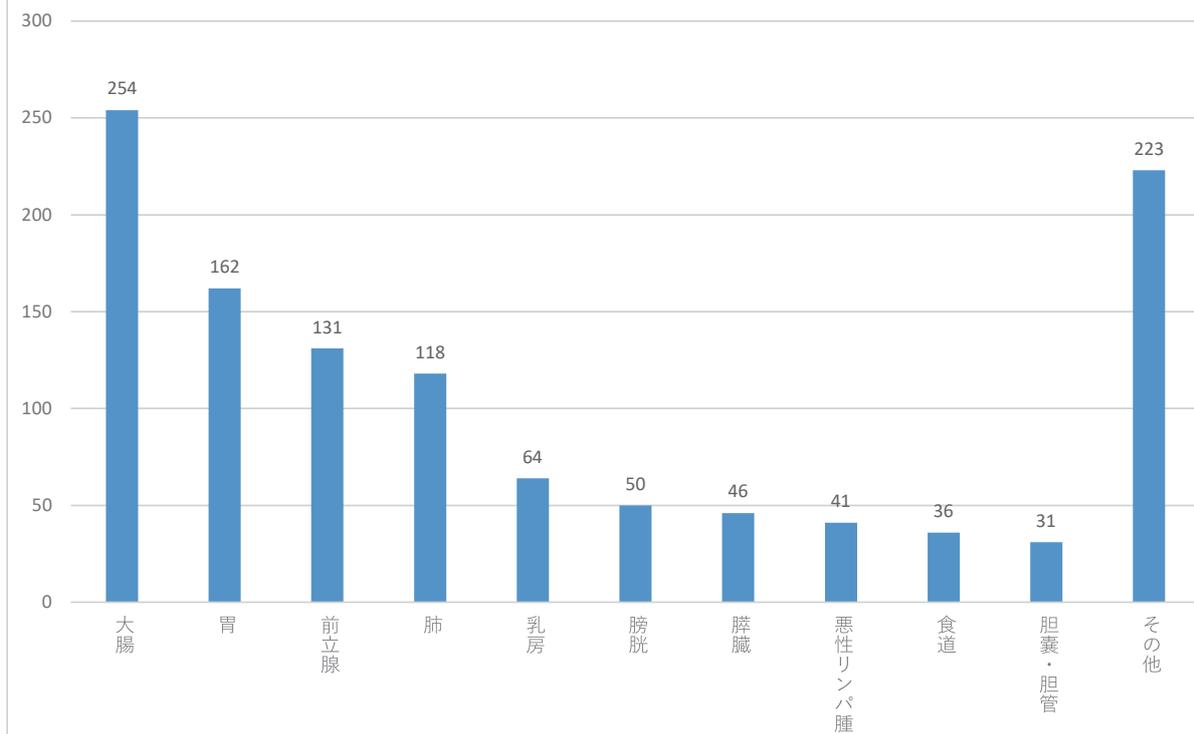
2021年診療科別・月別・性別 退院患者数

		合計	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
血液内科	男	332	31	29	34	28	25	23	34	21	28	20	26	33
	女	281	23	21	28	22	17	22	26	21	22	22	24	33
小児科	男	194	14	14	15	19	24	27	13	16	11	11	13	17
	女	141	5	9	15	15	14	19	14	11	13	11	8	7
整形外科	男	488	43	45	48	35	49	45	36	33	23	41	37	53
	女	650	55	64	55	51	54	76	51	50	33	59	42	60
産婦人科	男													
	女	540	47	37	54	42	36	39	50	44	49	45	39	58
泌尿器科	男	474	28	26	39	38	38	51	46	38	42	38	49	41
	女	137	15	11	10	9	9	13	14	11	8	10	17	10
眼科	男	103	12	13	7	8	3	7	12	2	3	10	9	17
	女	118	9	8	8	4	19	15	12	3	2	13	12	13
耳鼻咽喉科	男	224	13	32	25	22	16	19	19	10	8	14	23	23
	女	183	19	20	12	11	13	15	14	12	8	15	26	18
脳神経外科	男	187	24	17	25	13	18	16	22	8	9	8	13	14
	女	171	12	16	18	11	11	15	20	14	12	12	15	15
消化器内科	男	748	65	66	84	58	63	77	50	51	38	62	69	65
	女	620	38	48	62	60	56	59	53	48	30	58	61	47
循環器内科	男	379	29	31	37	34	43	36	38	14	15	40	27	35
	女	236	23	11	26	33	15	27	19	17	9	16	20	20
呼吸器内科	男	521	51	51	38	48	50	55	44	36	32	40	32	44
	女	179	13	13	18	16	27	15	14	13	11	10	12	17
腎臓内科	男	188	16	11	17	18	16	18	18	14	10	22	7	21
	女	93	7	6	5	13	9	7	6	9	6	10	4	11
救急総合診療部	男	114	8	11	10	7	11	8	9	13	10	12	8	7
	女	106	16	9	5	7	13	5	7	10	5	8	11	10
小児外科	男	38	3	3	2	3	2	5	7		1	6	2	4
	女	30	3	1	2	2	3	1	6	3	1	2	4	2
糖尿病・代謝内科	男	84	7	10	7	10	11	8	11	3		5	6	6
	女	72	4	7	6	7	9	4	9	4	1	7	7	7
消化器外科	男	575	46	38	58	56	48	50	54	34	37	53	43	58
	女	340	20	33	27	26	24	28	29	23	20	36	42	32
呼吸器・乳腺外科	男	100	5	10	9	10	9	5	11	4	4	10	8	15
	女	115	8	9	9	14	11	10	11	4	3	19	6	11

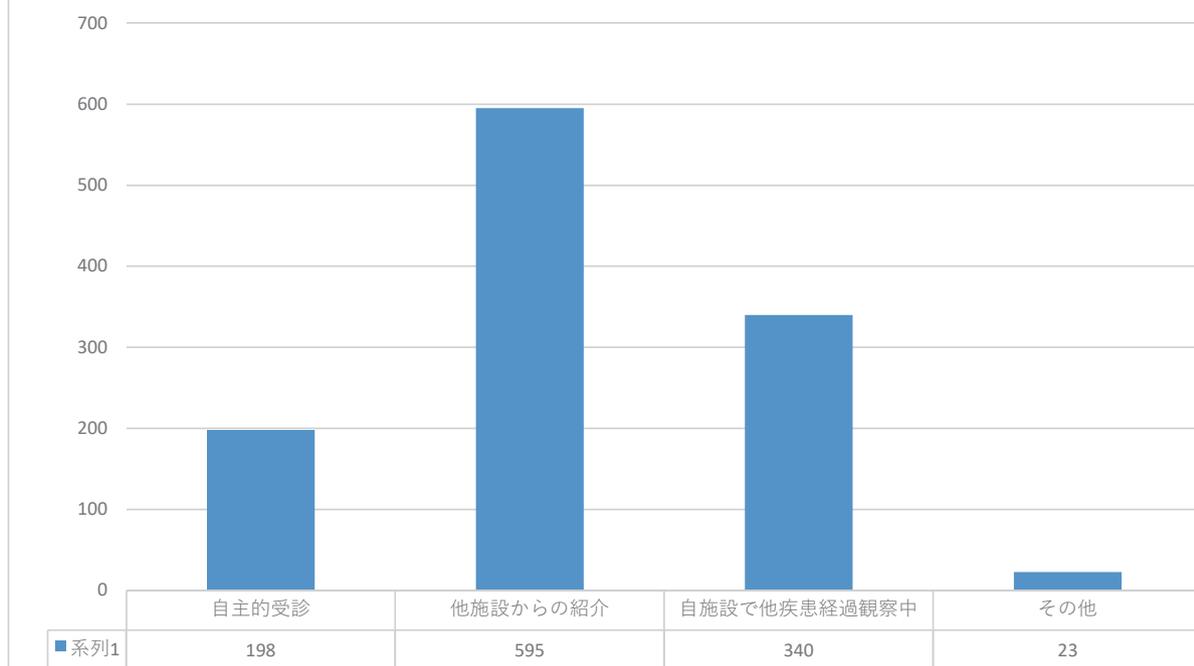
2021年院内がん登録



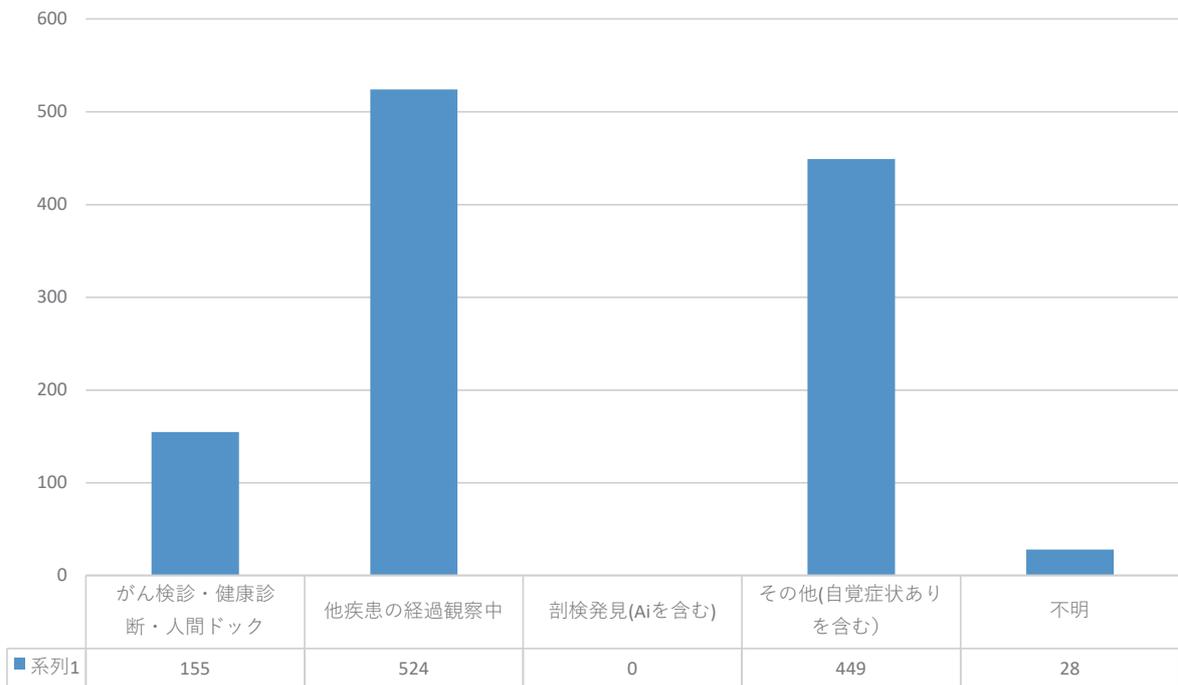
部位別件数



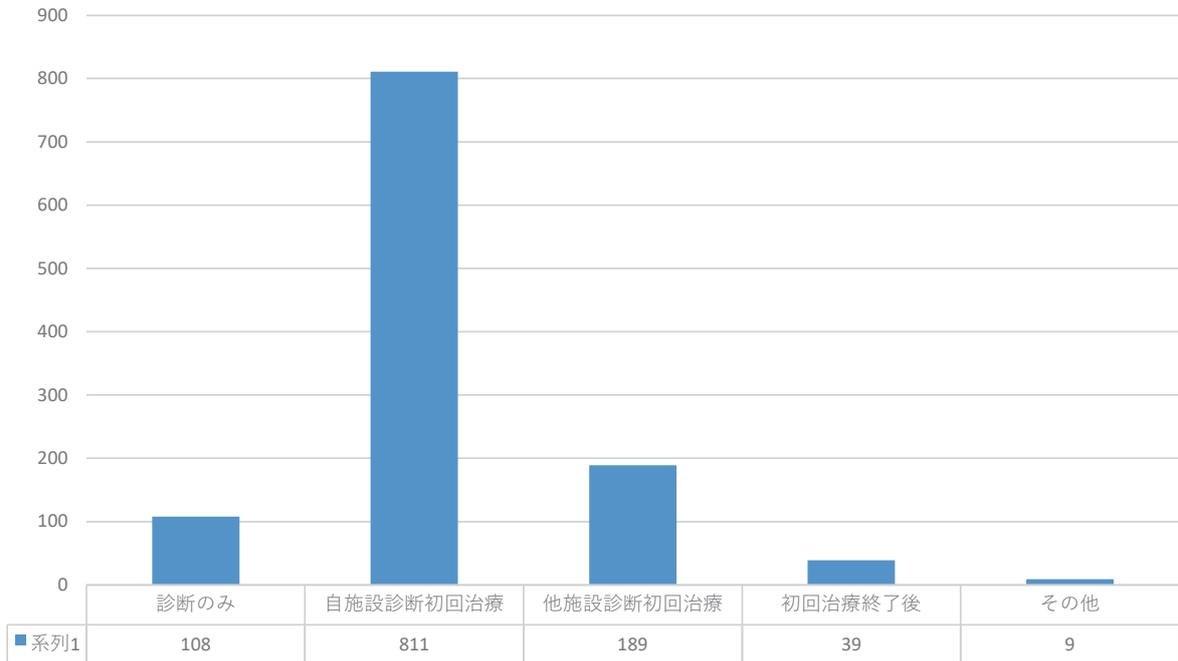
来院経路



発見経緯



症例区分



2014年症例 部位別5年相対生存率

2014年症例数	1063例
予後判明数	1053例
予後判明率	99.1%

※手術率 = 手術症例件数/全症例件数

※集計結果が10未満の場合は患者さんが特定される恐れがあるため「-」と表示しています。

胃（全症例）

総合病期 (UICC)	件数	相対生存率
I	90	91%
II	20	86%
III	19	52%
IV	27	24%
全体	156	75%

胃（手術症例）

総合病期 (UICC)	件数	相対生存率
I	87	94%
II	19	91%
III	17	58%
IV	10	21%
全体	133	84%

手術率

85%

大腸（全症例）

総合病期 (UICC)	件数	相対生存率
0	65	90%
I	34	92%
II	46	84%
III	30	86%
IV	26	5%
全体	201	80%

大腸（手術症例）

総合病期 (UICC)	件数	相対生存率
0	65	90%
I	33	95%
II	44	88%
III	28	88%
IV	10	0%
全体	180	87%

手術率

90%

肝細胞癌（全症例）

総合病期 (UICC)	件数	相対生存率
I	-	-
II	-	-
III	-	-
IV	-	-
全体	12	70%

肝細胞癌（手術症例）

総合病期 (UICC)	件数	相対生存率
I	-	-
II	-	-
III	-	-
IV	-	-
全体	-	-

手術率

17%

非小細胞肺癌（全症例）

総合病期 (UICC)	件数	相対生存率
0	-	-
I	32	76%
II	-	-
III	15	24%
IV	37	31%
全体	85	34%

非小細胞肺癌（手術症例）

総合病期 (UICC)	件数	相対生存率
0	-	-
I	19	92%
II	-	-
III	-	-
IV	-	-
全体	25	74%

手術率

29%

乳房（全症例）

総合病期 (UICC)	件数	5年生存率
0	-	-
I	15	100%
II	33	100%
III	11	48%
IV	-	-
全体	67	96%

乳房（手術症例）

総合病期 (UICC)	件数	5年生存率
0	-	-
I	15	100%
II	33	100%
III	-	-
IV	-	-
全体	63	96%

手術率

94%

訪問看護ステーション

【スタッフ紹介】

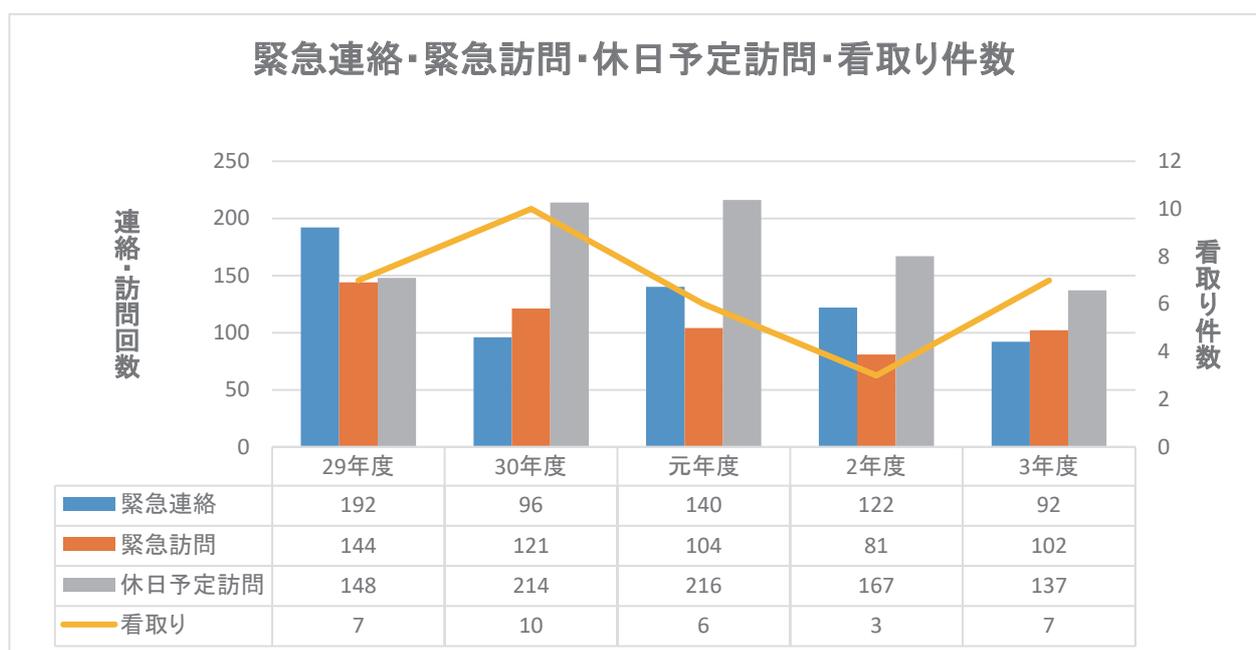
管理者・看護副師長 前田 美佐
 看護師 小野 瑞恵
 植田 舞子
 進藤 一志

3年度は、利用者数・訪問回数ともに減少した。コロナウィルス感染の影響による訪問制限や、冬期間の降雪量が例年より多く安全面を考慮したのが誘因である。又、コロナ禍にて面会制限の影響もあり、在宅看取りの件数は増加した。当ステーションでは4月より慢性心不全看護認定看護師が配属になり、生活指導を以前よりも念入りに実施し、その人の希望に沿った行動制限の確認や不安の軽減に努めている。

今後も、24時間対応体制、併設病院や地域の開業医との連携により、病気を抱えても住み慣れた地域で、その人らしく暮らすことが出来るよう支援していきたいと思う。

記：前田 美佐

	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	
利用者数(月単位平均)	80	70.3	75	80.4	78.8	(人)
訪問延べ回数	4488	4068	4013	4621	4210	(回)



秋田県厚生連あきた指定居宅介護支援事業所

【スタッフ】

管理者兼主任介護支援専門員

中川 久美子 H15年4月～

主任介護支援専門員

江畑 直子 H29年4月～

主任介護支援専門員

加藤 美紀 H29年4月～

当事業所は主任介護支援専門員2名、介護支援専門員1名のスタッフが在籍しています。新型コロナウイルスとの共存が日常になった今、入院すると患者・家族との面会は制限を余儀なくされます。大切な人と過ごす時間が失われていくことは本人にとっても、家族にとっても、つらいことです。大切な人との残された時間を可能な限りともに過ごす方法として、在宅療養を選択する方が増えています。

その希望を叶えるために私たち介護支援専門員は、関係機関と連携し速やかに療養環境調整を行います。たとえ、数日間でもその時間があることで、本人や家族の気持ちが整理され、その後の人生に好影響を与えることになります。

今後もこの感染症との共生は続くものと考えられます。医療機関・施設感染対策強化が続くこれからの時代では、病院と在宅支援機関との細かな連携がより必要になると思われます。人の生活や社会背景は一人ひとり違うものです。地域で暮らす生活者としての患者・家族の生活に、在宅療養がなじむよう関係機関とチームで熟考を重ねた支援を欠かしません。住み慣れた地域で最後までその人らしく、尊厳や意思決定を尊重した関りを継続してまいります。

【要介護度別利用状況】

単位：人

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
要支援	242	310	385	385	379
要支援及び経過介護	/	/	/	/	/
要介護1～2	559	520	601	710	710
要介護3～5	449	461	439	439	438
合計	1,250	1,291	1,425	1,149	1,527 (要支援認定者含)

【業務件数別】

単位：件

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
利用者訪問数	1,111	997	1,043	1,063	1,058
電話連絡	1,476	1,682	1,934	2,594	2,600
来室相談	121	98	126	123	125
受診同行	6	6	10	23	12
担当者会議	213	156	186	158	144

記：中川 久美子

臨床研修管理委員会

I、令和3年度の概要

令和3年度も新型コロナウイルスの流行が続いた。前年度と異なり今年度はある程度状況を予測でき、それに見合った予定・計画にて対応が可能であったが、それでも研修企画の大幅な縮小・修正・代替は継続され、集団で行う形式の研修やイベントは再開できない状態が続いた。また8月に当院でクラスターが発生してしまったため、先行して行われていた自治医大生を除くR4年度採用予定研修医の採用試験は急遽リモートで行われた。しかし各種のリモート・ツールの利用や発想の転換などが定着し、必要な研修は不都合なく行うことができた。

次回の臨床研修制度見直しの際に必須化される予定の臨床研修の第三者評価を見越し、先行して評価を受ける計画で令和1年度の半ばから第三者評価機関JCEP：卒後臨床研修評価機構の評価項目に沿ってこれまでの不備な点を抽出・修正し、研修規程やこまごまとした体制の整備も行ってきた。新型コロナウイルスの流行状況が予測できず、申請しても結局取り下げとなる不安もあったが、最終的に今年度に受審することが決定された。研修管理委員会事務局を中心とし、病院各部門・部所からのご協力もいただき、事前審査を経て令和4年1月14日に訪問審査を受けた。サーベイヤーからは高い評価を得、3月1日無事認定を受けることができた。しかしまだまだ不十分と指摘された項目もあり、これから修正・改善を行い、4年後の認定更新の際にはエクセレント賞を受賞できるようにしたい。

II、令和3年度在籍臨床研修医

2年次（R2年度採用）；

伊藤和輝、小坂航、中野瞬、長谷川知彦、畠山瑞生、藤島崇嗣、松田あすか
（協力型）；藤倉佑光（2ヵ月）、田澤大志（1ヵ月）、徳植悠介（1ヵ月）、阿部諒（1ヵ月）、
南大輝（1ヵ月）

1年次（R3年度採用）；

秋山美穂子、小田嶋滯、佐々木琢、照井幹司、堀江舞、三ヶ田顕子、三浦優衣、
桐川美砂斗（9月27日からプログラム変更にて採用）

III、令和3年度臨床研修管理委員

畑澤千秋（委員長・プログラム責任者）、柴田聡（副委員長・副プログラム責任者）、遠藤和彦、
作左部大、田村芳一、齊藤礼次郎、小林孝、佐々木幸子、小川敬、道下吉広、渡部博之、小島壽
志、岩崎洋一、佐藤直樹、久保田弘樹、大山葉子、安達正利、佐藤雄輔
事務局；進藤万梨乃、門間夕姫
研修医代表；伊藤知輝、照井幹司
その他外部委員19名

IV、臨床研修方略

当院の臨床研修は、将来どのような分野に進もうとも、医師を名乗る以上最小限必要な知識や必須の手技を習得することを目標とし、また将来にわたり自分自身で学び続け成長できる能力を獲得することも目標としている。

そのため当院の臨床研修は、プライマリ・ケア重視、チーム医療重視、基礎的能力養成重視の内容としている。

令和3年度採用臨床研修医からは、1年次の前半6ヵ月を導入期とし、講義や実習を集中して行い救急医療に必要な様々な知識を詰め込み、1年次後半から2年次前半の1年間は充実期として、OJTやセミナー、カンファレンスなどを通じ幅広い領域で診療に必要な様々な経験をし、2年次後半は発展期として主体的に診療を担当しかつ各人の希望や進路に合わせた選択が可能な体制とした。

V、臨床研修の手段

目的を達成するための手段として、令和3年度もこれまで同様に次のことを計画した。

- ①診療 ②講義 ③カンファレンス ④セミナー ⑤院外セミナー ⑥学会発表 ⑦保健活動 ⑧地域医療 ⑨後進指導 ⑩レクリエーション

VI、臨床研修の実際

①診療；診療研修は各診療科に配属されての病棟、外来、検査、手術などを通じて行うとともに、救急外来や夜間休日の日当直に参加し、on the job training で行った。研修医の各診療科への配属は厚生労働省の定める行動目標、経験目標をクリアできるように、各研修医の希望を考慮した上で、内科、外科、救急・総合診療、麻酔科、小児科、産婦人科、精神科、地域医療を必修としたスーパーローテート方式で行った。診療においては、感染防止対策を十分に行うことで、例年通りの研修を行った。院内クラスター発生による診療休止期間があったが、これが研修医の研修実績に不利な影響を及ぼさないよう配慮した。

②講義；研修講義として、各科指導医が臨床実地に即した診療の秘訣などをレクチャーした。1年次を対象とした Basic Program は、新研修医が日当直担当時に迷わないよう、前半で救急診療に必須の知識や対応法を症候別に集中講義し、後半は医師として必須の緊急手技を実技形式で指導した。2年次を対象とした Advanced Program は、診療における一歩踏み込んだ内容の講義を行った。講義においては、感染防止対策を十分に行うことで、例年通りの研修を行った。

③カンファレンス；カンファレンスにおいては、感染防止対策を十分に行うことで、例年通りの研修を行った。研修医対象のカンファレンスとして研修カンファレンスと救急カンファレンスを行った（別表）。その他にも CPC、各診療科でのカンファレンスを多数行った。

④セミナー；8月の院内クラスター発生による診療休止期間を利用し、院内各科・部門の協力を得て、集中的にシミュレーター講習を開催した。(1) 成人 CPR;BLS インストラクター (2) 成人気管内挿管；麻酔科 (3) 血管確保；麻酔科 (4) 小児 CPR；小児科 (5) ギブス巻き；整形外科 BLS 講習は例年インストラクターを招いての実習研修で行ってきたが、昨年度は新型コロナウイルス感染防止のためリモート形式の講習で行った。しかし今年度は担当施設の体制変更でリモート受講を開催できなかった。シミュレーター講習では BLS 修了資格を得られずにいたが、幸い年度末近くに正式の BLS 講習会を開催でき、修了資格も取得された。

外科手術手技セミナーは、十分な感染防止対策のもと例年通り外科医の指導のもとで行った。

⑤院外セミナー；秋田県臨床研修協議会主催のレジデント・スキルアップ・セミナーはリモートで行われた。全国の厚生連研修病院による厚生連病院研修医全国大会は今年度も開催されなかった。

⑥学会発表；研修医には2年間の研修期間中に、学会においては2回以上、研究会のみにおいては3回以上の発表を義務付けているが、発表形式がリモートになる学会がほとんどであった。また研修医もコロナ対応への協力で忙殺されたこともあり、積極的な学会参加ができなかった。これらの事情を考慮し、令和2年度採用研修医の研修修了要件を緩和し、1回/2年の発表で修了認定とした。

- ⑦保健活動（献血、ワクチン接種）；献血出務の機会に保健活動研修を行った。また、職員のワクチン接種の際には、研修が中心となって出務した。
- ⑧地域医療（他院での研修）；2年次の地域医療研修は、北秋田市民病院、藤原記念病院、男鹿みなと市民病院、湖東厚生病院、横手市立大森病院のご協力を得、例年通りの研修を行えた。
- ⑨後進指導（病院説明会でのプレゼン、見学学生への指導）；院外で開催される医学生向けの病院説明会は、集合開催のものは今年度も行われなかった。代替としてリモートでの説明会が催され、積極的に参加した。また県外学生に対してはリモートで個別説明会を行うなどの対応を行った。
- ⑩レクリエーション（納涼祭、忘年会、飲み会）；今年度もレクリエーションは開催されず、歓迎会、送別会なども、個別のもの以外は行われなかった。

Ⅶ、臨床研修の評価

令和2年度採用研修医はすべて研修修了認定となり、院内各職からの評価による最優秀研修医が、また令和2年度採用研修医からの評価による最優秀指導医が選定され、表彰された。今年度から医師以外の指導者も表彰することとし、最優秀指導者賞を贈呈した。

最優秀研修医；

伊藤 知輝、長谷川 和彦

最優秀指導医；

松本 聖子、山本 翔子

最優秀指導者賞；

国安 みゆき

当院は基幹型臨床研修病院として、12名／年の定員で研修医を採用し、また協力型研修病院として数名／年の研修医を受け入れている。

当院で臨床研修を受けた医師はすでに医療の主役として秋田県内外各地で活躍しており、最近では当院で研修を受けた研修医がまた当院に赴任し診療や後進指導の中核を担うようになってきている。当院は名実ともに秋田県の医師臨床研修を担う重要拠点となっていると言えよう。

これは実際に研修の指導・教育にあたる各科指導医・上級医のみならず、設備や体制の整備における病院、そしてあらゆるサポートを惜しまない職員諸氏のご協力の賜物であり、担当者としてお礼を申し上げたい。今後とも協力をいただきながら当院の臨床研修をさらに質の高い、有意義なものとして発展させたい。

（記；畑澤 千秋）

2021年度 研修医カンファランス・救急カンファランス 発表症例

開催数	月日	症例数	疾患・病態	診療科	発表者
1	4月15日	1	めまい	救急	畠山瑞生
			胸が痛い	循環器内科	齊藤崇
2	4月22日	2	RS3PE症候群疑い	総合診療科	小坂航
		3	I型糖尿病、糖尿病性ケトアシドーシス(diabetic ketoacidosis:DKA)	糖尿病代謝内科	長谷川知彦
3	5月13日	4	右腎盂腎炎、菌血症、認知症	総合診療科	伊藤知輝
4	5月20日	5	喘息の治療	呼吸器内科	福井伸
5	5月27日	6	肺結核	呼吸器内科	中野瞬
		7	Conposite lymphoma of nodular lymphocyte predominant and classical Hodgkin lymphoma	血液内科	畠山瑞生
6	6月3日	8	心肺停止	救急	長谷川知彦
			貧血の鑑別と治療	血液内科	道下吉広
7	6月10日	9	左膿胸（細菌性胸膜炎）	呼吸器内科	藤島崇嗣
		10	うっ血性心不全、大動脈弁狭窄症	循環器内科	三浦優衣
8	6月17日	11	左大腿骨背側が痛い	救急	小坂航
			耳鼻科救急	耳鼻咽喉科	甲賀鉄平
9	6月24日	12	パーキンソン症候群疑い、糖尿病、急性膀胱炎、前立腺肥大症、高血圧、心房細動	救急総合診療部	松田あすか
		13	出血性胃潰瘍	消化器内科	佐々木琢
10	7月1日	14	難治性VFを経験して	救急	中野瞬
			見逃し症例アーカイブ10年の記録	脳神経外科	小島壽志
11	7月15日	15	小児の発熱	救急	三ヶ田頭子
12	8月5日	16	背部痛、胸痛	救急	松田あすか
			糖尿病代謝関連の救急	糖尿病代謝内科	高嶋悟
13	8月19日	17	食思不振、倦怠感	救急	照井幹司
			腎臓内科救急	腎臓内科	小澤政豊
14	8月26日	18	肥満症	小児科	長谷川知彦
		19	SIADH疑い、心因性多飲、糖尿病、双極性感情障害	総合診療科	秋山美穂子
15	9月2日	20	腹痛	救急	藤島崇嗣
			泌尿器救急	泌尿器科	本間直子
16	9月9日	21	突発性器質性肺炎、慢性心不全	呼吸器内科	三ヶ田頭子
17	9月16日	22	発熱、左耳周囲痛	救急	堀江舞
			産婦人科救外疾患	産婦人科	能登彩
18	10月7日	23	急性低Na血症を呈した熱中症の1例	救急	伊藤知輝
			眼科救急	眼科	早川宏一
19	10月14日	24	急性喉頭蓋炎、高血圧、C型肝炎、関節リウマチ、骨粗鬆症	耳鼻咽喉科	伊藤知輝
		25	成人T細胞性白血病、閉塞性細気管支炎、慢性腎不全、糖尿病、ネフローゼ症候群	血液内科	佐々木琢
20	10月21日	26	咽頭痛と呼吸困難	救急	秋山美穂子
			腹痛女子 君の病名は	小児外科	畑澤千秋
21	10月28日	27	急性骨髄性白血病(M5a)、右Bell麻痺、慢性腎不全	血液内科	堀江舞
22	11月4日	28	腹痛	救急	小田嶋滯
			小児救急	小児科	近藤大喜

23	11月11日	29	慢性閉塞性肺疾患(COPD)、急性増悪、肺性心	呼吸器内科	秋山美穂子
		30	甲状腺機能低下症、肝硬変、自己免疫性肝炎、高血圧	総合診療科	照井幹司
24	11月18日	31	蕁麻疹	救急	三浦優衣
			救急ARUARU Ver'2021 ～整形外科篇～	整形外科	小西奈津雄
25	11月25日	32	川崎病、溶連菌咽頭炎	小児科	松田あすか
		33	アルツハイマー型認知症、甲状腺機能低下症、高血圧症	総合診療科	三ヶ田顕子
26	12月2日	34	SpO2低下	救急	佐々木琢
27	12月9日	35	低調性脱水（細胞外液量減少型低ナトリウム血症）	総合診療科	小田嶋滯
		36	盲腸憩室出欠、高血圧症、肝内結石、総胆管結石	消化器内科	堀江舞
28	12月16日	37	バイタル以上のある失神を経験して	救急	藤島崇嗣
			虫垂炎、プレゼンの作り方	消化器外科	柴田聡
29	12月23日	38	左肺扁平上皮癌（cT3N3M0,cStageIIc）	呼吸器内科	桐川美砂斗
30	1月6日	39	重症尿路感染症	救急	照井幹司
			消化器内科救急	消化器内科	渋谷健吾
31	1月13日	40	裂傷（感染創）	整形外科	秋山美穂子
		41	急性冠症候群、高血圧症、糖尿病	循環器内科	三ヶ田顕子
32	1月20日	42	下肢脱力、嘔吐、頭痛	救急	桐川美砂斗
33	1月28日	43	フルニエ壊死、直腸癌	消化器外科	小坂航
		44	化膿性脊椎炎、糖尿病、敗血症、脾膿瘍	総合診療科	佐々木琢
34	2月3日	45	急性肝炎	救急	三浦優衣
35	2月10日	46	潰瘍性大腸炎、サイトメガロウイルス腸炎、鉄欠乏性貧血	消化器内科	照井幹司
36	2月17日	47	救急外来での皮膚疾患	救急	中野瞬
37	3月9日	48	鉄欠乏性貧血、心不全、早期胃がんの進行の疑い	総合診療科	桐川美砂斗

総合診療・家庭医研修センター

I、概要

2012年4月に秋田県からの委託を受け当秋田厚生医療センター内に「秋田県総合診療・家庭医研修センター」が設置された。

秋田県からの委託は2020年度を持って修了となったため、2021年4月からは当院が設置する「あきた総合診療・家庭医研修センター」として新たなスタートを切った。

今年度は、昨年度に秋田県総合診療・家庭医養成プログラム ver.2（日本プライマリ・ケア連合学会管轄）を修了した駒形友康先生が、認定試験を受け無事に家庭医療専門医に認定された。

また（改称）あきた総合診療医養成プログラム専攻の伊藤善昭先生は、（改称）あきた家庭医療専門研修プログラムを連動研修しながら、4月から湖東厚生病院に移動・勤務しながら引き続き研修を行った。

II、所属メンバー

畑澤 千秋（センター長）

作左部 大（副センター長）

齊藤 崇

伊藤 善昭（専攻医）

総合診療サポート医

渡部 博之（消化器内科）

柴田 聡（消化器外科）

駒形 友康（藤原記念病院）

III、専攻医研修プログラム

1) あきた総合診療医養成プログラム（日本専門医機構管轄）；専攻医 伊藤善昭（2019年4月研修開始、2022年3月修了）

2) あきた家庭医療専門研修プログラム（日本プライマリ・ケア連合学会管轄）；専攻医 伊藤善昭（2020年4月連動研修開始、2023年3月修了予定）

3) 病院総合診療専門医プログラム（日本病院総合診療医学会管轄）；専攻医なし

研修管理委員会

畑澤千秋；小児科領域

作左部大；救急領域

福井 伸；内科領域

齊藤 崇；総合診療領域

中鉢明彦；湖東厚生病院

白山公幸；藤原記念病院

佐藤 誠；北秋田市民病院

小野 剛；市立大森病院

大本直樹；市立扇田病院

IV、研修セミナー等

- 1) 総合診療セミナー（表）
- 2) 学会発表

栄養障害性ニューロパチーを疑った歩行障害の一例；秋田厚生医療センター研修医 堀江舞、同救急総合診療部 畑澤千秋、作左部大、齊藤崇、同消化器内科 渡部博之、第24回日本病院総合診療医学会学術総会、2022.2.26、東京

V、診療、臨床研修

診療は、救急総合診療部全体の統括と救急、緩和医療の外来・入院診療を主に作左部先生が担当し、総合診療部門を畑澤が担当した。

臨床研修医の一般外来ブロック研修も引き続き総合診療外来で担当したが、一般外来診療および臨床研修指導には、継続雇用の齊藤崇先生、消化器内科渡部博之先生、消化器外科柴田聡先生からご協力をいただくことができた。また藤原記念病院勤務の駒形友康先生、湖東厚生病院勤務の伊藤善昭先生も、出張応援の形で週1回担当いただいた。

臨床研修医には、総合診療部入院患者の入院診療研修も行った。

VI、今後の展望

2021年2月に、秋田大学医学部に総合診療医センターが開設され、これを契機に秋田県内に4つある日本専門医機構管轄の総合診療研修プログラムを統一しようという提案がなされた。

当院のプログラム所属の伊藤専攻医が今年度で研修修了となることもあり、その方向で検討を行い、2022年度に各プログラムを発展的に解消し秋田大学を中心とするプログラムに一本化することが決まった。今後秋田県内で総合診療研修を希望する専攻医は、秋田大学を中心として県内各協力病院で研修を行うこととなる。

なお伊藤専攻医の日本プライマリ・ケア連合学会管轄家庭医療専門研修プログラム研修は、引き続き当院で行うことになる。

現在我が国の社会情勢は、総合診療医、家庭医の必要性和重要性を強調している。しかしながら、まだまだ総合診療あるいは家庭医療が分野として社会的に広く認知されているとは言えず、この分野の専門医として体系的に研修を受けた医師も充足されているとは言えない。

また当院内においても、救急センターは救急患者と非救急患者が混在して受診しており、そのため真の救急患者への対応に支障が生じたり非緊急患者の待ち時間が長くなるなどの不都合が生じている。さらに救急センターを受診し要入院と診断された患者を各診療科で互いに押し付けあう状況が少なからず認められ、これは患者、患者家族、救急センター担当医、研修医、病院のいずれにとっても好ましいことではない。

各専門診療科の本来の機能を十分に生かすためにも総合診療部門を有効に活用させることが必要と思われ、病院総合診療医あるいは病院総合診療担当医の確保は非常に重要なことと考える。

当センターは、これまでの実績を踏まえ、理念や目標を継承し、新たに総合診療医、家庭医を目指す若い医師の研修の入り口となれるよう、そして当センターで研修した医師が十分な経験と能力を身につけ社会の様々なところで活躍できるよう、常に体制の改善に努めながら更なる発展を目指したいと考えている。

（記 畑澤 千秋）

R3年度
総合診療セミナー、研修プログラム管理(小)委員会実績

原則として 隔週金曜日 17:30～18:30	あきた総合診療医養成 プログラム (専門医機構管轄) 2019年4月研修開始、専攻3年目	あきた家庭医療専門研修 プログラム (プライマリ・ケア連合学会管轄) 2020年4月連動研修開始
①4月9日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・研修医Case-Based Discussion 研修医 伊藤知輝 全身性浮腫 ・王子病院研修報告 専攻医 伊藤善昭 	<ul style="list-style-type: none"> ・王子病院研修報告
②4月16日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・研修医Case-Based Discussion 研修医 畠山瑞樹 発熱、食欲不振 ・ポートフォリオ検討 専攻医 伊藤善昭 ・第1回研修プログラム管理小委員会 ・今後の研修の打ち合わせ 	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回研修プログラム管理小委員会 ・今後の研修の打ち合わせ
③5月7日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・研修医Case-Based Discussion 研修医 畠山瑞樹 尿路感染症、症候性てんかん ・ポートフォリオ検討 専攻医 伊藤善昭 	
④5月28日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・ポートフォリオ検討 専攻医 伊藤善昭 	
⑤6月11日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・ポートフォリオ検討 専攻医 伊藤善昭 	
⑥6月18日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・研修医Case-Based Discussion 研修医 秋山美穂子 全身性浮腫 ・ポートフォリオ検討 専攻医 伊藤善昭 	
⑦6月25日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・ポートフォリオ検討 専攻医 伊藤善昭 	
⑧7月16日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・研修医Case-Based Discussion 研修医 照井幹司 甲状腺機能低下症 ・ポートフォリオ検討 専攻医 伊藤善昭 	
⑨7月30日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・研修医Case-Based Discussion 研修医 照井幹司 嘔吐・経口摂取困難 	
⑩8月27日	<ul style="list-style-type: none"> ・研修医Case-Based Discussion 研修医 三ヶ田顕子 経口摂取困難 	
⑪9月17日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・研修医Case-Based Discussion 研修医 三浦優位衣 廃用症候群 ・ポートフォリオ検討 専攻医 伊藤善昭 	
⑫10月8日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・研修医Case-Based Discussion 研修医 堀江舞 両下腿浮腫 	
⑬10月22日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・研修医Case-Based Discussion 研修医 堀江舞 発熱、咳嗽 	
⑭11月5日(金)	中止	
⑮12月3日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・研修医Case-Based Discussion 研修医 佐々木琢 敗血症疑い 	
⑯1月7日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・研修医Case-Based Discussion 研修医 佐々木琢 化膿性脊炎 	
⑰1月14日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・研修医Case-Based Discussion 研修医 桐川美砂斗 鉄欠乏性貧血 ・ポートフォリオ検討 専攻医 伊藤善昭 	
⑱2月4日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・学会発表予演会 第24回日本病院総合診療医学会学術総会 研修医 堀江舞 	
3月4日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・第2回研修プログラム管理委員会 ・研修進捗状況の確認 ・研修修了の打ち合わせ 	<ul style="list-style-type: none"> ・第2回研修プログラム管理委員会 ・研修進捗状況の確認 ・次年度研修の打ち合わせ

内科専門研修プログラム

内科専門研修プログラム研修管理委員会

第1回 令和3年10月1日（金）17:30～18:00

- (1) 専攻医の研修状況について
 - ① 小林直大専攻医について(2年次専攻医:当院プログラム)
 - ② 榊耕太郎専攻医について(1年次専攻医:秋大プログラム)
- (2) 連携施設・特別連携施設状況について
指導医数については若干の変更があるが、連携施設の状況に関しては大きな変更はない。
- (3) その他
昨年度まで当プログラムで研修を行っていた沢口碩基専攻医が、7月4日に横浜で開催された第1回内科専門医試験を受験し、無事合格した。

第2回 令和4年3月4日（金）17:30～18:00

- (1) 専攻医の研修状況について
 - ① 小林直大専攻医について(2年次専攻医:当院プログラム)
 - ② 榊耕太郎専攻医について(1年次専攻医:秋大プログラム)
- (2) 2022年度開始プログラムについて
次年度開始専攻医（松本専攻医以外は秋大プログラム）
専攻医1 松本 陽平 消化器内科 指導医 星野孝男
専攻医2 倉光 泰良 消化器内科 指導医 藤井公生
専攻医3 久米 佑美 循環器内科 指導医 松岡 悟
- (3) 指導医について
呼吸器内科の横山達也先生を指導医として追加登録する。
- (4) その他
総合内科専門医の資格を更新するとこれからは内科専門医の資格に代わる。内科専門医の更新の際に、感染や安全の講義の受講などの条件が厳しくなる。

秋田厚生医療センター内科専門研修プログラム管理委員会

<秋田厚生医療センター委員>

松岡 悟*	プログラム統括責任者、循環器内科責任者
渡部 博之*	プログラム管理者、消化器内科分野責任者
福井 伸*	呼吸器・アレルギー分野責任者
下斗米 孝之*	内分泌・代謝分野責任者
大谷 浩*	腎臓分野責任者
川端 良成*	血液・膠原病分野責任者
作左部 大	救急分野責任者
進藤 万梨乃	事務局、総務管理課員

連携施設担当委員

柴田 浩行	秋田大学医学部附属病院	(委任出席)
中鉢 明彦	湖東厚生病院	(委任出席)
三浦 一樹	藤原記念病院	(委任出席)
藤島 直仁	能代厚生医療センター	(委任出席)
西成 民夫	由利組合総合病院	(委任出席)
佐藤 誠	北秋田市民病院	(委任出席)

<オブザーバー>

畑澤 千秋	初期臨床研修管理プログラム責任者
	副院長
田村 芳一	指導医 副院長 循環器内科
阿部 元	指導医 診療部長 循環器内科
庄司 亮*	指導医 診療部長 循環器内科
星野 孝男	指導医 診療部長 消化器内科
津田 栄彦*	指導医 科長 消化器内科
藤井 公生	指導医 科長 消化器内科
北林 淳*	指導医 診療部長 血液内科
	秋大プログラム連携施設担当
道下 吉広*	指導医 科長 血液内科
高嶋 悟*	指導医 科長 糖尿病・代謝内科
守田 亮*	指導医 科長 呼吸器内科

地域連携センター

地域医療連携室

センター長 田村 芳一
 副センター長 渡部 博之
 看護主任 大原 美華子
 マネージメントリーダー 小野寺 洋一
 事務（委託） 小玉 順子
 事務（委託） 館岡 直美
 事務（委託） 澤橋 花音
 事務（委託） 澤田石 里美

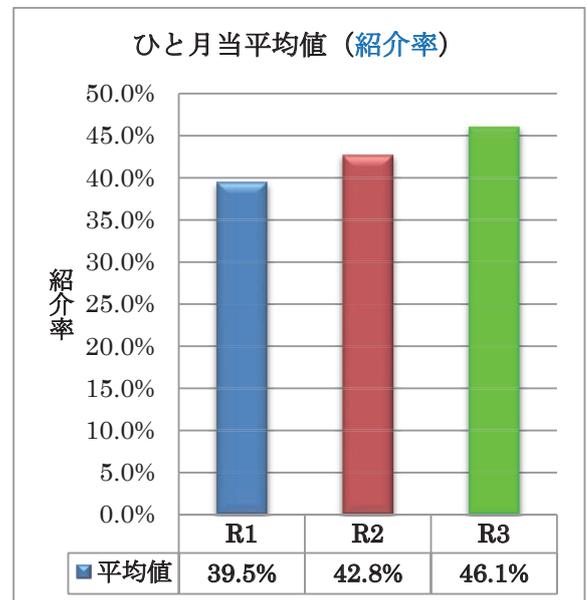
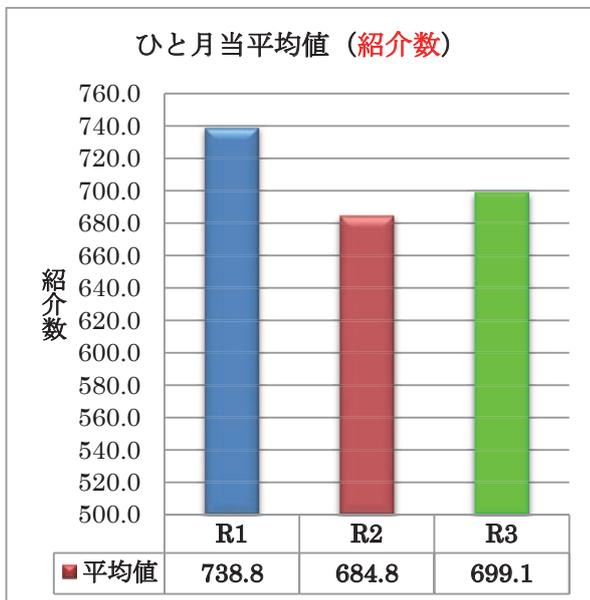
【令和3年度総括】

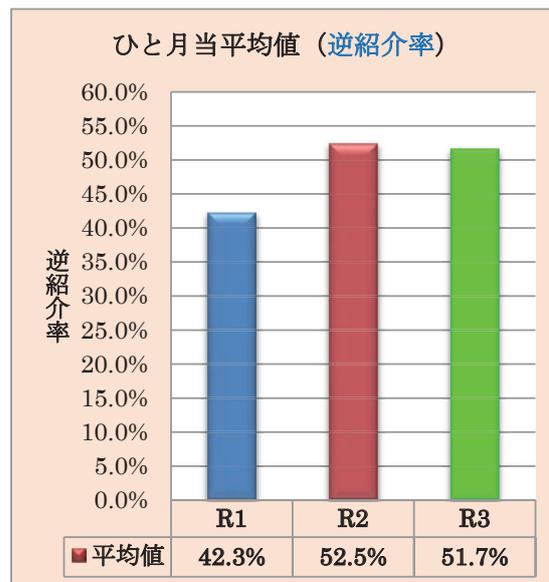
新型コロナウイルス流行の収束の兆しが見えず、院内クラスター発生により8月17日～9月5日までの外来、救急、新規入院患者の受入れ停止、2月4日から2月13日までICU、リハビリテーションの停止を余儀なくされた。

様々な制約がある中で、令和3年度の紹介総件数8,389件、前年度+171件、逆紹介総件数7,213件、前年度比+236件と前年を上回る結果をとなり、地域の診療所、クリニックの皆様のご助力に感謝申し上げます。

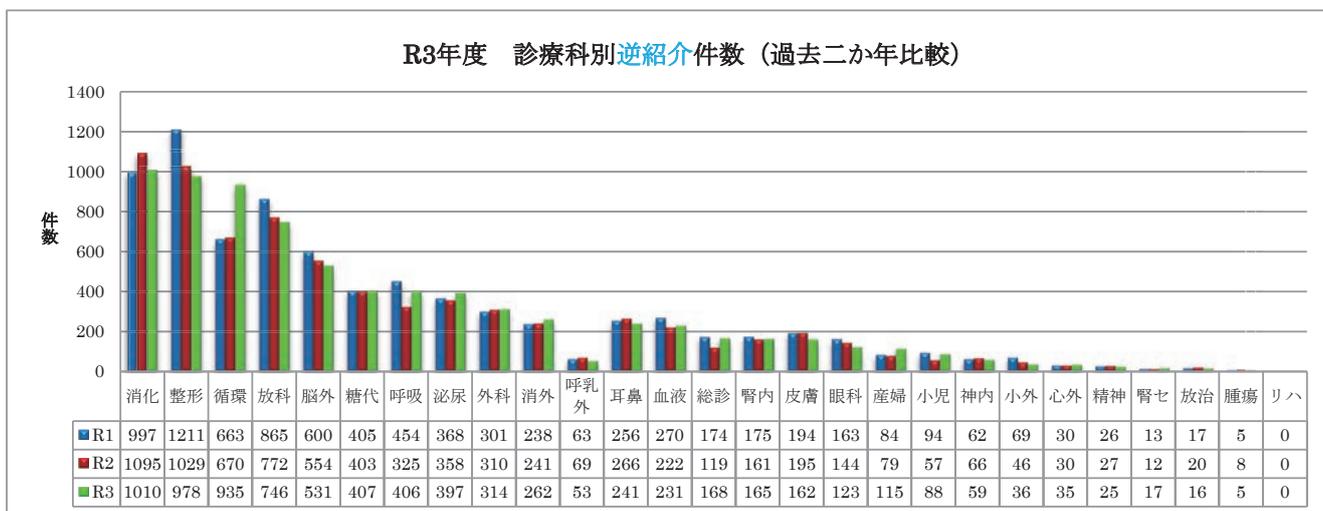
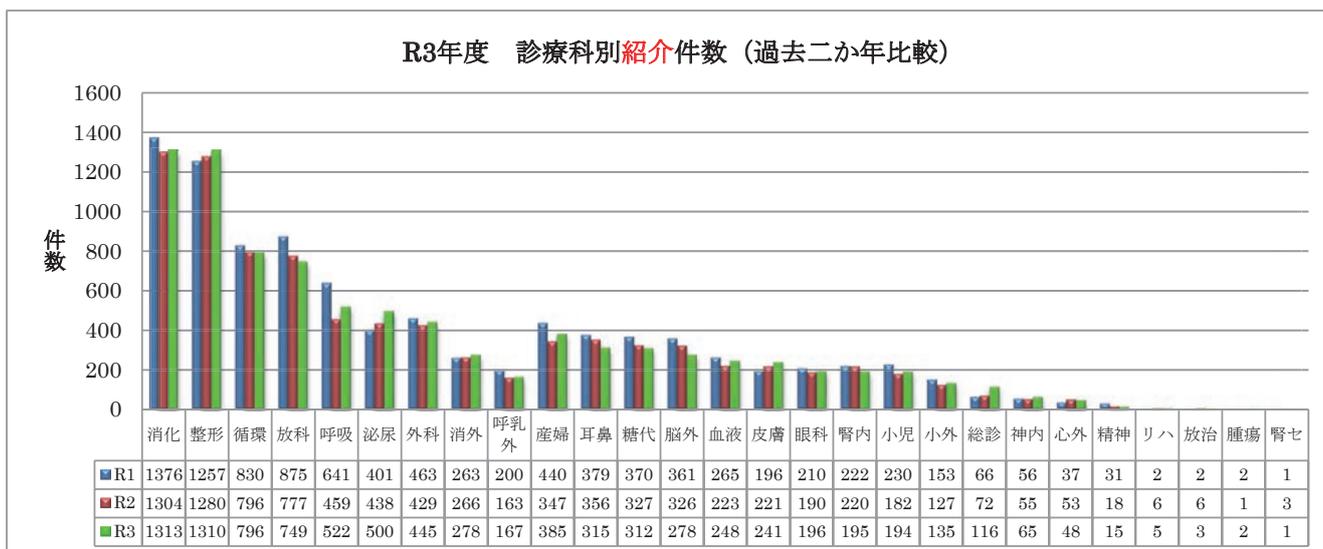
今後も、地域の皆様との連携を深め二人主治医制の推進に努めてまいります。

【紹介数・紹介率、逆紹介数・逆紹介率】

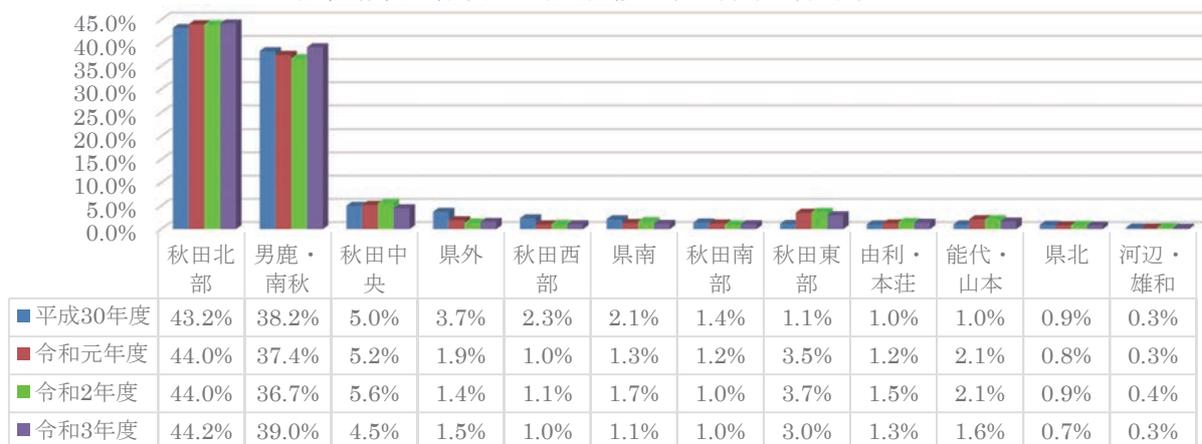




【診療科別紹介数・逆紹介数】

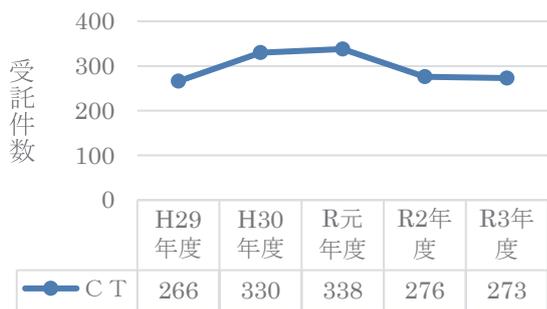


患者住所別紹介患者推移（全体占有率）



【共同利用（放射線）実績】

C T



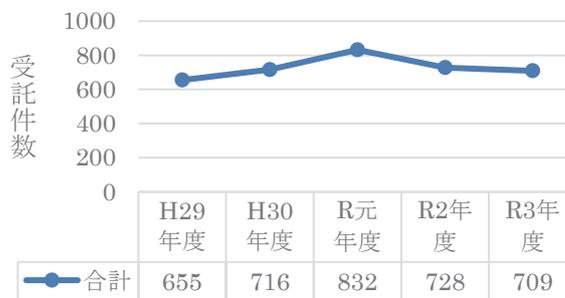
MR I



シンチ



合計



医療福祉相談室

MSW 和田 美智子（課長補佐）

石山 逸美

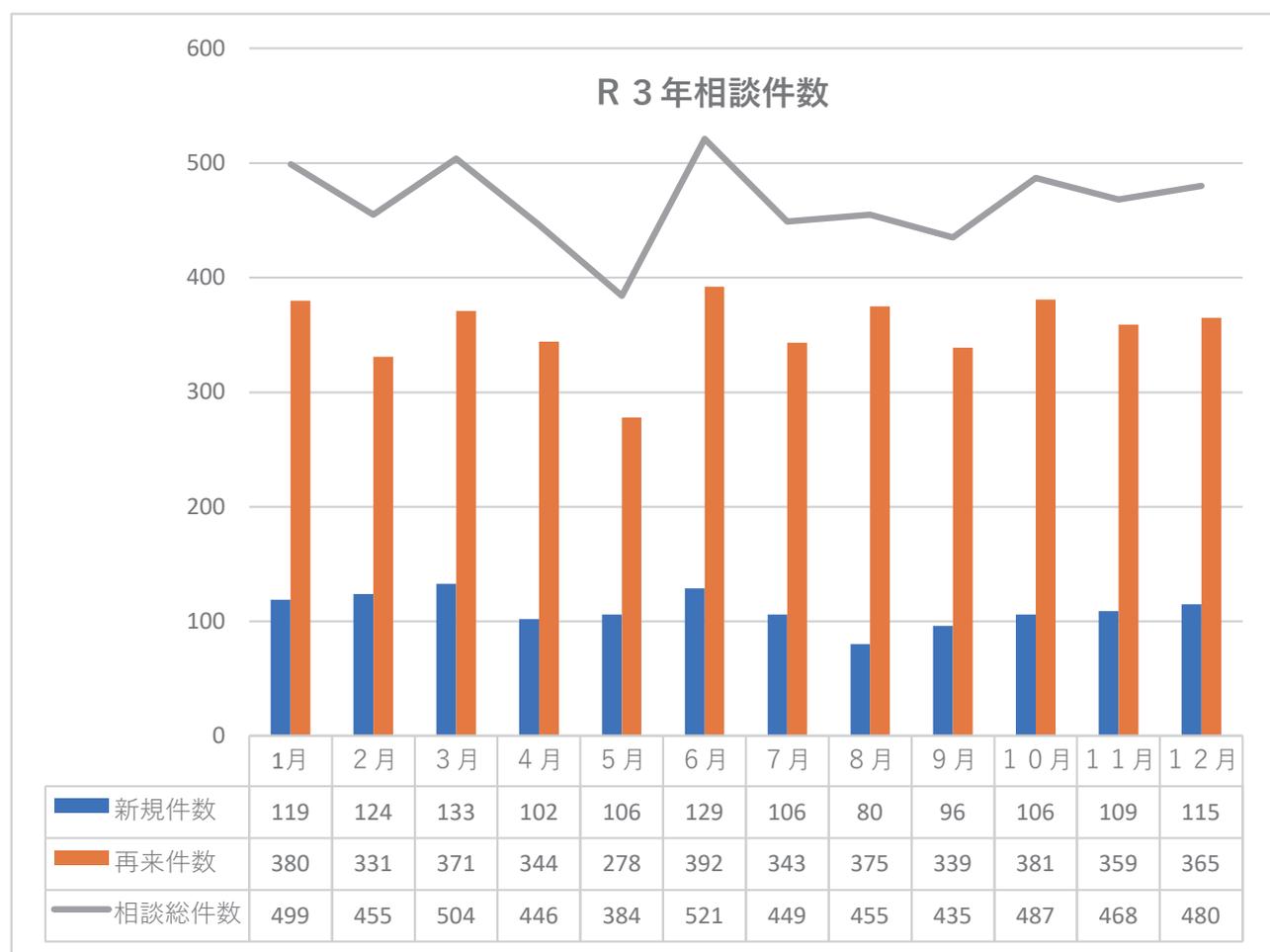
加藤 心平

岸部 麻佑

菊地 咲貴

医療福祉相談室では、社会福祉士の国家資格をもつMSWが5名が担当し、患者さんやご家族の様々な相談に対応している。今まで元気に過ごしてきた方にとって病院は非日常の場所である。受診や入院することで気がかりなこと、不安なこと、知っておきたいこと、各種手続き等相談対応している。

また、地域連携センター内で、地域連携室、入退院支援室と一緒に退院後の生活について早期に関わり、患者さんやご家族が安心して療養・退院出来るように相談に対応している。更に院内のスタッフ、院外の事業所との連絡の窓口となり、スムーズな連携を目指している。



令和3年の相談件数は5,551件で月平均463件、1日平均23件。

相談内容で多いのは、退院後の相談である退院支援、法制度の活用支援、経済的支援となっている。また、ケアマネジャーや施設等の地域関係機関との連携が件数の第1位であった。相談ケース件数は8,769件であった。

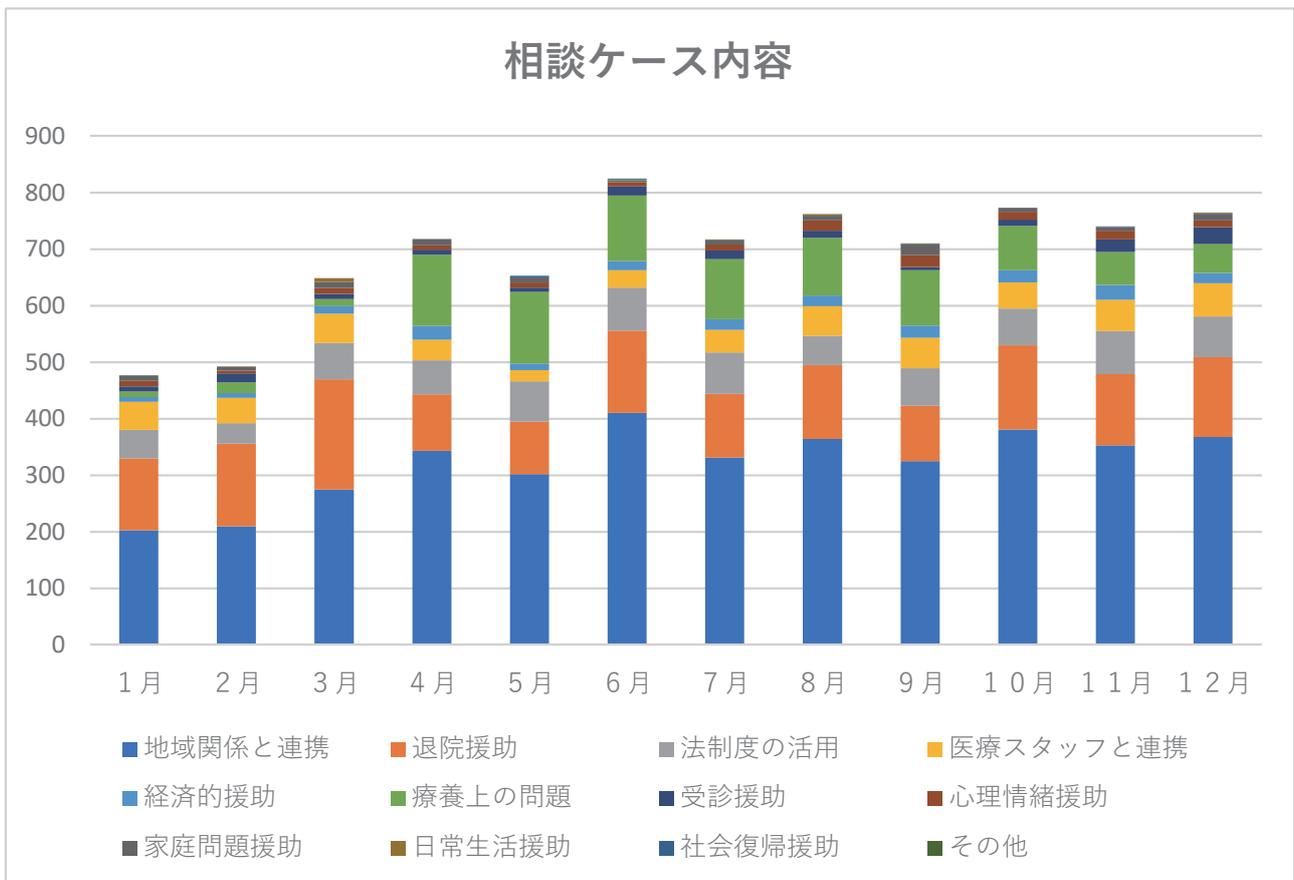
昨年より相談件数は約600件、ケース件数は約550件増加した。

昨年は院内クラスターの影響で稼働日数が少なかったが件数は増加している。

社会情勢の変化と共に独居や身寄りがいない方や介護者が認知症等のような困難ケースが増えており、以前より支援に多くの時間と労力を要している。

県内の病院も困難ケースが増加しているとのことで今後も増加が予想される。

入院時より早期に入退院支援看護師と連携をはかり、地域を含めた多職種で今後の患者さんの療養生活をサポート出来るよう行政との連携が重要である。



◎がん相談支援センター

医療福祉相談室内に「がん相談支援センター」を設置している。

「がん相談支援センター」は全国の「がん診療連携拠点病院」に設置されているがんに関する相談窓口である。

患者さんやご家族のほか、地域の方はどなたでもご利用頂いている。

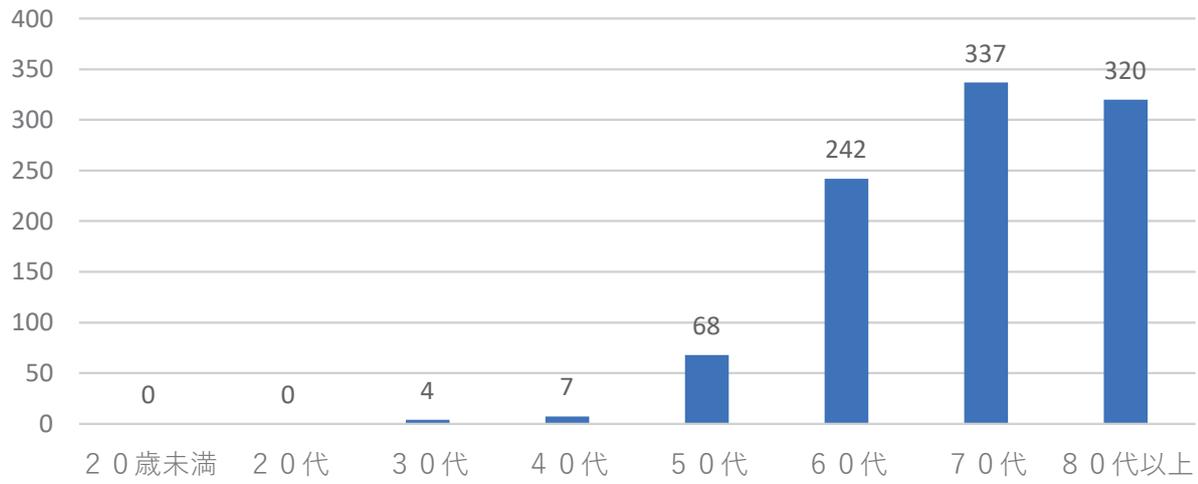
がんに関する治療や療養生活全般、地域の医療機関などについて相談することができ、国が指定した研修を修了した専門の相談員が対応している。

- ・令和3年の相談件数は970件。昨年より105件増加。
- ・年齢別では70～80代以上が増加しており高齢者の相談が多い。
- ・30～50代は医療費や仕事や社会保障制度についての相談が多い。
- ・治療状況は緩和ケアが最も多かったが、治療中の相談も増えているため告知されてからのサポートの場として今後も周知していきたい。
- ・治療中の方の就労支援にも力を入れており辞める前の支援をすすめている。
- ・疾患別では大腸・肺・胃・リンパ腫が上位だが、他の疾患もまんべんなく相談対応しているので、相談内容は多岐にわたっている。
- ・相談内容は高齢者も多く介護保険や訪問看護が多い。治療後の療養場所の選択も多岐にわたるのでACPにつながる支援の充実が求められる。
- ・外旭川ホスピスは土地柄申込者が多いため相談件数も多くなっている。
- ・治療にかかる高額な医療費や精神的な不安の相談は特徴的である。

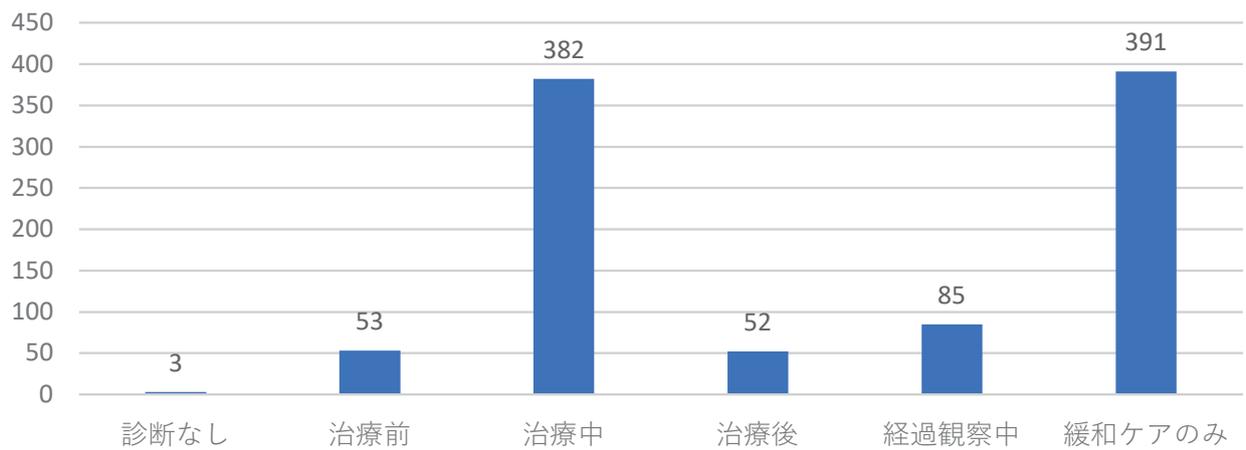
今後も「がん相談支援センター」の院内外の周知を図り、早期から相談対応し治療がスムーズに進むよう援助していきたい。

記：和田 美智子

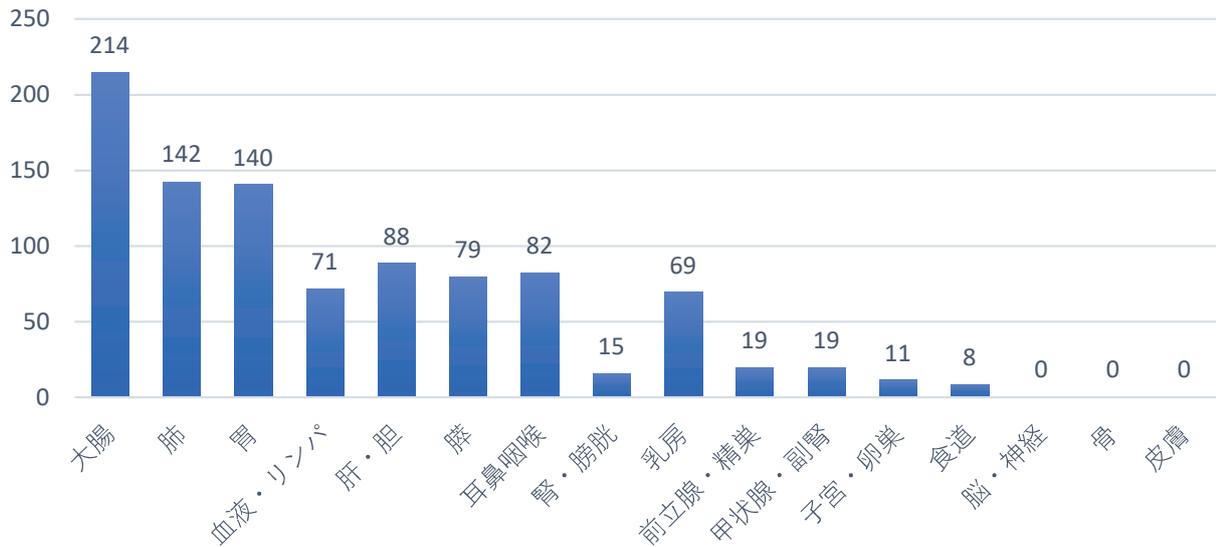
年齢別



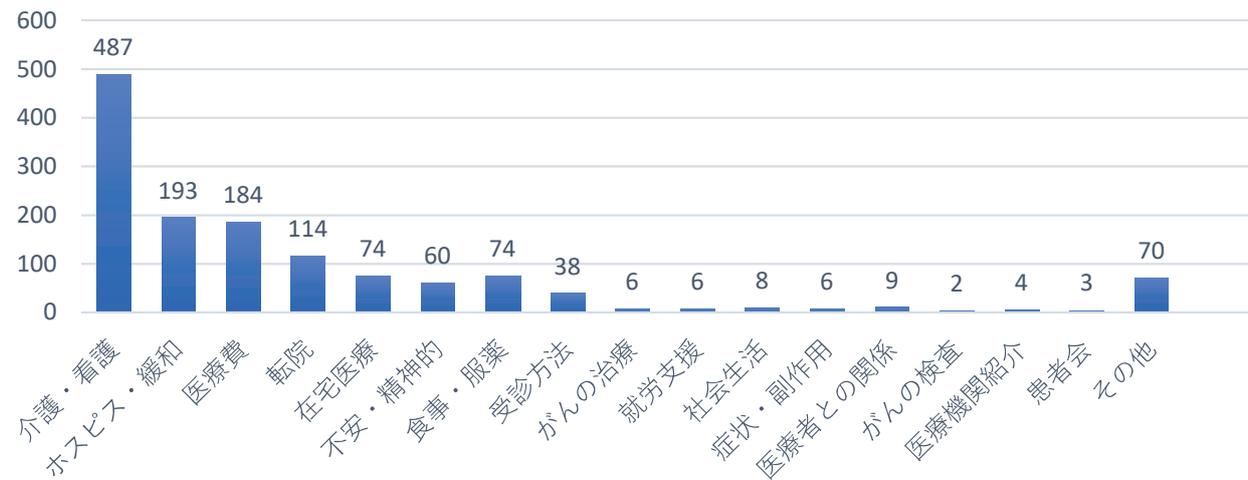
治療状況



疾患別



相談内容



入退院支援室（入院支援）

入院支援専任看護師 大原 美華子
星野 由紀子
佐藤 聖子

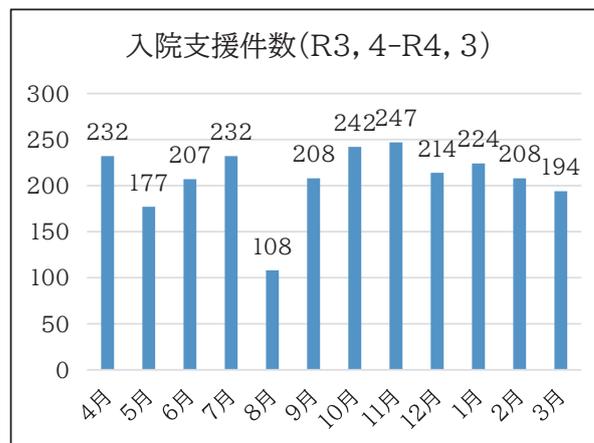
〈目的〉

- ① 予約入院した患者が、安心して入院日を迎えられるよう支援する。
 - ・入院前相談窓口の一元化により、患者サービスの向上を図る。
 - ・入院前オリエンテーションを行う事により入院前から入院後の経過や退院前のイメージができる。
 - ・医療費の相談、医療相談を随時行う事により適切な情報が提供され安心して入院ができる。
- ② 入院前に退院スクリーニングを行い、病棟・退院支援スタッフと情報共有することで効率的に退院支援が実施できる。

〈活動内容〉

主な業務内容は入院予約した患者への入院前オリエンテーション、パスによる手術・検査に関する説明、また個々の患者の相談内容に応じ社会福祉士、医事課等の専門分野への取次ぎ、外来・入院病棟・退院支援看護師との情報共有などを行っている。また、患者のニーズに応じた支援を心掛けている。コロナ禍に置いても、ほぼ例年同様の入院支援件数に対応できている。令和4年度より、医科歯科連携が開始予定となり対応予定、各科外来と連携していく。

記 大原 美華子



入退院支援室（退院支援）

伊藤 厚子
引地 誠美
東海林 佳澄
佐々木 圭子
藤島 綾
谷藤 春美

〈 目 的 〉

退院後も継続的にケアを必要とする入院患者を特定し、患者とその家族が安心して退院、または転院し療養生活を送ることができるよう支援・調整を行う。

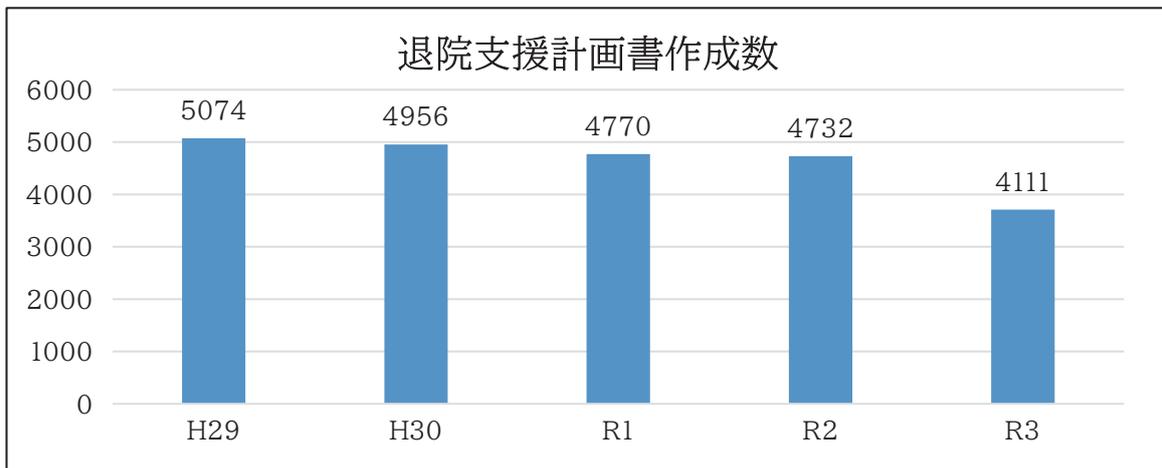
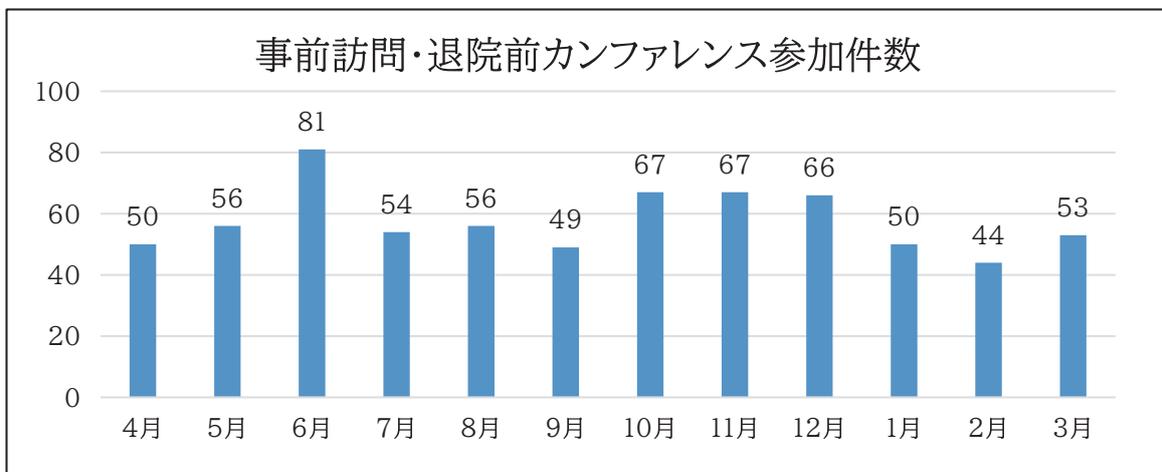
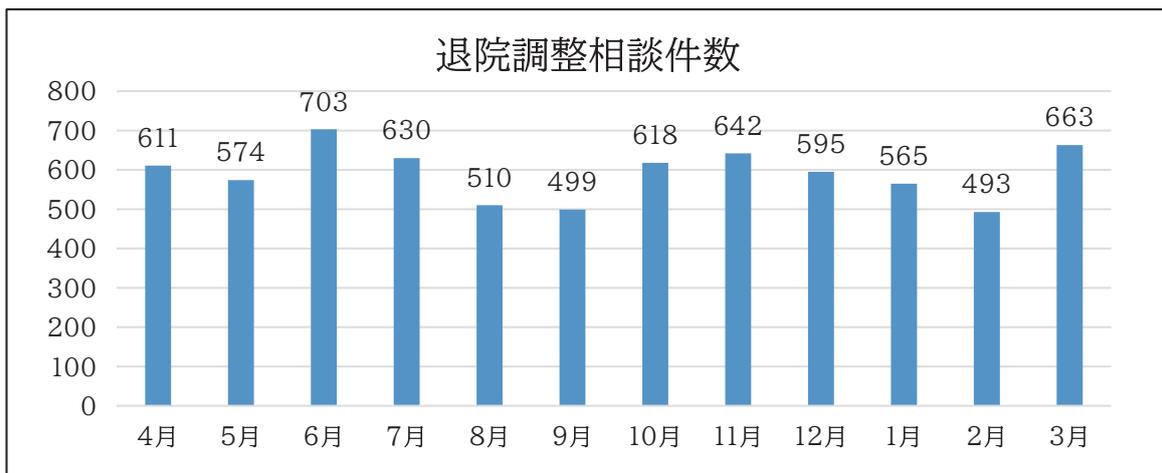
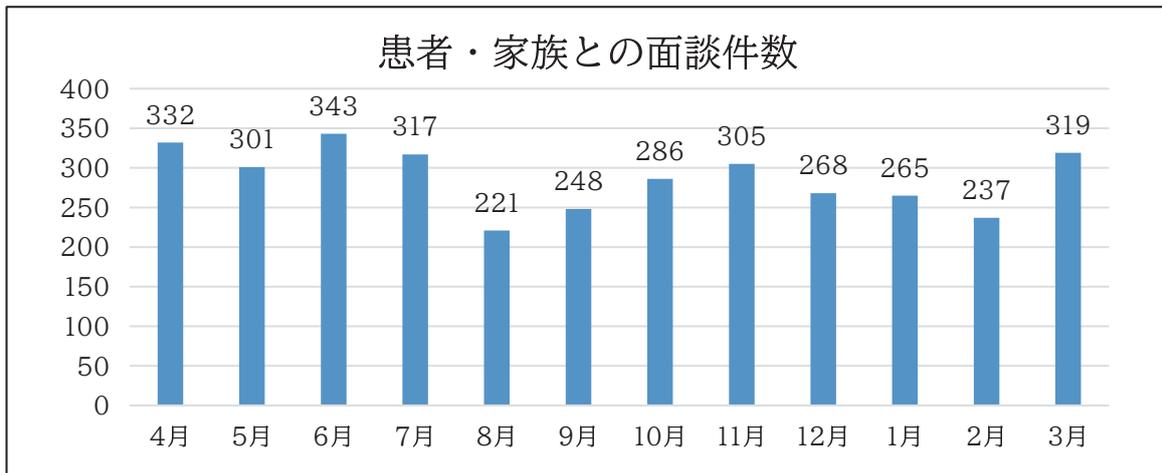
〈 活 動 内 容 〉

退院支援専従看護師1名、退院支援専任看護師5名（2病棟に1名）を配置し、入退院支援加算Ⅰを取得している。

入院早期から退院後の生活を見据えて患者、家族が安心して退院後の生活が送れるよう在宅、施設との連携を図っている。今年度は毎年実施している施設訪問や、在宅ケア研修会が実施できなかったが、今後コロナ禍の状況を見ながら再開し、施設と情報共有しながら退院支援へとつなげていきたい。

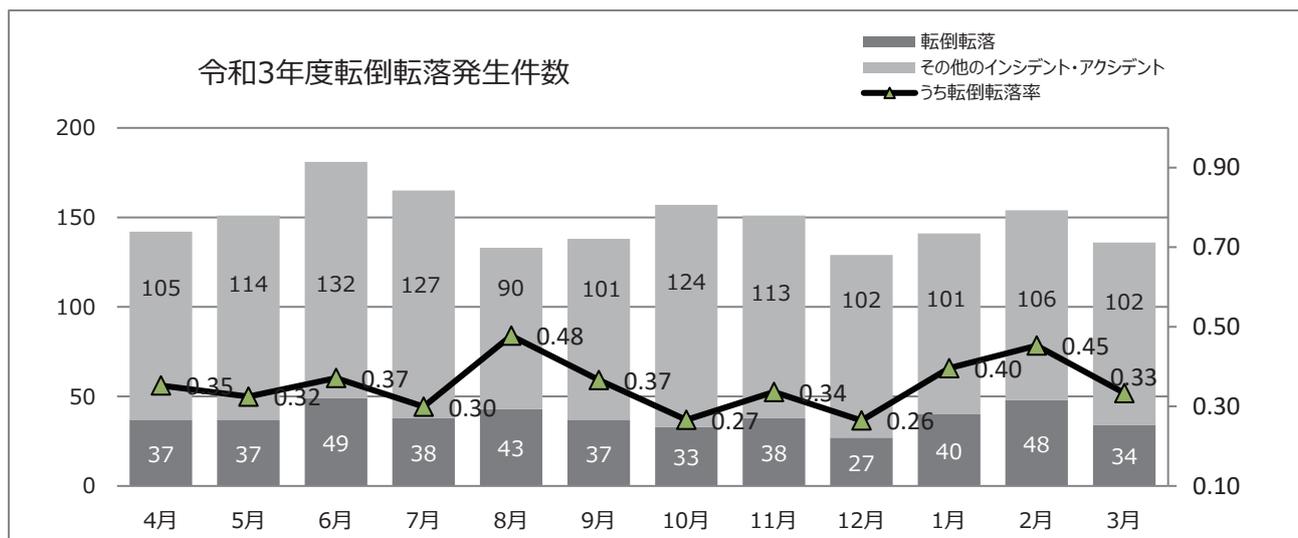
当院の入院患者の約7割が65歳以上となっている。高齢化とともに高齢者のみの世帯も増加しており、新型コロナにより県外の家族が来秋できず、患者サポート体制の不足から退院支援困難事例も増加している。病棟再編により病床数が減少しても退院支援件数は減少することなく経過しており、今後も身体的・心理的・社会的側面から包括的にアセスメントし、住み慣れた地域で、人生の最後まで自分らしい暮らしを続けることが出来るよう、地域と連携して支援していきたい。

記 伊藤 厚子

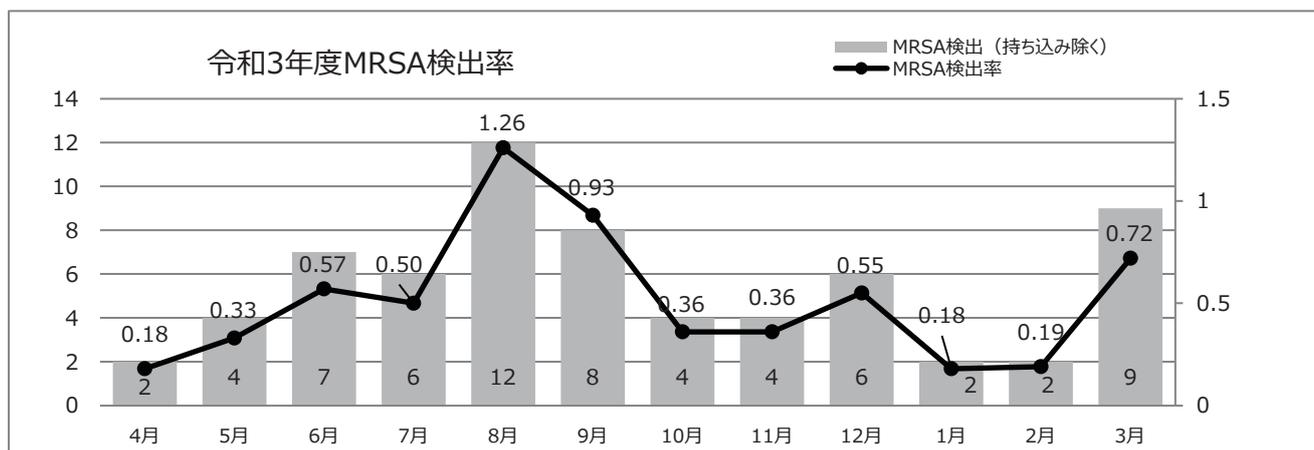


看 護 部 門

2. 転倒転落発生件数



3. MRSA発生件数



4. 看護関連加算

外 来 名	実施件数
ストーマ外来(ストーマ処置件数)	320 件
糖尿病透析予防指導管理料	183 件

関 連 項 目	実施件数	関 連 項 目	実施件数
母乳外来	198 件	入退院支援	2,104 件
摂食機能療法	3,284 件	認知症ケア	31,440 件
在宅療養指導	155 件	排尿自立指導	274 件
退院時リハビリテーション指導	1,477 件	がん患者指導管理料 (イ)	187 件
褥瘡ハイリスクケア	1,223 件	がん患者指導管理料 (ロ)	32 件
介護支援連携	2,728 件		

5. 教育に関する取り組み

①研修、実習の受け入れ

- 〈中高生職場体験（一日看護師体験）〉
 ※新型コロナウイルス感染拡大に伴い中止
 〈ふれあい看護体験〉
 ※新型コロナウイルス感染拡大に伴い中止
 〈看護協会主催 看護の出前授業〉
 申込学校 秋田県立秋田西高等学校
 テーマ 看護職の仕事について
 講師 菅原 舞 皮膚排泄ケア認定看護師
 〈インターンシップ〉
 8月6日（金） 看護学生 41名
 3月※新型コロナウイルス感染拡大に伴い中止
 〈臨地実習〉
- ・秋田市医師会立秋田看護学校
 3年生 36名 2年生 20名 1年生 15名
 - ・秋田大学（在宅看護学） 12名
 （助産学） 4名
 - ・日本赤十字秋田看護大学
 （公衆衛生看護学） 20名
 （在宅看護学） 10名

②看護職員教育

- クリニカルラダー
 ＊レベル別研修（レベルⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ）
 ＊領域別研修

令和3年度認定者総数	50名
内訳 レベルⅠ：	16名
レベルⅡ：	2名
レベルⅢ：	9名
レベルⅣ：	2名
レベルⅤ：	1名

③令和3年度 新人看護師研修年間計画

4月	入職時オリエンテーション 看護倫理 医療安全 感染管理 看護記録 報告・連絡・相談 電子カルテの基本的操作 褥瘡予防 オムツ 急変対応 接遇 ハラスメント バイタルサイン 演習 （医療安全、注射・点滴の準備、医療機器取り扱い、皮下注射・筋肉内注射、採血・点滴、心電図モニター）	8月	褥瘡予防 緩和ケア がん化学療法 心電図の読み方（基礎編） 5ヶ月の振り返り（健康調査）
		10月	シミュレーション研修 7ヶ月の振り返り（健康調査） リフレッシュ研修
5月	呼吸・循環フィジカルアセスメント 看護必要度 退院支援 演習（採血・点滴） 2ヶ月の振り返り	11月	迅速なフィジカルアセスメント 災害看護 院内防災訓練参加
6月	夜勤業務について 死後のケア、エンゼルケア 見習い夜勤開始	12月	節目研修へ参加
		1月 3月	シミュレーション研修 成果発表

④院内研修

1) ラダーレベル I 研修（新人教育研修）

研修会名	開催日	参加者数
入職時オリエンテーション	4月5日～ 4月9日	18
<フィジカルアセスメント>		
呼吸・循環フィジカルアセスメント	5月13日	17
迅速な急変予測と対応	11月4日	16
やさしい心電図の見方	12月～2月	16
緩和ケア	8月12日	16
がん化学療法	8月12日	16
<看護実践>		
看護記録	4月15日	18
心電図モニターの装着と管理	4月15日	18
採血・点滴の演習	5月20日	18
夜勤業務について	6月3日	17
死後のケア エンゼルケア	6月3日	17
急変対応	4月22日	18
スポットチェックモニター	4月15日	18
褥瘡予防とDESIGN-R	8月12日	16
<シミュレーション研修>		
シミュレーション研修 ①	10月1日	22
シミュレーション研修 ②	1月20日	16
<看護倫理>		
看護倫理	4月5日	18
<地域連携>		
入退院支援室の紹介	4月5日	18
退院支援	5月20日	18
<看護管理>		
報告・連絡・相談・コミュニケーション	4月7日	18
<感染管理>		
手洗い・PPE	4月6日	18
<安全管理>		
医療安全の基本	4月6日	18
<災害管理>		
災害看護	11月4日	16
<対人関係能力>		
接遇・ハラスメント	4月9日	18
<共通ラダー新人>		
褥瘡予防	8月12日	16

＜その他＞		
看護部概況	4月5日	18
重症度、医療・看護必要度	5月13日	17
リフレッシュ研修	10月22日	16

2) 継続教育研修

ラダーレベルⅡ

No.	開催日	研修名	講師	会場	人数
1	5月27日	看護研究	秋元 静香 看護師長	2F 大会議室	4
2	6月15日	安全管理	ナーシングスキル		9
3	6月15日	感染管理	ナーシングスキル		9
4	6月17日	看護管理	鎌田 玲子 看護副部長	3F 第1	8
5	6月29日	対人関係	ナーシングスキル		
6	7月8日	災害看護	太田 幸一 看護師長	2F 大会議室	7
7	8月16日	地域連携	退院支援専従看護師 伊藤 厚子 看護副師長	2F 大会議室	5
8	9月14日	がん看護（基礎編）	ナーシングスキル		4
9	9月16日	看護倫理	がん看護専門看護師 小川 雅子	2F 大会議室	7
10	10月11日	新人合同シミュレーション	教育委員会	2F 大会議室	22
11	11月29日	看護管理	主任会	2F 大会議室	7
12	12月13日	フィジカルアセスメント ※ラダーⅡ・Ⅲ合同	慢性呼吸器疾患看護 CN 小林 範大	2F 大会議室	※19
13	9月～2月	院内留学	各希望部署	各希望部署	4

ラダーレベルⅢ

No.	開催日	研修名	講師	会場	人数
1	7月6日	がん看護	がん化学療法 CN 奈良 祐子 看護副師長	2F 大会議室	14
2	8月5日	感染管理	ナーシングスキル		19
3	8月9日	対人関係	ナーシングスキル		20
4	8月11日	災害看護	秋本 智美 看護師長 鎌田 朝子 看護師長	2F 大会議室	8
5	9月29日	看護管理	ナーシングスキル		19

No.	開催日	研修名	講師	会場	人数
6	10月18日	看護倫理	がん看護専門看護師 小川 雅子	2F 大会議室	14
7	10月19日	がん看護②	緩和ケア CN 小笠原 瞳 看護主任	2F 大会議室	17
8	11月10日	地域連携	中川 久美子 看護副師長 前田 美佐 看護副師長	2F 大会議室	19
9	12月7日	看護研究	秋元 静香 看護師長	2F 大会議室	14
10	12月13日	フィジカルアセスメント ※ラダーⅡ・Ⅲ合同	慢性心不全看護 CN 進藤 一志	2F 大会議室	※19
11	1月20日	合同シミュレーション	課題提出 ※コロナの影響で集合研修中止		38
12	2月6日	看護実践	ナーシングスキル		20

ラダーレベルⅣ

No.	開催日	研修名	講師	会場	人数
1	7月20日	地域連携	退院支援専従看護師 伊藤 厚子 看護副師長	2F 大会議室	34
2	9月9日	災害看護	藤田 正子 副師長 熊谷 洋子	2F 大会議室	32
3	9月30日	フィジカルアセスメント (※ラダーⅣ合同)	慢性呼吸器疾患看護 CN 小林 範大	2F 大会議室	※45
4	10月29日	感染管理	ナーシングスキル		53
5	11月1日	安全管理	GRM 小玉 典子 看護副師長	2F 大会議室	35
6	11月16日	看護倫理	小川 雅子 がん看護専門看護師	2F 大会議室	31
7	12月9日	対人関係	GRM 医療メディエーター 成田 雪美 看護副部長	2F 大会議室	44
8	12月16日	看護管理	鎌田 玲子 看護副部長	2F 大会議室	40
9	1月14日	看護研究	秋元 静香 看護師長	2F 大会議室	20
10	1月17日	がん看護	緩和ケア認定看護師 伊藤 直子 副師長	2F 大会議室	36
11	7月～2月	看護実践 在宅看護 (訪問看護実習)	訪問看護師	2F 大会議室	27

ラダーレベルⅤ

No.	開催日	研修名	講師	会場	人数
1	6月17日	看護管理	鎌田 玲子 看護副部長	3F 第1会議室	8
2	7月15日	安全管理	GRM 医療メディエーター 成田 雪美 看護副部長	2F 大会議室	6

No.	開催日	研修名	講師	会場	人数
3	9月30日	フィジカルアセスメント (※ラダーIV合同)	慢性呼吸器疾患看護 CN 小林 範大	2F 大会議室	※45
4	10月14日	対人関係	GRM 医療メディエーター 成田 雪美 看護副部長	2F 大会議室	7
5	11月26日	がん看護	がん看護専門看護師 小川 雅子	2F 大会議室	6
6	1月13日	地域連携	退院支援専従看護師 伊藤 厚子 看護副師長	2F 大会議室	6
7	1月27日	看護倫理	がん看護専門看護師 小川 雅子	2F 大会議室	5
8	1月28日	感染管理	感染管理認定看護師 水野 住恵 看護師長	2F 大会議室	9
9	2月24日	災害看護	鎌田 朝子 看護師長	2F 大会議室	7

共通ラダー

No.	開催日	研修名	講師	会場	人数
1	5月14日	褥瘡ケア	皮膚排泄ケア認定看護師 菅原 舞 看護主任	2F 大会議室	36
2	6月1日	救急看護 知識編	ナーシングスキル		32
3	6月22日	認知症①	ナーシングスキル		53
4	7月29日	救急看護 実技①	山本 朝子 看護副師長	2F 大会議室	15
5	8月3日	皮膚創傷ケア	皮膚排泄ケア認定看護師 小玉 丈	2F 大会議室	34
6	9月7日	認知症②	認知症ケア専門士 石井 和子 看護副師長	2F 大会議室	40
7	10月5日	認知症③	湖東厚生病院 認知症ケア CN 佐々木 蘭 氏	2F 大会議室	39
8	11月18日	救急看護 実技③	山本 朝子 看護副師長	2F 大会議室	14

トピックス研修

No.	開催日	研修名	講師	会場	人数
1	4月30日 5月7日	看護部長講話	佐々木 幸子 副院長・看護部長	2F 大会議室	79
2	5月31日	在宅ケア	居宅ケアマネ管理者 中川 久美子 看護副師長	2F 大会議室	16
3	12月1日 12月2日	節目研修	教育委員会	2F 大会議室	39
4	12月20日	メンタルヘルス	公認心理師 中川 久美子 看護副師長	2F 大会議室	21
5	1月12日	実習指導	秋田市医師会立秋田看護学校 副学校長 伊藤 多鶴子氏	2F 大会議室	26

⑤院外研修参加（長期研修・講習・教育課程）

研 修 名	参 加 者
秋田県実習指導者講習会	佐藤 茜 看護主任
秋田県医療安全管理者研修	佐藤 圭子 看護師長

⑥院内看護研究発表

No.	テ ー マ	部署名	発表者
1	子癇発作により意識消失したまま分娩した初産婦への関わり —母児の愛着形成に向けた段階的・継続的な支援の実施—	西 4	手塚 美月
2	難聴のある患者への退院後の生活指導を行った関わり —パンフレットによる視覚的効果—	西 7	高橋 祐香
3	難聴がある患者と家族へのシャント管理指導	東 4	田口 菜奈
4	人工股関節全置換術の患者への術前からの日常生活指導 —自助具（マジックハンド）を用いて—	東 6	高山 ひなの

⑦院外発表

No.	テーマ	部署	学会名	発表者
1	A病院のHCUにおける スキントアハイリスク患者の実態調査	ICU	第17回 日本褥瘡学会東北地 方会学術集会	岡部 夏希
2	エムラクリームによる 穿刺痛緩和への取り組み	腎センター	第25回秋田腎不全 研究会	川田 真与
3	多発骨転移のある高齢がん患者が、症状を セルフマネジメントできたことで合計11 部位に放射線治療を行い約2年間の間ADL が維持できた1例	西外来	第6回日本がんサポ ートケア学会学術集 会	小笠原 瞳
4	通院リハビリにより再入院を回避できた アドリアマイシン心筋症による 慢性心不全の1例	西外来	日本心臓リハビリテ ーション学会 第6回東北支部地方 会	熊谷 洋子
5	硝子体手術後の腹臥位安静患者の苦痛に 伴う安楽な体位の工夫	西 5 病棟	第17回 日本褥瘡学会東北地 方会学術集会	石井 智子

6. 看護部委員会活動

委員会名	活動内容
企画・基準委員会	1) 看護基準・手順を整備する 2) 看護基準・手順どおり行われているか評価する
教育委員会	1) 継続教育において、専門職として目指す看護ができる人材育成に向けた各領域、段階別、トピックスなどの研修企画運営を行なう。 2) 新人教育において、安全で確実な看護実践できる基礎看護の習得を支援する
看護記録委員会	1) 看護記録基準・手順の見直しを行なう 2) 看護記録について統一した視点での看護記録監査を実施する 3) 看護記録に関する勉強会を実施する
看護必要度委員会	1) 看護必要度基準の見直しを行なう 2) 看護必要度評価者育成のため研修会を実施する 3) 精度の高い看護必要度評価を進めるため毎月の監査を実施する
リスクマネジメント委員会	1) 転倒転落による3b事例10件以下を目指す取り組みを推進する 2) KYT運用周知のため各部署へ出前指導を実施する 3) 医療事故防止対策マニュアルの改訂と周知を行なう 1) ～3) の小集団活動の継続で成果の共有化を行なう
認知症ケア委員会	1) 認知症ケア手順に沿った看護について遵守状況の把握、使用パンフレットの見直し、認知症ケア監査を行ないフィードバックする 2) 認知症ケア研修会受講者の開催する研修会運営協力を行なう 3) 認知症事例報告会を開催する

〈感染管理認定看護師〉

感染管理室 水野 住恵
佐藤 真理子

目的

感染から患者、職員を守る。
エビデンスのある感染対策を提案し遵守率向上により医療関連感染：HAI（Health care-associated infection）の低減を図る。

活動内容

ICT、AST、感染リンクスタッフ委員会などと共に、病院内のすべての感染に関わる対策に取り組む。

1) サーベイランスの実践

- ①病院全体の CLABSI バイランス
- ②ICU における VAE サーベイランス
- ③整形外科領域における SSI サーベイランス
- ④耐性菌サーベイランス

感染率の把握と分析を行い、ガイドラインなどに準拠し、推奨する感染対策を提案する。また、改善策を現場で実施後、再び感染率の評価を行う。（PDCA サイクルをまわす）

※データは感染管理室の年報参照

（コロナの影響で、業務煩雑となり VAE、SSI は集計中断中）

2) 感染管理教育

ICT として全体研修会の企画運営のほか、病棟個別研修を行っている。2021 年は上半期・下半期とも e ラーニングで実施し受講率 100%となっている。

看護部教育委員会企画のクリニカルラダー I、II、III、IV、看護助手研修会を実施。またその他の職種にも入職時オリエンテーションや必要時研修を行っている。

3) 職業感染対策

安全装置付きの器材の導入、リキャップの禁止、針捨てボックスの携帯などを整備し対策を講じてきた。さらに、その器材を正しく使用する為のトレーニングや教育を行っている。2020 年の全体の血液曝露事象の看護師が占める割合が 57.7%となったが、2021 年は 28.6%まで減少した。（図 1）

2021 年の看護師の曝露事例の主なものとして、翼状針が完全に収納されずに受傷した事例、ペン型のインスリンに針を付けたまま収納し、次の担当者が受傷した事例、血液が混入したヘパリンフラッシュをした際に飛び散り、目に入ったという事例だった。今後、対策を検討していきたい。

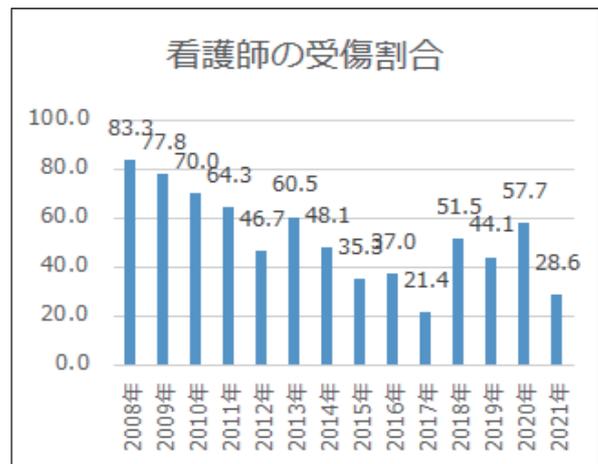


図 1 針刺・切創、血液・体液曝露の全事象のうち、看護師が占める割合の推移

4) 感染防止技術

2019 年から看護師のみで構成されていたリンクナース委員会から、コメディカルを含めた感染リンクスタッフ会とし、運用を開始した。リンクスタッフに手指衛生剤の使用量調査をしてもらい、手指消毒薬使用量から算出した患者一人当たりの手指衛生回数を算出してきた。外来においては職員一人当たりの手指衛生回数を算出。

2020 年度からは、コメディカルの使用量調査も実施。結果は月に 1 回の定例会でフィードバックを行っている。（図 2、3、4）。

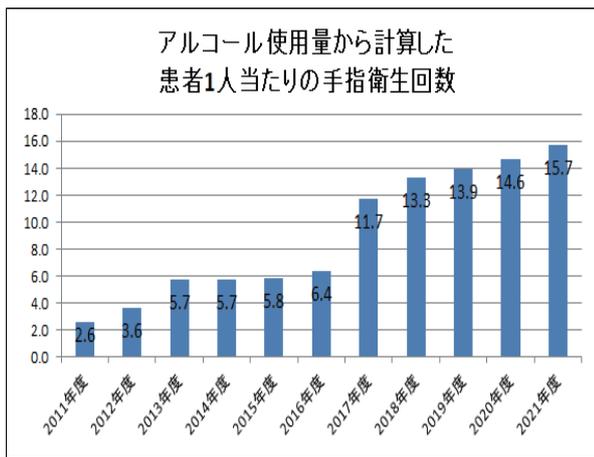


図2 2011年4月～2021年3月までのアルコール使用量から計算した患者一人当たりの手指衛生回数

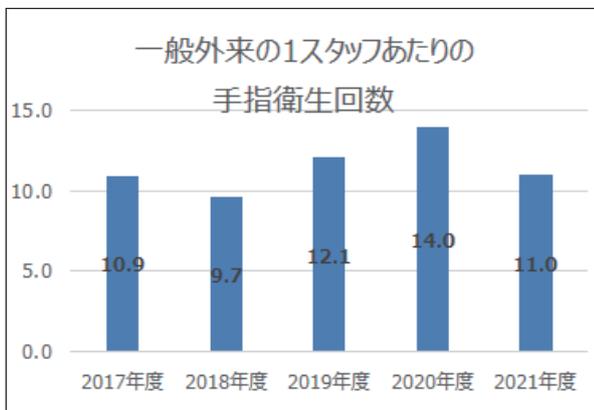


図3 2017年4月～2021年3月までのアルコール使用量から計算した一般外来スタッフ一人当たりの手指衛生回数

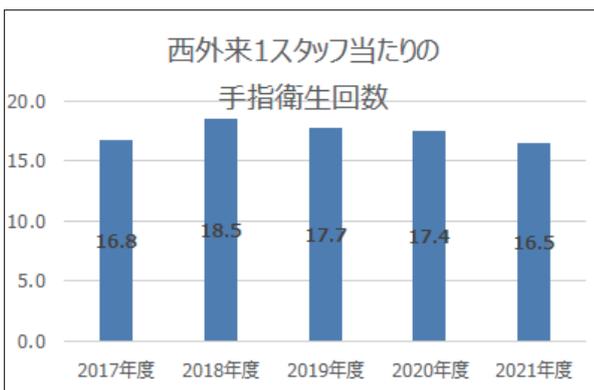


図4 2017年4月～2021年3月までのアルコール使用量から計算した西外来スタッフ一人当たりの手指衛生回数

また、WHOの手指衛生5つタイミングに則り、直接観察法を実施し、遵守率の評価を行っている。(図5)

感染リンクスタッフからも各部署の観察結果を提出してもらっているが、CNICの観察結果に比べて遵守率が高い傾向にある。今後、共通認識のもと、遵守率の差を埋めることを検討したい。

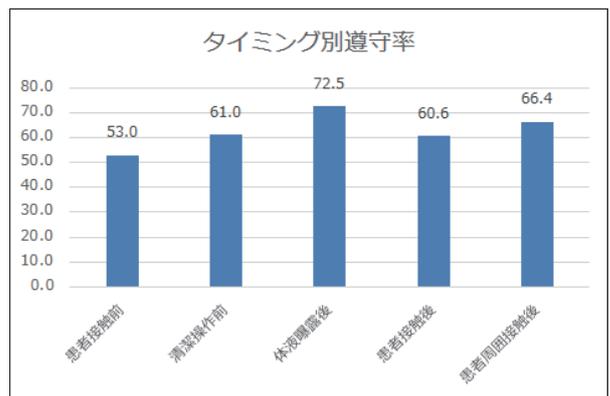


図5 2018年1月～2021年3月までのタイミング別手指衛生遵守率 (CNICによる観察結果)

5) ファシリティ・マネジメント

ごみの分別や空調、清掃、滅菌器材の保管方法、ゾーニング、血流感染対策、尿路感染対策などを、リンクスタッフとICTメンバーで週に1回のラウンドを通して確認している。結果は報告書を作成し、全部署へフィードバックしている。

6) コンサルテーション

2021年度のコンサルテーション件数は192件だった。このうち看護師からの相談は98件(51%)であった。

課題

- 1) 医療器具関連の感染を現場に周知し、根拠に基づいた感染対策の実践ができるように取り組む
- 2) 手指衛生の遵守率のさらなる向上と標準予防策の徹底
- 3) 感染管理教育の継続と職場内意識の向上
- 4) 病棟環境の整備の徹底
- 5) 感染管理認定看護師としてのコンサルテーションの充実

院外講演・発表などの実績

- 1) 2021年11月12日
秋田県社会福祉協議会
社会福祉施設対象研修会
「感染対策の基本的な考え方」
講師 CNIC：水野 住恵

記：水野 住恵

〈緩和ケア認定看護師〉

緩和ケアチーム専従 伊藤直子
放射線治療科 小笠原瞳

目的

がん治療・看護の多様化を背景にがん看護へのニーズが高まっている。がんと診断されてから、治療を継続する患者と家族の抱える苦痛に対する確に対応していくことでケアの質の向上をはかり、早期から質の高い緩和ケアの提供を目指す。また非がんの患者、家族の苦痛緩和にも取り組む。

活動内容

1) 緩和ケアチーム活動

2021年4月～2022年3月において外来患者延べ91名（うち新規依頼66名）と入院患者135名（うち新規依頼69名）に対し、緩和医療・ケア、症状緩和、疼痛コントロール、精神的サポート、家族ケアなど様々な介入を実施した。依頼内容は転科や痛み以外の症状への対応が過半数を占めた。（図1）また、週に2回病棟カンファレンス（火曜日：東病棟、木曜日：西病棟）を実施した。

日本緩和医療学会の緩和ケアチームセルフチェックプログラムに参加し、チーム活動における課題と目標を共有し取り組んだ。

2) 緩和ケアチーム以外の活動

毎月第3火曜日を定例会として開催される緩和ケア委員会において、緩和ケアチームの介入状況の報告、また緩和ケアに関する研修会の情報提供と参加者の報告を実施。また、院内で開催された緩和ケア研修会にファシリテーターとして参加した。緩和ケアチームで直接介入していないが、当院に通院している患者・家族の相談に対応した。

R3年度看護相談外来を開設。毎月第2金曜日緩和ケアに関する相談日としたが、まだ周知徹底されていないこともあり、対応は1件

のみであった。緩和ケア以外では浮腫に対する相談あり、2件に対応した。

3) 緩和ケアにおける看護の質の向上

毎月第3火曜日に緩和ケアリンクナース会を開催。患者のQOLの向上を目指して、口腔ケアに取り組んだ。各部署の口腔ケアの実情と課題を確認しながら勉強会を重ね、口腔ケアファイルを作成し配布した。

4) がん患者指導管理料算定の実施

がん患者指導管理料の算定は、主に外来や入院患者の病名告知や、放射線治療開始時の面談に同席し、受け止め方や理解度を確認しながら、不安や心配なことに対応することを心がけている。2021年度は指導管理料イ算定が159件、指導管理料ロ算定は6件であった。（図2）

5) 自己研鑽のため学会、研修会にWEBで参加

- ・日本死の臨床研究会
- ・日本緩和医療学会

課題

患者・家族が安心して治療、ケアが受けられるよう緩和ケアチームとして多職種での支援を心掛けているが、問題や目標がチーム内で共有できていないこともあり、記録の見直しなど対策に取り組んでいる。緩和ケアが必要な人に提供できるよう今後もチーム活動を見直していく必要がある。

医師の病状説明に同席し患者家族の理解度を確認しながら心配なことや気がかりに対応しているが、看護外来での対応件数は少ない。スクリーニングを継続し緩和ケア希望者につながるよう努めていく。意思決定支援できるよう自己研鑽もしていきたい。

「緩和ケア」について、患者・家族の誤解や認知不足は続いており、プライマリーチームと連携しながら、緩和ケアが広く浸透していくよう今後も取り組んでいきたい。

記 伊藤直子

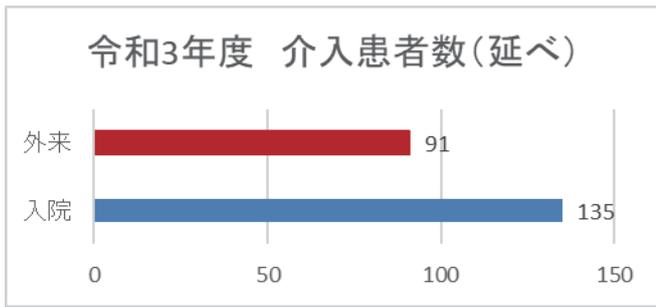


図 1

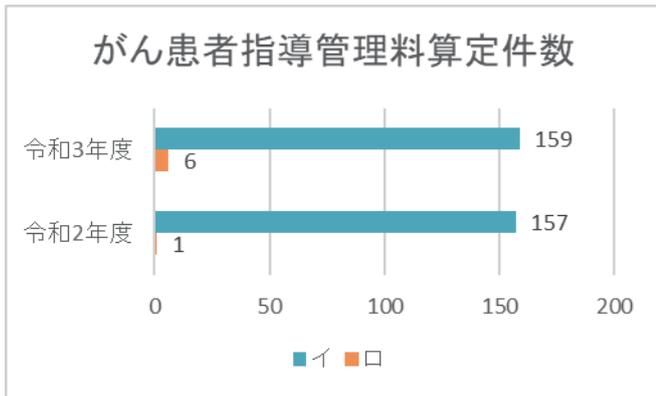


図 2

〈がん化学療法看護認定看護師活動報告〉

がん薬物療法看護認定看護師

奈良 祐子

がん化学療法看護認定看護師

船木 弥生

目 的

がん化学療法看護分野において熟練した看護技術と最新の知識を持ち、看護の現場で専門性を発揮し、院内のがん治療・看護の質の向上に寄与する。

活 動 内 容

- 1) がん化学療法を受ける患者・家族への看護実践
- 2) 確実・安全・安楽ながん化学療法看護の質の向上
がん化学療法に関わるスタッフの支援
- 3) 看護研究の取り組み
- 4) 自己研鑽のための学会・研修会参加・伝達講習
- 5) 認定看護師会から認定看護師の役割
発信・コンサルテーション体制構築
看護相談外来開設

【施設変遷】

外科外来併設

2009年12月 7床から15床に増床

2019年12月 20床に増床

2階に移設

【利用科】

消化器外科、呼吸器・乳腺外科、消化器内科、血液内科、呼吸器内科、産婦人科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、(科別内訳 表1)

【外来化学療法件数】

月平均は285件で、新型コロナ流行に伴う外来休診はあったが、化学療法室は通常通り運営を行った。件数の増加はなかったが、昨年と同じ件数を維持した。(外来化学療法件数 表2)

今年度は消化器内科、呼吸器・乳腺外科の件数が増加していた。術前・術後補助化学療法、延命・症状緩和目的の治療が多かった。

また、免疫チェックポイント阻害剤が適用される疾患がさらに増え、外来で治療を受けられる患者は増加傾向にある。

ゲノム医療の進展に伴い、遺伝子検査の実施、新規抗がん剤の適用により、薬剤の組み合わせは複雑化しており、登録レジメンは増加している。外来通院でがん化学療法を必要とする患者は今後も増加していくと考えられるため、安全に治療を受けられる環境と安心して治療を継続し、日常生活を過ごしていけるよう支援が必要である。

【スタッフ】

看護師 2.5名

外来兼務看護師 1～2名

がん化学療法看護認定看護師 1名

【活動報告】

- 1) がん化学療法を受ける患者・家族に対し、意思決定支援、化学療法の投与管理、副作用支援、セルフケア支援を行っている。化学療法室では、今年後より薬剤師のフォローの元、患者の副作用の経過や生活への影響を知り、支援を行うため、スタッフと主な副作用10項目(食欲不振、嘔気、嘔吐、口内炎、味覚障害、便秘、下痢、しびれ、だるさ、痛み)について聴取とフォローを開始した。患者の副作用の経過や程度を共有することにより、患者・家族への関わりが増え、看護師の役割を見出すことに繋がったと考える。また、診察前に治療期間中の患者の状態を聴取し、患者の不安の軽減に努め、医師や外来へ情報提供を行うことにより、外来診療への協力を行った。診

察後や治療の合間には、患者の生活に合わせた対策を検討し、継続していく際に起こる不安や疑問に対し、直接的またはスタッフの指導を通して介入を行った。

毎週（火）腫瘍内科の診察に同席し、治療経過や治療方針の説明に対する受け止め方や理解度を確認し、治療を選択するために大切にしていることを聴取し、納得して病気に向かうことができるよう努めている。病棟では、医師から病名の告知、治療方針の説明時に同席し、病気や治療に対する受け止め方や理解度の確認、治療方法に対する不安に対応できるようにし、がん患者指導管理料イの算定につなげている。外来では算定はなかった。

2) 化学療法室に勤務する看護師や病棟でがん化学療法に携わる看護師の相談に対応している。投与管理、曝露対策に関する相談が多かった。

3) 看護研究発表はなかった。

4) 学会参加

日本癌治療学会学術集会

日本がん看護学会

院内研修

ラダー 新人教育（船木）

ラダーⅢ がん看護（奈良）

外来勉強会（船木）

秋田県がん化学療法看護セミナー（今年度の開催はなし）

自己研鑽

2020年7月～2021年6月特定行為研修(奈良)

2021年11月薬物療法看護認定看護師へ移行手続き完了

5) がん看護専門看護師、緩和ケア認定看護師、慢性心不全看護認定看護師と協働し、看護相談外来を開設した。看護外来利用患者は2名、延べ件数は10件であった。

【課題】

化学療法室が移転してから2年が経過し、実施件数を維持した。投与管理に携わるスタッフを指導し、确实・安全にがん化学療法を行った。がん化学療法による副作用は未だ辛い思いをする患者が多く、安楽な面に対しては十分な介入ができていない。今後は、副作用の確認を継続して行い、セルフケア支援につなげていく必要があると考える。がん薬物療法認定薬剤師と連携しながら、患者・家族が安心して治療を継続していくためのサポートを継続して行っていく。

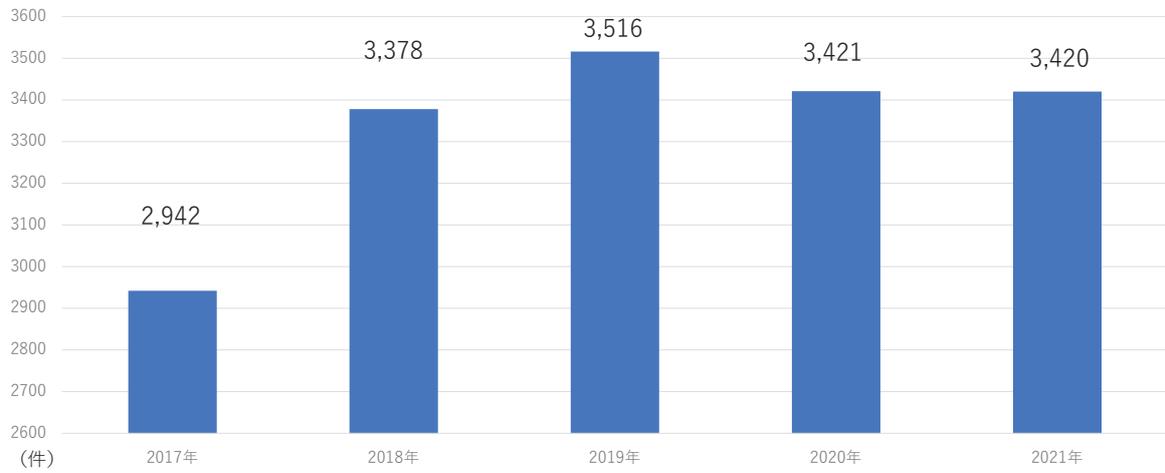
がん患者指導管理料イについて、外来ではタイムリーに対応できず診療報酬への参加ができていない。治療開始前から介入できるよう同席の機会をつくり、がん患者指導管理料ロの算定へつなげていくことが課題である。

看護相談外来開設ができたが、利用患者が少ないため、看護外来の紹介を勧め、稼働件数を増やしていくことが課題である。

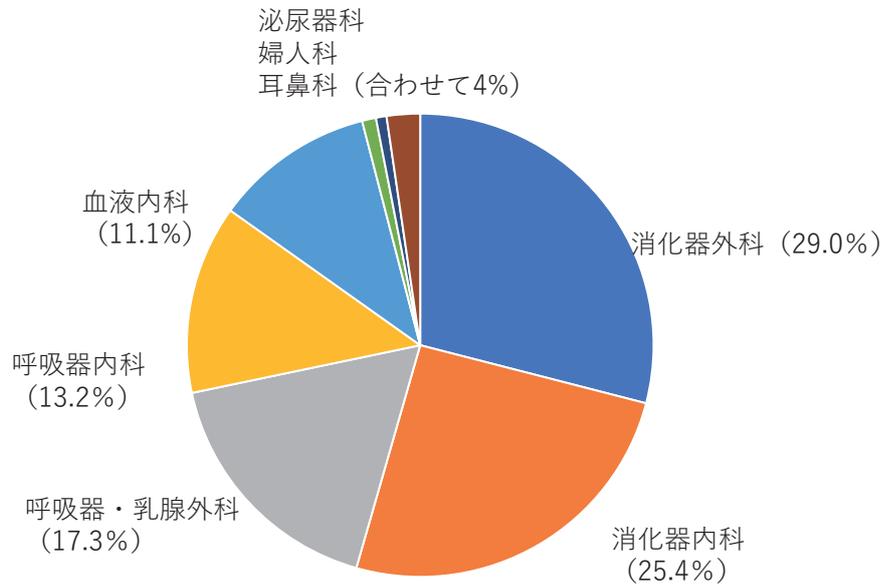
患者・家族が日常生活を送りながら、治療を継続していけるよう、1人1人の患者を大切に、寄り添いながら活動していきたい。

記 船木 弥生

外来化学療法件数



2021年 科別内訳



〈皮膚・排泄ケア看護認定看護師〉

皮膚・排泄ケア認定看護師 菅原 舞
小玉 丈

【目 的】

皮膚・排泄ケア（WOC）領域において、個人、家族及び集団に対して専門的な看護ケアの実践・指導・相談を行う。

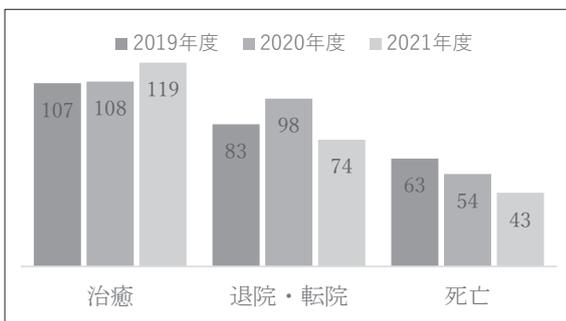
【活動内容】

1) Wound（創傷）褥瘡管理

- ①褥瘡対策委員会の定例開催（月1回）
- ②褥瘡回診（週1回）
- ③褥瘡ハイリスク患者カンファレンス開催
- ④体圧分散寝具の整備・管理
- ⑤褥瘡に関する診療計画書の立案と評価
- ⑥褥瘡対策マニュアル改訂
- ⑦褥瘡ケアに関する研修会の開催

2021年度褥瘡報告233名、院内発生126名（54%）前年度より6ポイント増加、持ち込み107名（46%）。週1回程度、褥瘡対策委員会メンバーで褥瘡回診を実施。119名が治癒している。2020年度の褥瘡治癒率54.0%（図4.5）。

過去3年間の褥瘡転帰



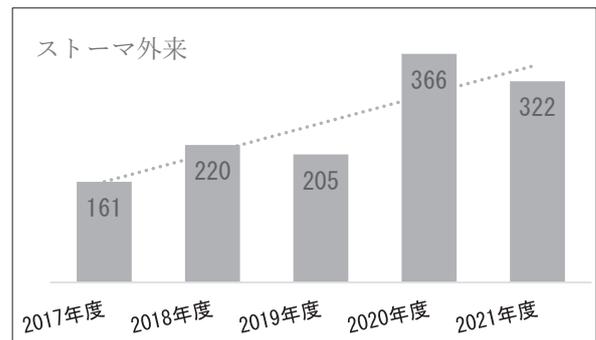
褥瘡治癒率：調査年に治癒した褥瘡数/調査年に存在した全ての褥瘡保有患者数×100



2) Ostomy（ストーマ）

- ①オストメイトと家族に対する術前訪問
- ②ストーマサイトマーキングを実施する病棟看護師のサポート
- ③ストーマケア勉強会の開催
- ④ストーマケアの実践、セルフケア指導、スキントラブルなど合併症の相談
- ⑤ストーマ外来（毎週月・水・木）
- ⑥訪問看護師と同行訪問

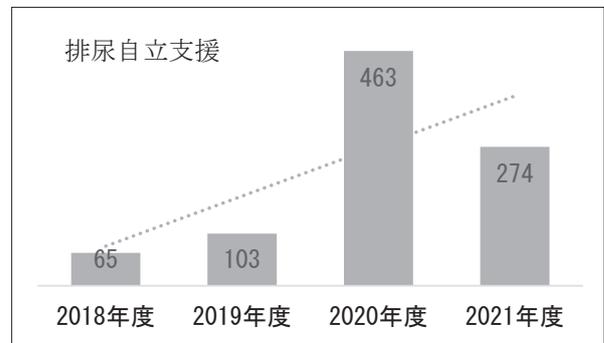
過去5年間のストーマ外来延べ人数



3) Continence（排泄）

- ①排尿ケアカンファレンス（週1回）
排尿ケアチーム（2018年10月～活動開始）
・泌尿器科医師3名
・皮膚・排泄ケア認定看護師2名
・講習を受けた専任看護師1名
・理学療法士2名
- ②自己導尿指導
- ③下部尿路機能アセスメントの相談

排尿ケアチームが介入した延べ人数



記：菅原 舞

〈慢性呼吸器疾患看護認定看護師〉

【目的】

- ・安定期、増悪期、終末期の各病期に応じた呼吸機能の評価及び呼吸管理
- ・呼吸機能維持、向上のための呼吸リハビリテーションの実施
- ・急性増悪予防のためのセルフケア支援

【活動内容】

1. 人工呼吸器管理、誤嚥性肺炎予防、禁煙指導、HOT（在宅酸素療法）導入指導等、呼吸器ケアが安全・安楽・確実に実践されるようスタッフからの相談を受ける
2. 院内外における呼吸器フィジカルアセスメント、人工呼吸器管理、誤嚥性肺炎看護、受動喫煙等の研修会の開催
3. 研修会、研究会における症例検討の取り組み
4. 自己研鑽のための学会参加
5. 週1回実施されるRST(人工呼吸器サポートチーム)ラウンド、月1回実施されるRST定例会への参加
6. 認定看護師会から認定看護師の役割発信、コンサルテーション体制の構築
7. 週1回の呼吸器内科外来での呼吸器疾患患者及び家族を対象とした相談窓口での活動
8. HOT（在宅酸素療法）導入患者への退院指導

今年で慢性呼吸器疾患看護認定看護師としての活動を開始してから8年目となりました。平成30年に正式にRST（Respiratory Support Team）を立ち上げさせて頂いてから6年目となり、コロナ禍でチームでの活動が難しい状況の中、メンバーと協力し、チーム活動が僅かずつではありますが周知されてきました。その為、立ち上げ当初ではラウンド対象者が呼吸器内科の患者様だけであったのに対して、現在で

は呼吸器内科以外の病棟や他科の患者様の呼吸ケアについてコンサルトを受ける機会が増加傾向にあり、更に他部門の認定看護師が必要に応じてラウンドに参加するようになったことで疾患や病棟の枠を超えて活動の幅を拡大することができるようになりました。チーム立ち上げから様々な問題に直面しながらもメンバーと協力して乗り越え、徐々にではありますが成果が表れてきていると実感しています。

また、近年では病棟業務により活動時間の確保が困難となりましたが、呼吸器内科外来での相談窓口では外来スタッフと協力し、新型コロナウイルスによる感染対策を徹底しながらも患者様の対応をさせて頂きました。特に吸入指導に力を入れており、現在では入院患者様も対象とさせて頂いております。しかし、個人での指導には限界がある為、今後の展望としては認定看護師としての更なる活動時間を確保することで、スタッフへの教育に携わる傍、外来スタッフや薬剤科と連携し、適切な吸入指導を外来で実施することで慢性呼吸器疾患患者様とそのご家族の精神的・身体的苦痛の緩和に僅かにでも貢献できればと考えています。

日々、活動をしていく中で慢性呼吸器疾患はゆっくり進行していくケースが多くを占めます。そのため、慢性呼吸器疾患患者の多くは残された人生を自分の疾患と向き合っていかなければなりません。その患者の精神的・身体的苦痛は健常者にとっては驚嘆に値することと思います。患者の苦痛を最大限に緩和しQOL（生活の質）を維持・向上させるのが我々医療従事者と思っています。今後も慢性呼吸器疾患患者のために呼吸器ケアレベルが向上するよう尽力したいと思います。

記：小林 範大

〈慢性心不全看護認定看護師〉

【目 的】

日本は超高齢社会を迎え、心不全は加齢とともに有病率が増加し「心不全パンデミック」が到来している。

心不全パンデミックの背景として、高齢者が増加し高血圧症、脂質異常症、糖尿病など冠危険因子を持つ人の割合が上昇し、急性冠症候群が増加していること、さらに、急性期治療が進歩し慢性的な経過をたどることも挙げられる。表1に示した傷病分類別医科診療医療費において、循環器系の疾患が最も多い結果となっている。また、死亡原因における循環器疾患の割合では、心疾患の死因順位は第2位となっている。このような状況を踏まえ2019年「健康寿命の延伸等を図るための脳卒中、心臓病その他の循環器病に係る対策に関する基本法」が施行され心不全の一次予防が重視されている。

【活動内容】

1. 心不全看護の実践・相談・指導
 - 1) 心不全増悪因子へのセルフケア指導、生活調整
 - 2) 多職種連携
退院前カンファレンスへの参加：心不全による症状や日常生活の管理についての不安や悩み相談、受診行動の目安の提示
 - 3) 新人教育研修会：循環・呼吸フィジカルアセスメント講師を担当する。
 - 4) クリニカルラダーⅡ研修会：循環・呼吸フィジカルアセスメント講師を担当する。
 - 5) 秋田県内における循環器疾患に関する、医療と社会、福祉のニーズに対応した知識と技術の向上に貢献することを目的とした「秋田県循環器ケア研究会」を立ち上げ発足した。由利組合総合病院を会場に、第1回心不全セミナーを開催した。その際、心不全の病態生理について講師を担当した。

2. 北海道・東北地域慢性心不全看護認定看護師代表3期目
Zoom会議の開催
全国慢性心不全看護認定看護師会へ参加
テーマ「心不全地域連携パス」について
3. 研究活動
心不全患者の在宅療養支援に関する調査研究
地域機関病院・病院・かかりつけ医院・訪問看護施設における在宅心不全療養支援（共同研究者）
4. 執筆活動
日総研出版：重症集中ケア
テーマ「心不全地域医療連携の実際」について

【課 題】

2021年4月より訪問看護ステーション勤務となっている。実際に地域で生活している心不全患者は、心不全ステージ分類（表2）におけるB・Cのステージであることがほとんどである。このステージの患者の多くは、日常生活動作としては低下を認めず、介護を必要とする状態ではない。しかし、実際には、もし生活調整の支援を受けることができたら、心不全急性増悪を回避できたのではないかという事例もある。

日々の生活の中に困難な課題があることで急性増悪による再入院を招いている。患者の退院後の生活の中に支援が必要な場面はないか、解決すべき隠れた問題点はないか、生活環境をよく知る関わりが、入院生活、地域での生活を支える専門職に求められている。

記：進藤 一志

表1 循環器病に係る統計

厚生労働省：循環器病対策の現状について 循環器病に係る統計を基に作成

項目	1位	2位	3位	循環器病
死因原因における循環器疾患の割合	悪性新生物 27.4%	心疾患 15.3%	老衰 8.0%	
介護が必要となった原因の構成割合	認知症 18.0%	脳血管疾患 16.6%	高齢による衰弱 13.3%	心疾患4.6% 循環器病 21.2%
傷病分類別医科診療医療費	循環器系の 疾患 19.7%	悪性新生物 14.2%	筋骨格系 7.9%	

表2 心不全の進展ステージ

急性・慢性心不全診療ガイドライン：心不全とそのリスクの進展ステージを基に作成

ステージA	器質的心疾患のないリスクステージ 危険因子あり 器質的心疾患なし 心不全兆候なし	↓
B	器質的心疾患のあるリスクステージ 器質的心疾患あり 心不全兆候なし	↓
C	心不全ステージ 器質的心疾患あり (既往も含む)	↓
D	治療抵抗性心不全ステージ 治療抵抗性 (難治性・末期) 心不全	

病院の概況

病 院 の 概 況

令和4年11月1日現在

病院名		JA秋田厚生連 秋田厚生医療センター		開設者		秋田県厚生農業協同組合連合会			
所在地		秋田県秋田市飯島西袋一丁目1番1号		代表理事		事務部長 小野地 章一			
開設年月日		平成12年6月1日		医療機関コード		0114424			
許可病床数及び看護基準	種別	許可病床数	看護基準等	郵便番号	011-0948		電話番号	018-880-3000	
	一般	373床	急性期一般入院科 I ハイケアユニット入院医療管理科1 地域包括ケア病棟入院科2	病院及び付属施設の状況	施設名	敷地面積	建物面積		
	感染症	2床			病院	100,259.90㎡	37,637.67㎡		
	ハイケアユニット	6床			車庫	178.51㎡	79.20㎡		
	地域包括	50床							
合計	431床								
指定項目		許可年月日		計		100,438.41㎡		37,716.87㎡	
各種指定・施設基準の状況	第二種感染症指定医療機関		平成12年 6月 1日	標榜科目 (27科)	血液内科、精神科、神経内科、呼吸器内科、消化器内科				
	救急告示病院		平成12年 7月14日		循環器内科、糖尿病・代謝内科、腎臓内科、小児科、消化器外科				
	基幹型臨床研修病院		平成15年10月27日		呼吸器・乳腺外科、整形外科、脳神経外科、心臓血管外科				
	がん診療連携拠点病院		平成21年 2月23日		小児外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科				
	訪問看護ステーション		平成12年 7月 1日		リハビリテーション科、放射線科、放射線治療科、麻酔科、緩和ケア内科、病理診断科、腫瘍内科				
	指定居宅介護支援事業所		平成13年 4月 1日						
	ペースメーカー移植術、交換術		平成12年 6月 1日						
	大動脈バルーンパンピング法(IABP)		平成12年 6月 1日						
	麻酔管理科(I)		平成12年 6月 1日						
	重症者等療養環境特別加算		平成12年 6月 1日						
	開放型病院共同指導科(II)		平成13年 9月 1日						
	画像診断管理加算1		平成14年 4月 1日						
	小児食物アレルギー負荷検査		平成18年 4月 1日						
	ハイリスク妊娠管理加算		平成20年 4月 1日						
	医療機器安全管理科1		平成20年 4月 1日						
	無菌製剤処理科		平成20年 4月 1日						
	ハイリスク分娩管理加算		平成20年 4月 1日						
	コンタクトレンズ検査科1		平成20年 4月 1日						
	ニコチン依存症管理科		平成20年 9月 1日						
	がん性疼痛緩和指導管理科		平成22年 4月 1日						
	地域連携夜間・休日診療科		平成22年 4月 1日						
	抗悪性腫瘍剤処方管理加算		平成22年 4月 1日						
	HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)		平成22年 4月 1日						
	薬剤管理指導科		平成22年 7月 1日						
	外来化学療法加算1		平成22年11月 1日						
	乳がんセンチネルリンパ節加算1・2		平成23年 2月 1日						
	がん治療連携計画策定科		平成23年 3月 1日						
	検体検査管理加算(IV)		平成23年 5月 1日						
	無菌治療室管理加算1・2		平成24年 4月 1日						
	運動器リハビリテーション科(I)		平成24年 4月 1日						
	心大血管疾患リハビリテーション科(I)		平成24年 4月 1日						
	脳血管疾患等リハビリテーション科(I)		平成24年 4月 1日						
	呼吸器リハビリテーション科(I)		平成24年 4月 1日						
	CT撮影及びMRI撮影・冠動脈CT撮影加算		平成24年 4月 1日						
	早期悪性腫瘍大腸粘膜炎下層剥離術		平成24年 4月 1日						
	輸血管理科I・輸血適正使用加算(H25.7/1)		平成24年 4月 1日						
	人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算		平成24年 4月 1日						
	患者サポート体制充実加算		平成24年 6月 1日						
	がん患者リハビリテーション科		平成24年 6月 1日						
	データ提出加算2		平成24年10月 1日						
糖尿病透析予防指導管理科		平成24年12月 1日							
院内トリアージ実施科		平成25年 9月 1日							
腫瘍脊椎骨全摘術		平成25年 9月 1日							
小児入院医療管理科4		平成25年12月 1日							
がん患者指導管理科I・ロ・ハ		平成26年 4月 1日							
透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算		平成26年 5月 1日							
在宅療養後方支援病院		平成26年 5月 1日							
高エネルギー放射線治療		平成27年 4月 1日							
胃瘻造設術(胃瘻造設時嚥下機能評価加算)		平成28年 4月 1日							
下肢末梢動脈疾患指導管理加算		平成28年 4月 1日							
精神疾患診療体制加算		平成28年 4月 1日							
持続血糖測定器加算及び皮下連続式グルコース測定		平成29年 3月 1日							
放射線治療専任加算		平成29年 5月 1日							
外来放射線治療加算		平成29年 5月 1日							
1回線量増加加算		平成29年 5月 1日							
呼吸ケアチーム加算		平成29年 7月 1日							
画像誘導放射線治療加算		平成29年10月 1日							
時間内歩行試験及びシヤトルウォーキングテスト		平成30年 2月 1日							
医療安全対策加算1(医療安全対策地域連携加算1)		平成30年 4月 1日							
褥瘡ハイリスク患者ケア加算		平成30年 4月 1日							
後発医薬品使用体制加算1		平成30年 4月 1日							
入退院支援加算1(入院時支援加算)		平成30年 4月 1日							
人工腎臓		平成30年 4月 1日							
導入期加算1		平成30年 4月 1日							
診療録管理体制加算1		平成30年 6月 1日							
悪性腫瘍病理組織標本加算		平成30年 7月 1日							
後縦帯骨化症手術(前方進入によるもの)		平成30年10月 1日							
腹腔鏡下膀胱尾部腫瘍切除術		平成30年10月 1日							
外来排尿自立指導科		平成30年10月 1日							
排尿自立支援加算		平成30年10月 1日							
定位放射線治療		令和元年 7月 1日							
定位放射線治療呼吸性移動対策加算		令和元年 7月 1日							
体外照射呼吸性移動対策加算		令和元年 7月 1日							
病棟薬剤業務実施加算1		令和元年12月 1日							
脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術		令和2年 3月 1日							
職員の状況(換算数/9月末日現在)				職員の状況	職 種	常勤	常嘱	非常勤	計
				医 師	67	16.4	13.9	97.3	
				臨 床 研 修 医	15		2.0	17.0	
				保 健 師・助 産 師	23		1.0	24	
				看 護 師	360		21.6	381.6	
				准 看 護 師	1		4.9	5.9	
				医 療 技 術 員	106		4.1	110.1	
				事 務 職 員	37		24.4	61.4	
				技 能 職 員	1			1.0	
				助 手 職 員			65.9	65.9	
				現 業 職 員			0.7	0.7	
				訪問看護ステーション	4			4.0	
				居宅介護支援事業所	1		2.0	3.0	
				計	615	16.4	140.5	771.9	
患者取扱状況				外来	令和4年9月末		(前年同期)		
				延人数	120,131人		118,265人		
				1日当り人員	977人		969人		
				入院	延人数		68,527人		
				1日当り人員	374人		360人		
状況(保健)				令和4年3月末人員	22,452人				
健康保険				(前年同期)	20,717人				
医療施設				病院数	22	病床数	5,332床		
健康保険				主たる病院名 秋田大学医学部附属病院 秋田赤十字病院、市立秋田総合病院、中通総合病院					
地域の状況				市町村数	3市3町1村				
				人口	381,311人				
				農協数	2JA				
				組合員戸数:24,898戸、組合員数:26,990人(准組合員含む)					
基本理念				患者さん中心の医療を実践します					
				質の高い医療を提供します					
基本方針				一、医療の倫理を重視し安全で良質な医療を提供します					
				二、24時間体制で救急医療を推進します					
				三、病診連携・病病連携・福祉介護施設との連携を推進します					
				四、研鑽と研修に努め信頼され選ばれる病院を形成します					
				五、次代の医療を担う人材を育成します					
				六、誇りと働きがいを持てる魅力ある職場を構築します					
				七、健全な労働環境の形成と効率的な経営を実践します					
椎間板内酵素注入療法				令和2年 4月 1日					
膀胱水圧拡張術				令和2年 4月 1日					
救急医療管理加算				令和2年 4月 1日					
せん妄・ハイリスク患者ケア加算				令和2年 4月 1日					
地域医療体制確保加算				令和2年 4月 1日					
救急搬送看護体制加算				令和2年 4月 1日					
心臓ペースメーカー指導管理料の注5に									
規定する遠隔モニタリング加算				令和2年 5月 1日					
栄養サポートチーム加算				令和2年 6月 1日					
婦人科特定疾患治療管理料				令和2年 8月 1日					
認知症ケア加算3				令和2年 8月 1日					
医師事務作業補助体制加算1(15:1)				令和2年10月 1日					
病理診断管理加算1				令和3年 2月 1日					
病理診断管理加算2				令和3年 2月 1日					
遺伝学的検査				令和3年 2月 1日					
BRCA1/2遺伝子検査				令和3年 3月 1日					
急性期看護補助体制加算(50:1)				令和3年 4月 1日					
外来栄養食事指導料の注2				令和3年 6月 1日					
がん患者指導管理料ニ				令和3年 7月 1日					
遺伝カウンセリング加算				令和3年10月 1日					
遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する				令和3年10月 1日					
子宮内臓器腫瘍摘出術									
連携充実加算				令和4年 4月 1日					
緑内障手術(水晶体再建術併用ドレーン挿入術)				令和4年 4月 1日					
感染対策向上加算1				令和4年 4月 1日					
(指導強化加算)									
外来腫瘍化学療法診療科1				令和4年 4月 1日					
看護補助体制充実加算				令和4年 6月 1日					
看護職員夜間配置加算(16:1)				令和4年10月 1日					

2021年 年間の歩み

事業経過報告

令和3年4月1日～令和4年3月31日

月	日	行	事
4月	1日	定期人事異動・新採用医師辞令交付式	
	〃	新採用職員辞令交付式	
5月	14日	厚生連 内部監査(令和2年度決算)	
7月	12日	厚生連 内部監査(個人情報・病院情報システム)	
8月	5日	医療法第25条第1項に基づく立入調査	
	21日	初期臨床研修医採用試験(1回目)	
	28日	〃 (2回目)	
10月	1日	人事異動に伴う辞令交付式	
	24日	電気設備法定点検	
11月	9日	厚生連 監事監査(令和3年度上期)	
12月	1日	厚生連 内部監査(令和3年度上期)	
	16日	永年勤続者表彰式	
1月	14日	卒後臨床研修評価受審	
2月	17日	厚生連 資産査定(令和3年度)	
	24日	令和3年度第1回事業継続計画(BCP)訓練(机上)	
3月	16日	院内学術大会	
	31日	定年退職者辞令交付式	

※管理者会議第2・4火曜日開催

経営戦略会議第3火曜日開催

院内感染対策委員会・褥瘡委員会・衛生委員会

医療事故対策委員会等毎月開催

病 院 統 計

【経営分析表】

		元年度	2年度	3年度
入院	診療日数 (日)	366	365	365
	延人員 (人)	153,645	140,184	132,945
	一日当 (人)	420	384	364
	単 価 (円)	55,690	59,757	61,185
外来	診療日数 (日)	239	243	243
	延人員 (人)	257,318	233,688	237,962
	一日当 (人)	1,077	962	979
	単 価 (円)	15,769	16,099	16,551
訪問	延人員 (人)	4,013	4,621	4,210
	一日当 (人)	17	19	17
	単 価 (円)	9,088	8,840	8,798
居宅	件 数 (件)	1,028	1,148	1,211
	1ヶ月当 (件)	86	96	101
	単 価 (円)	17,050	16,483	16,342
人件費 対 医療収益 (%)		46.88	47.12	46.89
材料費 //		27.29	27.16	28.22
医薬品費 //		16.40	15.72	17.15
医療材料費 //		9.98	10.46	10.17
給食材料費 //		0.55	0.52	0.50
医療消耗備品費 //		0.36	0.46	0.40
経費 //		16.51	16.94	17.45
研究研修費 //		0.49	0.19	0.16
減価償却費 //		3.81	3.98	3.63
支払利息 //		0.24	0.03	0.03

【損益計算書】

(千円)

	元年度	2年度	3年度
医業収益	13,014,385	12,493,989	12,428,953
入院診療収益	8,556,435	8,376,988	8,134,189
室料差額	100,994	93,189	86,114
外来診療収益	4,057,655	3,762,199	3,938,529
受託検査・施設収益	0	0	0
その他医業収益	95,577	83,782	72,509
保険査定減	-10,241	-8,485	-14,616
保健活動収益	213,965	186,317	212,228
訪問看護収益	36,468	40,851	37,039
老人福祉事業収益	17,527	18,923	19,790
事業外収益	42,529	36,068	32,307
特別利益	140,496	501,208	345,824
収入計	13,251,405	13,091,040	12,863,913

給与費	6,101,397	5,887,787	5,828,460
材料費	3,552,039	3,393,064	3,507,264
委託費	608,747	696,282	710,000
保健活動費用	23,379	15,149	16,732
経費	2,148,892	2,116,897	2,168,692
研究研修費	63,916	23,472	20,489
業務費	867,276	931,936	963,900
設備関係費	1,021,550	1,006,809	1,001,725
(減価償却費)	495,976	497,087	451,424
訪問看護費用	129	179	230
老人福祉事業費	0	0	0
共通管理費	131,478	126,197	139,085
諸引当金繰入	3,831	-7,096	2,792
事業外費用	32,578	6,616	8,510
(支払資金利息)	31,141	4,034	3,252
特別損失	24,656	28,257	30,689
法人税・住民税	3,477	528	1,270
費用計	12,434,454	12,109,179	12,231,147
差引損益	816,951	981,861	632,766

経常利益	13,110,909	12,589,831	12,518,089
経常費用	12,406,321	12,080,394	12,199,188
経常損益	704,588	509,437	318,901

年報 25 号 編集 後 記

令和 3 年度秋田厚生医療センター病院年報第 25 号をここにお届けします。

令和 3 年度も 2 年度に引き続き、日本全国は新型コロナウイルス感染に翻弄された一年でした。年明け早々に新型コロナワクチンの予防接種が始まり、これでコロナウイルスとの闘いに終わりが見えてくるかと思いましたが、令和 4 年の現在においてもなかなか終着点を見いだせないままです。国内では緊急事態宣言の発出やまん延防止等重点措置の適用が繰り返され、飲食店への休業要請やイベントの開催制限、住民の外出自粛要請など、閉塞感が募る一年でした。医療業界では学会の自粛や WEB 開催が普通となり、他県の医師との交流は難しいものとなりました。病院においても、発熱者への受診制限や面会制限措置が取られるなど、現在進行形で患者様には我慢を強いている状態です。

令和 3 年度は、秋田県内は大都市圏のような感染者数にはならず医療崩壊が起きなかったことは幸いだったと思います。しかしそんな中、8 月に当院でクラスターが発生し、収束するまでの約 2 週間、休業を余儀なくされました。その間、不急の患者様には受診を控えて頂き、急を要する方には遠方の医療機関を受診して頂くなど多数ご迷惑をお掛けし、改めて地域拠点病院の責任を感じた次第です。また、他の市中病院の先生方には快く患者様をお引き受けして頂き、大変感謝しております。この場をお借りしてお礼を申し上げます。

令和 3 年度は、ひたすら自粛、という社会生活を送りましたが、令和 4 年の現在では「with コロナ」という考えが広がりつつあります。感染対策をしつつ、上手に経済活動も行う。難しい対応ですが、知力を尽くして、地域の方々に安全な病院を提供し続けたいと思います。

最後に、お忙しいなか、原稿・資料をお寄せくださいました各部門の皆様に感謝申し上げます。

(年報・広報委員長 松本 聖子)

令和5年2月15日

秋田厚生医療センター年報

第25号

発行者 秋田厚生医療センター 院長 遠藤和彦

発行所 秋田厚生医療センター

☎ 011-0948 秋田市飯島西袋一丁目1番1号

☎ (018) 880-3000

印刷製本 秋田印刷製本株式会社

☎ 010-1415 秋田市御所野湯本二丁目1番9号